

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

|                |                |       |      |    |
|----------------|----------------|-------|------|----|
| 受理番号           | 学校             | 教科    | 種目   | 学年 |
| 107-220        | 高等学校           | 国語科   | 古典探究 |    |
| ※発行者の<br>番号・略称 | ※教科書の<br>記号・番号 | ※教科書名 |      |    |
|                |                |       |      |    |

## 1. 編修の基本方針

1. 古典のすぐれた文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. 人間・生命・自然などに目を向けさせ、それらが我が国の伝統的な文化の中でどのように表現されてきたかを知ることができるように配慮した。
5. 歴史的・文化的背景を踏まえて我が国の伝統的な言語文化を捉え、生徒一人一人がその担い手であることを自覚させることを期した。

## 2. 対照表

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色  | 該当箇所  |
|----------|--|---|
| 第一分冊—古文編 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典としてすぐれた作品を採録し、作品の鑑賞を通して、豊かな情操と道徳心を養うことができるよう配慮した(第1号)。</li> <li>・主として随筆・評論教材を通して、真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことにより、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した(第1号)。</li> <li>・「古典のしるべ」を適宜設定し、興味・関心に応じて知識と教養を広げられるようにするとともに、生徒を読書へ誘うようにした(第1号)。</li> <li>・資料編に「文語文法要覧」「和歌の修辞」「俳句の修辞」等を用意し、古文読解に必要な知識を身に付けることができるようにした(第1号)。</li> <li>・資料編の「古典文学史年表」や、見返および本文中の「図録」「地図」等に、写真・図版といった参考資料を用意して、古文読解に必要な知識を身に付けるとともに、伝統と文化に親しめるように配慮した(第1号・第5号)。</li> </ul> | <p>p. 8～284</p> <p>p. 18～29 p. 142～143<br/>p. 220～224 p. 226～231<br/>p. 250～262</p> <p>p. 16 p. 44 p. 56 p. 74 p. 90<br/>p. 101～102 p. 120 p. 136 p. 159<br/>p. 174 p. 218 p. 225 p. 232 p. 262<br/>p. 294～307</p> <p>見返 p. 70～73 p. 88～89<br/>p. 114～115 p. 286～293<br/>巻末①～②①</p> |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語活動」を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした(第2号)。</li> </ul>  | <p>p. 10～11 p. 30 p. 38 p. 49<br/>p. 69 p. 100 p. 112～113<br/>p. 140 p. 157～158 p. 160<br/>p. 173 p. 180～181 p. 182～185<br/>p. 224 p. 236 p. 248</p>  |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典における人間関係や社会理念に深く関わる題材を採録し、生徒が現代にも共通する問題として考えを深められるようにした(第3号)。</li> </ul>   | <p>p. 8～15 p. 18～29 p. 32～43<br/>p. 58～68 p. 75～87 p. 92～99<br/>p. 124～126 p. 142～148<br/>p. 150～156 p. 162～172<br/>p. 176～217 p. 234～247<br/>p. 264～272 p. 274～284</p>   |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代の戦乱を取り上げた題材を採録し、人間の感情の普遍性を読み取ることによって、生徒が倫理や道徳の問題を現実にも即して考察できるよう配慮した(第4号)。</li> <li>・生命や自然に深く関わる題材を採録し、生命・自然を尊重する態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した(第4号)。</li> </ul>   | <p>p. 104～111 p. 116～119<br/>p. 122～123</p> <p>p. 12～13 p. 18～19 p. 22～23<br/>p. 28～29 p. 46～47 p. 50～51<br/>p. 128～135 p. 137～139<br/>p. 170～172 p. 279～284</p>  |
|          |  |   |

|          |  |  |
|----------|--|--|
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主として評論教材を通して、生徒が先人にならって言語文化に対する考えを深められるようにした（第5号）。</li> <li>・各単元の扉に作品・作者などに関する解説欄を設けるとともに、「言語活動」において我が国の伝統的な文化を解説することにより、興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。</li> </ul>   | <p>p. 96～99 p. 220～223<br/>p. 226～231 p. 250～262</p> <p>p. 7 p. 17 p. 31 p. 45 p. 57<br/>p. 91 p. 100 p. 103 p. 121<br/>p. 127 p. 140 p. 141 p. 149<br/>p. 160 p. 161 p. 173 p. 175<br/>p. 219 p. 233 p. 236 p. 248<br/>p. 249 p. 263 p. 273</p> |
| 第二分冊一漢文編 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典としてすぐれた作品を採録し、作品の鑑賞を通して、豊かな情操と道徳心を養うことができるよう配慮した（第1号）。</li> <li>・主として思想教材を通して、真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。</li> <li>・「古典のしるべ」を適宜設定し、興味・関心に応じて知識と教養を広げられるようにするとともに、生徒を読書へ誘うようにした（第1号）。</li> <li>・資料編に「漢文基本句形一覧」「漢文重要語彙一覧」等を用意し、漢文読解に必要な知識を身に付けることができるようにした（第1号）。</li> <li>・資料編の「中国文化史年表」や、見返および本文中の「地図」「図録」等に、写真・図版といった参考資料を用意して、漢文読解に必要な知識を身に付けるとともに、伝統と文化に親しめるように配慮した（第1号・第5号）。</li> </ul> | <p>p. 8～169</p> <p>p. 84～91 p. 142～147</p> <p>p. 26 p. 82 p. 112 p. 148<br/>p. 170</p> <p>p. 176～184</p> <p>見返 p. 52～53 p. 110～111<br/>p. 172～175</p>  |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語活動」を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。</li> </ul>  | <p>p. 14 p. 22～23 p. 36 p. 54<br/>p. 62～63 p. 64～66 p. 79～81<br/>p. 91 p. 92 p. 100 p. 116～117<br/>p. 126 p. 139～140 p. 154<br/>p. 169</p>   |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典における人間関係や社会理念に深く関わる題材を採録し、生徒が現代にも共通する問題として考えを深められるようにした（第3号）。</li> </ul>   | <p>p. 28～35 p. 60～61 p. 68～78<br/>p. 114～125</p>   |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代の戦乱を取り上げた題材を採録し、人間の感情の普遍性を読み取ることによって、生徒が倫理や道徳の問題を現実にも即して考察できるよう配慮した（第4号）。</li> <li>・生命や自然に深く関わる題材を採録し、生命・自然を尊重する態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。</li> </ul>   | <p>p. 9 p. 16～21 p. 24～25<br/>p. 38～51 p. 94～95<br/>p. 102～109 p. 150～153<br/>p. 155～168<br/>p. 56～59 p. 98～99</p>   |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主として故事・寓話教材を通して、生徒が先人にならって言語文化に対する考えを深められるようにした（第5号）。</li> <li>・各単元の扉に作品・作者などに関する解説欄を設けるとともに、「言語活動」において我が国の言語文化に影響を与えた中国の伝統的な文化を解説することにより、興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。</li> </ul>  | <p>p. 8～13</p> <p>p. 7 p. 15 p. 27 p. 36 p. 37<br/>p. 55 p. 64～66 p. 67 p. 83<br/>p. 92 p. 93 p. 101 p. 113<br/>p. 127 p. 139 p. 141 p. 149</p>  |

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材の最後に「学習の手引き」「言葉の手引き」といった課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- ・書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

| 受理番号           | 学校             | 教科    | 種目   | 学年 |
|----------------|----------------|-------|------|----|
| 107-220        | 高等学校           | 国語科   | 古典探究 |    |
| ※発行者の<br>番号・略称 | ※教科書の<br>記号・番号 | ※教科書名 |      |    |
|                |                |       |      |    |

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### ①単元構成・教材選定

- ・「言語文化」で育成された資質・能力をさらに推し進め、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすために、読むことの資質・能力を伸ばすための学びと、我が国の言語文化に対する理解を深めるための学びとが、それぞれ系統的に行えるように教材を配置した。
- ・教育現場の意見・要望を尊重し、学習指導の実態に即応できるよう、古文編と漢文編の別冊形態とした。それぞれの内は学習段階を考慮して二部構成とし、各部分は文種(ジャンル)を基本にした単元構成とした。
- ・古文、漢文の教材の選定にあたっては、生徒の発達段階を考慮して、高校生として知っておくべき評価の定まった作品から、文種、長短、難易などに配慮しつつ厳選することを旨とした。
- ・日本漢詩を取り上げて、我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深められるようにした。
- ・古文の評論や漢文の思想を取り上げて、古典の学習においても文学的文章に偏ることなく、論理的思考力を伸ばすことのできる教材を用意した。
- ・各単元の扉に、該当単元の教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようにした。→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

### ②[知識及び技能]への対応

- ・古文で「言葉の手引き」を設定したり、「重要古語」(古文)や「基本句形」(漢文)を抽出したりして、「A 読むこと」の内容と関連づけながら、古語の意味や、文語・訓読のきまりなどの知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・「古典のしるべ」に、採録した古典に関連する、解説・現代語訳などの書籍を紹介し、主体的な読書へ導くことができるようにした。
- ・それぞれの分冊の巻末に「資料編」を、巻頭・巻末に「図録」「地図」等を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。

### ③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」の課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
  - \*「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所、内容理解を確認する目的で示した。
  - \*「学習の手引き」は、文章全体の構成や展開の把握、「学習のねらい」に沿った内容の解釈を基本として、生徒のものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりできる設問を用意し、発表したり話し合ったり文章にまとめたりといった活動ができるようにした。

・「学習の手引き」とは別に、「A 読むこと」の言語活動が十分行われることを企図して、「言語活動」を随所に設定し、生徒の主体的・対話的で深い学びを促した(①は古文編の分冊、②は漢文編の分冊を示す。エ【朗読】については「和歌・俳諧」の「学習の手引き」で対応した)。

ア【内容、形式】①p. 10～11 ①p. 69 ①p. 173 ①p. 182～185 ②p. 54

イ【読み比べ】 ①p. 30 ①p. 38～39 ①p. 157～158 ①p. 180～181 ①p. 182～185 ①p. 224  
 ②p. 22～23 ②p. 36 ②p. 62～63 ②p. 79～81 ②p. 91 ②p. 100 ②p. 116～117  
 ②p. 126 ②p. 139～140 ②p. 154 ②p. 169

ウ【創作】 ①p. 140 ②p. 64～66

オ【調査、報告】①p. 69 ①p. 100 ①p. 160 ①p. 182～185 ①p. 236 ①p. 248 ②p. 14 ②p. 36

カ【言葉の変遷】①p. 49 ①p. 112～113

キ【名句・名言】②p. 92

## 2. 対照表

| 部            | 図書の構成・内容               |                             | 学習指導要領の内容 |           |              |             | 該当箇所      | 配<br>当<br>時<br>数 |
|--------------|------------------------|-----------------------------|-----------|-----------|--------------|-------------|-----------|------------------|
|              |                        |                             | 知識及び技能    |           | 思考力・表現力・判断力等 |             |           |                  |
|              | 単元                     | 教材                          | (1)       | (2)       | 読むこと(1)      | 読むこと(2)     |           |                  |
| 第一分冊・<br>第I部 | 説話(一)                  | 古今著聞集                       | ア・エ       | イ         | ア・イ          | ア           | p.8-p.9   |                  |
|              |                        | 〔言語活動〕小式部内侍と和泉式部            |           | エ         | キ            | ア           | p.10-p.11 |                  |
|              |                        | 沙石集                         | ア         | イ         | ア・イ・ウ        | ア           | p.12-p.13 |                  |
|              |                        | 今物語                         | ア         | イ         | ア・イ・ウ        | ア           | p.14-p.15 |                  |
|              |                        | 〔古典のしるべ〕仏教と世俗の伝承、そして説話文学の世界 | イ         | ア         |              |             | p.16      |                  |
|              | 随筆(一)                  | 徒然草                         | ア・エ       | ア・イ       | ア・イ・ウ・オ・カ・キ  | ア・イ         | p.18-p.25 |                  |
|              |                        | 方丈記                         | ア・イ・エ     | ア・イ・エ     | ア・イ・ウ・オ・カ・キ  | ア・イ・オ       | p.26-p.29 |                  |
|              |                        | 〔言語活動〕無常観の表現                | イ・エ       | ア         | イ・エ・オ・カ・キ・ク  | イ           | p.30      |                  |
|              | 物語(一)                  | 伊勢物語                        | ア・イ・エ     | イ         | ア・イ          | ア           | p.32-p.41 |                  |
|              |                        | 〔言語活動〕読み比べる・伊勢物語            | ア         | エ         | エ・キ          | イ           | p.38-p.39 |                  |
|              |                        | 大和物語                        | ア・イ       | イ         | ア・イ・ウ        | ア           | p.42-p.43 |                  |
|              |                        | 〔古典のしるべ〕平安時代前期の物語文学         | イ         | ア         |              |             | p.44      |                  |
|              | 随筆(二)                  | 枕草子                         | ア・イ       | ア・イ・エ     | ア・イ・オ・キ      | ア・イ         | p.46-p.55 |                  |
|              |                        | 〔言語活動〕古語と現代語を比較する           | ア         | ウ         | ク            | カ           | p.49      |                  |
|              |                        | 〔古典のしるべ〕三大随筆の文学史とその多彩な世界    | イ         | ア         |              |             | p.56      |                  |
|              | 物語(二)                  | 源氏物語                        | ア         | イ         | ア・イ          | ア           | p.58-p.68 |                  |
|              |                        | 〔言語活動〕『源氏物語』と政治             |           | エ         | エ・キ          | ア・オ         | p.69      |                  |
|              |                        | 〔古典のしるべ〕天皇・后妃の呼称            |           | ア         |              |             | p.74      |                  |
|              |                        | 大鏡                          | ア・イ       | イ         | ア・イ・ウ        | ア           | p.75-p.87 |                  |
|              |                        | 〔古典のしるべ〕歴史物語の登場             | イ         | ア         |              |             | p.90      |                  |
| 日記(一)        | 紫式部日記                  | ア                           | イ         | イ・ウ       | ア            | p.92-p.95   |           |                  |
|              | 更級日記                   | ア                           | イ         | ア・イ       | ア            | p.96-p.99   |           |                  |
|              | 〔言語活動〕貴族の衣服と色          | ア                           | ア         | エ・オ・ウ     | オ            | p.100       |           |                  |
|              | 〔古典のしるべ〕「日記文学」の時代      | イ                           | ア         |           |              | p.101-p.102 |           |                  |
| 物語(三)        | 平家物語                   | ア・イ・エ                       | イ         | ア・イ・カ     | ア            | p.104-p.111 |           |                  |
|              | 〔言語活動〕読み比べる・平家物語       | イ                           | ア・イ・ウ・エ   | エ・オ・キ     | カ            | p.112-p.113 |           |                  |
|              | 義経記                    | ア                           | イ         | ア・イ       | ア            | p.116-p.117 |           |                  |
|              | 〔古典のしるべ〕軍記物語の成立と展開     | イ                           | ア         |           |              | p.120       |           |                  |
| 日記(二)        | 建礼門院右京大夫集              | ア                           | イ         | ア・イ       | ア            | p.122-p.123 |           |                  |
|              | 十六夜日記                  | ア・エ                         | イ・エ       | ア・イ・ウ・エ   | ア・イ          | p.124-p.126 |           |                  |
| 和歌・俳諧        | 万葉集                    | イ・エ                         | ア・イ       | ア・イ       | ア・エ          | p.128-p.130 |           |                  |
|              | 古今和歌集                  | イ・エ                         | ア・イ       | ア・イ       | ア            | p.131-p.133 |           |                  |
|              | 新古今和歌集                 | イ・エ                         | ア・イ       | ア・イ       | ア            | p.134-p.135 |           |                  |
|              | 〔古典のしるべ〕和歌の歌風・特色の移り変わり | イ・エ                         | ア         |           |              | p.136       |           |                  |
|              | 春夏秋冬                   | イ・エ                         | ア・イ       | ア・イ       | ア・エ          | p.137-p.139 |           |                  |
|              | 〔言語活動〕切れ字を使って俳句を作る     | エ                           | ア・イ       | オ         | ウ            | p.140       |           |                  |
| 説話(二)        | 発心集                    | ア                           | イ         | ア・イ・カ     | ア            | p.142-p.143 |           |                  |
|              | 今昔物語集                  | ア                           | イ         | ア・イ       | ア            | p.144-p.145 |           |                  |
|              | 宇治拾遺物語                 | ア                           | イ         | ア・イ       | ア・ウ          | p.146-p.148 |           |                  |
| 随筆(三)        | 枕草子                    | ア                           | ア・イ       | ア・イ       | ア            | p.150-p.156 |           |                  |
|              | 〔言語活動〕読み比べる・十訓抄        | ア                           | ア・エ       | イ・ウ・エ・キ・ク | イ            | p.157-p.158 |           |                  |
|              | 〔古典のしるべ〕撰閣政治と女房、文学     |                             | ア・エ       |           |              | p.159       |           |                  |
|              | 〔言語活動〕貴族の生活と年中行事       |                             | ア         | オ・ク       | オ            | p.160       |           |                  |
| 日記(三)        | 蜻蛉日記                   | ア・イ                         | イ         | イ・カ       | ア            | p.162-p.165 |           |                  |
|              | 和泉式部日記                 | ア                           | イ         | イ・カ       | ア            | p.166-p.169 |           |                  |
|              | 讃岐典侍日記                 | ア                           | イ         | ア・イ       | ア            | p.170-p.172 |           |                  |
|              | 〔言語活動〕平安時代の結婚          |                             | ア         | イ・エ・オ・カ・キ | ア            | p.173       |           |                  |
|              | 〔古典のしるべ〕平安時代の婚姻関係と恋愛   |                             | ア・エ       |           |              | p.174       |           |                  |
| 物語(四)        | 源氏物語                   | ア・エ                         | ア・イ       | ア・イ       | ア・イ          | p.176-p.217 |           |                  |
|              | 〔言語活動〕読み比べる・江談抄        | ア                           | エ         | ウ・エ・キ     | イ            | p.180-p.181 |           |                  |
|              | 〔言語活動〕読み比べる・夕顔(江國香織)   | エ                           | エ         | ウ・キ       | ア・イ・オ        | p.182-p.185 |           |                  |
|              | 〔古典のしるべ〕『源氏物語』以降の物語    | イ                           | ア         |           |              | p.218       |           |                  |
| 評論(一)        | 無名草子                   | ア・ウ                         | イ         | ア・イ       | ア            | p.220-p.223 |           |                  |
|              | 〔言語活動〕読み比べる・紫式部日記      | ア                           | エ         | キ         | イ            | p.224       |           |                  |
|              | 〔古典のしるべ〕清少納言と紫式部       |                             | ア         |           |              | p.225       |           |                  |
|              | 俊頼髓脳                   | ア・ウ・エ                       | イ         | ア・イ       | ア            | p.226-p.227 |           |                  |
|              | 無名抄                    | ア                           | イ         | ア・イ・ウ     | ア            | p.228-p.229 |           |                  |
|              | 毎月抄                    | ア・エ                         | イ         | ア・イ       | ア            | p.230-p.231 |           |                  |
|              | 〔古典のしるべ〕多様な評論          | イ                           | ア         |           |              | p.232       |           |                  |
| 物語(五)        | 大鏡                     | ア・ウ                         | ア・イ       | ア・イ・ウ     | ア            | p.234-p.247 |           |                  |
|              | 〔言語活動〕菅原道真の崇りを調べる      |                             | エ         | キ         | オ            | p.236       |           |                  |
|              | 〔言語活動〕貴族の呼び名—官職と位階—    |                             | ア         | エ・オ       | オ            | p.248       |           |                  |
| 評論(二)        | 風姿花伝                   | ア                           | イ         | ア・イ・カ     | ア            | p.250-p.252 |           |                  |
|              | 去来抄                    | ア・エ                         | イ         | ア・イ       | ア            | p.253-p.255 |           |                  |
|              | 三冊子                    | ア・エ                         | イ         | ア・イ       | ア            | p.256-p.257 |           |                  |
|              | 難波土産                   | ア                           | イ         | イ・オ・カ     | ア            | p.258-p.259 |           |                  |
|              | 源氏物語玉の小櫛               | ア                           | イ         | ア・イ       | ア            | p.260-p.261 |           |                  |
|              | 〔古典のしるべ〕もののはれ論の位置      | エ                           | ア         |           |              | p.262       |           |                  |
| 物語(六)        | とりかへばや物語               | ア・エ                         | イ         | ア・イ       | ア            | p.264-p.267 |           |                  |
|              | 堤中納言物語                 | ア                           | イ         | ア・イ       | ア            | p.268-p.272 |           |                  |
| 近世の小説        | 西鶴諸国ばなし                | ア                           | イ・ウ       | ア・イ・カ     | ア・カ          | p.274-p.278 |           |                  |
|              | 雨月物語                   | ア                           | イ         | ア・イ       | ア            | p.279-p.284 |           |                  |





| 漢字   | 音訓        | 頁  | 漢字   | 音訓       | 頁  | 漢字    | 音訓       | 頁  |
|------|-----------|----|------|----------|----|-------|----------|----|
| 淳和   | じゅんな      | 34 | 愛敬   | あいぎやう    | 46 | 雲隠    | くもがくれ    | 57 |
| 冬嗣   | ふゆつぐ      | 34 | 唐土   | もろこし     | 46 | 薫     | かおる      | 57 |
| 順子   | のぶこ       | 34 | 梨花   | りくわ      | 47 | 匂宮    | におうみや    | 57 |
| 良房   | よしふさ      | 34 | 長恨歌  | ちやうごんか   | 47 | 夢浮橋   | ゆめのうきはし  | 57 |
| 明子   | あきらけいこ    | 34 | 網代   | あじろ      | 48 | 宣孝    | のぶたか     | 57 |
| 乙訓   | おとくに      | 34 | 乳児   | ちご       | 48 | 大宅世継  | おおやけのよつぎ | 57 |
| 大御酒  | おほみき      | 35 | 司    | つかさ      | 48 | 夏山繁樹  | なつやまのしげき | 57 |
| 酔ひ   | ゑひ        | 35 | 前駆   | さき       | 48 | 御時    | おほんとき    | 58 |
| 枚方   | ひらかた      | 35 | 上達部  | かんだちめ    | 48 | 一の皇子  | いちのみこ    | 58 |
| 右馬頭  | うまのかみ     | 36 | 下衆   | げす       | 48 | 男皇子   | をのこみこ    | 59 |
| 翁    | おきな       | 36 | 県召   | あがためし    | 48 | 上衆    | じようず     | 59 |
| 大殿籠ら | おほとのごもら   | 36 | 野分   | のわき      | 50 | 軽き    | かるき      | 59 |
| 御髪   | みぐし       | 37 | 透垣   | すいがい     | 50 | 皇女    | みこ       | 60 |
| 睦月   | むつき       | 37 | 前栽   | せんざい     | 50 | 淑景舎   | しげいしや    | 60 |
| 候ひ   | さぶらひ      | 37 | 倒れ   | たふれ      | 50 | 高麗人   | こまうど     | 61 |
| 貞観   | じようがん     | 37 | 黄朽葉  | きくちば     | 50 | 入内    | じゆだい     | 61 |
| 離れ   | かれ        | 38 | 母屋   | もや       | 50 | 御息所   | みやすどころ   | 61 |
| 童    | わらは       | 38 | 生絹   | すずし      | 50 | 先帝    | せんだい     | 61 |
| 衣    | ぞ         | 38 | 単    | ひとへ      | 50 | 母后    | ははきさき    | 61 |
| 齋宮   | いつきのみや    | 39 | 宿直物  | とのゐもの    | 50 | 后     | きさい      | 61 |
| 子    | ね         | 39 | 文屋   | ふんやの     | 51 | 列     | ためし      | 62 |
| 外    | と         | 39 | 康秀   | やすひで     | 51 | 兄弟    | せうと      | 62 |
| 齋宮頭  | いつきのみやのかみ | 40 | 主殿寮  | とのもづかさ   | 52 | 内裏    | うち       | 62 |
| 尾張   | をはり       | 40 | 御前   | おまへ      | 52 | 切に    | せちに      | 62 |
| 徒人   | かちひと      | 40 | 俊賢   | としかた     | 52 | 飛香舎   | ひぎようしや   | 62 |
| 続松   | ついまつ      | 40 | 長保   | ちようほう    | 52 | 輝く    | かかやく     | 63 |
| 水尾   | みづのを      | 40 | 左兵衛督 | さひやうゑのかみ | 53 | 惟光の朝臣 | これみつのあそむ | 64 |
| 縁    | えに        | 40 | 掌侍   | ないしのじよう  | 53 | 脇息    | けふそく     | 64 |
| 松明   | たいまつ      | 40 | 内侍司  | ないしのつかさ  | 53 | 乳母子   | めのとご     | 64 |
| 姥捨   | をばすて      | 42 | 尚侍   | ないしのかみ   | 53 | 襲     | かさね      | 64 |
| 信濃   | しなの       | 42 | 典侍   | ないしのすけ   | 53 | 山吹    | やまぶき     | 65 |
| 更級   | さらしな      | 42 | 右近衛  | うこんえの    | 53 | 犬君    | いぬき      | 65 |
| 所狭がり | ところせがり    | 42 | 頭弁   | どうのべん    | 54 | 伏籠    | ふせご      | 65 |
| 給び   | たうび       | 42 | 職    | しき       | 54 | 薫きしめる | たきしめる    | 65 |
| 千曲   | ちくま       | 42 | 紙屋紙  | かうやがみ    | 54 | 髪ざし   | かんざし     | 66 |
| 冠着山  | かむりきやま    | 42 | 額    | ぬか       | 54 | 僧都    | そうづ      | 66 |
| 寝    | い         | 43 | 蔵人頭  | くろうどのとう  | 54 | 聖     | ひじり      | 66 |
| 来    | き         | 44 | 陰陽   | おんみよう    | 55 | 按察使   | あぜち      | 66 |
| 祖    | おや        | 44 | 僧正   | そうじよう    | 56 | 消息    | せうそこ     | 67 |
| 落窪   | おちくぼ      | 44 | 伏見   | ふしみ      | 56 | 光吉    | みつよし     | 67 |
| 貞文   | さだぶん      | 44 | 外山   | とやま      | 56 | 団扇    | うちわ      | 71 |
| 枕草子  | まくらのそうし   | 45 | 慮つて  | おもんばかつて  | 57 | 雲林院   | うりんゐん    | 75 |
| 清原   | きはらの      | 45 | 藤裏葉  | ふじのうらば   | 57 | 菩提講   | ぼだいこう    | 75 |

| 漢字   | 音訓          | 頁  | 漢字       | 音訓                | 頁   | 漢字    | 音訓         | 頁   |
|------|-------------|----|----------|-------------------|-----|-------|------------|-----|
| 対面   | たいめ         | 75 | 大宰権帥     | だざいのごんのそち         | 86  | 甲     | かぶと        | 106 |
| 黄泉路  | よみぢ         | 75 | 六国史      | りつこくし             | 90  | 暮の    | ゆふべの       | 106 |
| 太政大臣 | だいじやうのおとど   | 75 | 栄花       | えいが               | 90  | 近江大津宮 | おうみのおおつのみや | 106 |
| 蔵人   | くらうどの       | 75 | 赤染衛門     | あかぞめえもん           | 90  | 重盛    | しげもり       | 107 |
| 小舎人童 | こどねりわらは     | 75 | 増鏡       | ますかがみ             | 90  | 教盛    | のりもり       | 107 |
| 承平   | じやうへい       | 75 | 菅原孝標女    | すがわらのたかすえのむすめ     | 91  | 知盛    | とももり       | 107 |
| 絵詞   | えことば        | 76 | 上総       | かずさ               | 91  | 重衡    | しげひら       | 107 |
| 大犬丸  | おほいぬまる      | 76 | 道真       | みちざね              | 91  | 能登    | のと         | 108 |
| 姓    | さう          | 76 | 夜の寝覚     | よるのねざめ            | 91  | 能登守教経 | のとのかみのりつね  | 108 |
| 侍    | さぶらい        | 77 | 御座       | おまし               | 92  | 直垂    | ひたたれ       | 108 |
| 猛く   | たけく         | 78 | 尿        | しと                | 92  | 大長刀   | おほなぎなた     | 108 |
| 今宵   | こよひ         | 78 | 中務の宮     | なかつかさのみや          | 92  | 下関    | しものせき      | 108 |
| 豊楽院  | ぶらくゐん       | 78 | 敦成       | あつひら              | 92  | 判官    | はうぐわん      | 109 |
| 仁寿殿  | じじゆうでん      | 78 | 具平       | ともひら              | 92  | 屏風    | びようぶ       | 109 |
| 塗籠   | ぬりごめ        | 78 | 日本紀      | にほんぎ              | 94  | 柄     | つか         | 109 |
| 君達   | きんだち        | 78 | 才        | ざえ                | 94  | 大音声   | だいおんじやう    | 110 |
| 益なし  | やくなし        | 78 | 書        | ふみ                | 95  | 安芸郷   | あきのがう      | 110 |
| 従者   | ずさ          | 78 | 惟規       | のぶのり              | 95  | 安芸    | あき         | 110 |
| 宴    | うたげ         | 78 | 継母       | ままはは              | 96  | 剛     | かう         | 110 |
| 証なき  | そうなき        | 79 | 霧り       | きり                | 96  | 弟     | おとと        | 110 |
| 申して  | まして         | 79 | 常陸       | ひたち               | 96  | 弓手    | ゆんで        | 110 |
| 中関白殿 | なかのくわんぱくどの  | 79 | 上総介      | かずさのすけ            | 96  | 馬手    | めて         | 110 |
| 邸    | やしき         | 79 | 下総       | しもつさ              | 97  | 死途    | しで         | 111 |
| 高御座  | たかみくら       | 80 | 太秦       | うづまさ              | 98  | 甲斐    | かい         | 115 |
| 丙戌   | ひのえいぬ       | 82 | 少女       | おとめ               | 100 | 頼朝    | よりとも       | 116 |
| 神璽   | しんし         | 82 | 表着       | うわぎ               | 100 | 武蔵坊弁慶 | むさしぼうべんけい  | 116 |
| 春宮   | とうぐう        | 82 | 土佐守      | とさのかみ             | 101 | 亡び    | ほろび        | 116 |
| 山科   | やましな        | 82 | 道綱母      | みちつなのはは           | 101 | 弔ひ    | とぶらひ       | 116 |
| 元慶寺  | がんぎようじ      | 82 | 讚岐典侍     | さぬきのすけ            | 101 | 北陸道   | ほくろくだう     | 116 |
| 勾玉   | まがたま        | 82 | 十六夜      | いざよい              | 102 | 従兄    | いとこ        | 116 |
| 天叢雲劍 | あめのむらくものつるぎ | 82 | 後深草院     | ごふかくさいんの          | 102 | 一昨年   | をととし       | 117 |
| 破り   | やり          | 83 | 成尋阿闍梨母   | じようじんあじやりのは       | 102 | 小賢しき  | こぎかしき      | 117 |
| 懷仁   | やすひと        | 83 | 建礼門院右京大夫 | けんれいもんいんのうきよのうだいぶ | 102 | 品     | ぼん         | 117 |
| 安倍   | あべの         | 83 | 詞書       | ことばがき             | 102 | 坂田    | さかたの       | 118 |
| 案内   | あない         | 84 | 信濃前司行長   | しなののぜんじゆきなが       | 103 | 最上川   | もがみがわ      | 118 |
| 武者   | むさ          | 84 | 義経       | よしつね              | 103 | 将門    | まさかど       | 120 |
| 辺    | わたり         | 84 | 祇園精舎     | ぎをんしやうじや          | 104 | 曾我    | そが         | 120 |
| 一尺   | ひとさく        | 84 | 理        | ことわり              | 104 | 資盛    | すけもり       | 121 |
| 町    | まちの         | 85 | 忠度       | ただのり              | 104 | 伊行女   | これゆきのむすめ   | 121 |
| 帥殿   | そちどの        | 86 | 薩摩守      | さつまのかみ            | 104 | 冷泉為相  | れいぜいためすけ   | 121 |
| 饗応   | きやうよう       | 86 | 三位       | さんみ               | 104 | 深山    | みやま        | 123 |
| 中心   | なから         | 86 | 体        | てい                | 105 | 手越    | てごし        | 124 |
| 故    | これちか        | 86 | 疎略       | そらく               | 105 | 遠江    | とおうみ       | 124 |
| 伊周   |             |    | 候ふ       | さうらふ              |     | 東下り   | あずまくだり     |     |

| 漢字      | 音訓            | 頁   | 漢字    | 音訓         | 頁   | 漢字   | 音訓        | 頁   |
|---------|---------------|-----|-------|------------|-----|------|-----------|-----|
| 興津      | おきつ           | 125 | 貫之    | つらゆき       | 131 | 役行者  | えんのぎようじや  | 150 |
| 黄楊      | つげ            | 125 | 天地    | あめつち       | 131 | 火焼屋  | ひたきや      | 151 |
| 衝立      | ついたて          | 125 | 武士    | もののふ       | 131 | 衛士   | えじ        | 151 |
| 与謝蕪村    | よさぶそん         | 127 | 凡河内躬恒 | おほしかふちのみつね | 132 | 眠たき  | ねぶたき      | 152 |
| 蒲生野     | かまふの          | 128 | 遍照    | へんぜう       | 132 | 寝    | ぬ         | 152 |
| 遊胤      | みかり           | 128 | 是貞    | これさだ       | 132 | 長女   | をさめ       | 152 |
| 額田王     | ぬかたのおほきみ      | 128 | 深養父   | ふかやぶ       | 132 | 長押   | なげし       | 152 |
| 標野      | しめの           | 128 | 延喜    | えんぎ        | 133 | 響    | ひびき       | 152 |
| 大海人皇子   | おおあまのみこ       | 128 | 式子内親王 | しよくしなにしんわう | 134 | 都良香  | みやこのよしか   | 152 |
| 紫草      | むらさき          | 128 | 隱岐    | おき         | 134 | 御殿   | おとど       | 153 |
| 妹       | いも            | 128 | 曾禰好忠  | そねのよしただ    | 134 | 尺く   | ことごとく     | 153 |
| 山上憶良臣   | やまのうへのおくらのおみ  | 128 | 俊成女   | としなりのむすめ   | 135 | 猶ほ   | なほ        | 153 |
| 罷る      | まかる           | 128 | 義清    | のりきよ       | 135 | 九品蓮台 | くほんれんだい   | 154 |
| 山部宿禰赤人  | やまべのすくねあかひと   | 128 | 雅経    | まさつね       | 135 | 下品   | げぼん       | 154 |
| 象山      | きさやま          | 128 | 夫     | つま         | 136 | 唯だ   | ただ        | 154 |
| 際       | ま             | 128 | 難波    | なには        | 136 | 以つて  | もつて       | 154 |
| 木末      | こぬれ           | 128 | 井原西鶴  | みはらさいかく    | 137 | 為す   | なす        | 154 |
| 東近江     | ひがしおうみ        | 128 | 置土産   | おきみやげ      | 137 | 応に：し | まさに：べし    | 154 |
| 筑前守     | ちくぜんのかみ       | 128 | 向井去来  | むかみきよらい    | 138 | 慶滋保胤 | よししげのやすたね | 154 |
| 大伴旅人    | おおとものだびと      | 128 | 服部嵐雪  | はつとりらんせつ   | 138 | 炭櫃   | すびつ       | 156 |
| 聖武      | しようむ          | 128 | 女子    | をなご        | 138 | 看る   | みる        | 156 |
| 柿本朝臣人麻呂 | かきのもとのおそみひとまる | 129 | 灯籠    | とうろ        | 138 | 篤い   | あつい       | 158 |
| 石見      | いはみ           | 129 | 青海苔   | あをのり       | 139 | 路子   | みちこ       | 159 |
| 鯨魚      | いさな           | 129 | 仰のけ   | あふのけ       | 139 | 御精進  | みさうじ      | 160 |
| 海辺      | うみへ           | 129 | 読本    | よみほん       | 139 | 干支   | えと        | 160 |
| 和多豆     | にきたづ          | 129 | 枝折    | しおり        | 139 | 六月祓え | みなづきばらえ   | 160 |
| 荒磯      | ありそ           | 129 | 温み    | ぬくみ        | 140 | 荷前   | のさき       | 160 |
| 八十隈     | やさくま          | 129 | 験     | しるし        | 140 | 倫寧女  | ともやすのむすめ  | 161 |
| 放り      | さかり           | 129 | 寿     | いのち        | 143 | 雅致女  | まさむねのむすめ  | 161 |
| 念ひ      | おもひ           | 129 | 越前守   | ゑちぜんのかみ    | 144 | 頭綱   | あきつな      | 161 |
| 我       | あ             | 129 | 語     | こと         | 144 | 九月   | ながつき      | 162 |
| 小竹      | ささ            | 129 | 受領    | ずりよう       | 144 | 十月   | かみなづき     | 162 |
| 清に      | さやに           | 129 | 微妙    | みめう        | 145 | 二、三日 | ふつかみか     | 162 |
| 依り      | より            | 129 | 指貫    | さしぬき       | 146 | 文箱   | ふばこ       | 162 |
| 大伴家持    | おほとものやかもち     | 129 | 退き    | のき         | 146 | 五、六日 | いつかむいか    | 164 |
| 江津      | ごうつ           | 129 | 股立ち   | ももだち       | 146 | 悪し   | あし        | 164 |
| 天平勝宝    | てんびょうしょうほう    | 129 | 希有    | けう         | 147 | 築土   | ついひじ      | 166 |
| 信濃道     | しなのぢ          | 130 | 字     | あざな        | 147 | 雅致   | まさむね      | 166 |
| 壘道      | はりみち          | 130 | 来     | こ          | 147 | 為尊   | ためたか      | 166 |
| 刈株      | かりばね          | 130 | 芳年    | よしとし       | 147 | 濟時   | なりとき      | 166 |
| 防人歌     | さきもりうた        | 130 | 撰津前司  | せつつのぜんじ    | 148 | 枝    | え         | 167 |
| 幸く      | さく            | 130 | 大殿油   | おほとなぶら     | 150 | 便なげ  | びなげ       | 168 |
| 丈部稻麻呂   | はせつかべのいなまる    | 130 | 頭証    | けそう        | 150 | 明後日  | あさて       | 171 |
| 旋頭歌     | せどうか          | 130 | 葛城    | かづらき       | 150 | 大式三位 | だいにのさんみ   | 171 |

| 漢字      | 音訓             | 頁   | 漢字     | 音訓         | 頁   | 漢字    | 音訓            | 頁   |
|---------|----------------|-----|--------|------------|-----|-------|---------------|-----|
| 懺悔      | ざんげ            | 171 | 常陸介    | ひたちのすけ     | 197 | 昼     | ひ             | 243 |
| 家範      | いえのり           | 171 | 賢木     | さかき        | 197 | 大山積   | おおやまづみの       | 243 |
| 後朝      | きぬぎぬ           | 173 | 毎に     | ごとに        | 197 | 公信    | きんのぶの         | 246 |
| 餅       | もちい            | 173 | 秋好     | あきこのむ      | 199 | 近衛少将  | このえのしょうしょう    | 248 |
| 露頭      | ところあらわし        | 173 | 花散里    | はなちるさと     | 199 | 宰相中將  | さいししょうのちゅうしょう | 248 |
| 有職故実    | ゆうそくこじつ        | 175 | 屈しつる   | くしつる       | 200 | 太政大臣  | おおきおとど        | 248 |
| 虜       | とりこ            | 176 | 住吉     | すみよし       | 200 | 足利義満  | あしかがよしみつ      | 249 |
| 魔除け     | まよけ            | 176 | 侮らはしかる | あなづらはしかる   | 201 | 賀茂真淵  | かものまぶち        | 249 |
| もの怖ぢ    | ものおぢ           | 177 | 本意     | ほんい        | 201 | 童形    | どうぎやう         | 250 |
| 弓弦      | ゆづる            | 178 | 頰杖     | つらづゑ       | 204 | 児     | ちご            | 251 |
| 宿直奏し    | とのみまうし         | 178 | 階      | きざはし       | 207 | 申樂    | さるがく          | 251 |
| 物の怪     | もののけ           | 179 | 階      | はし         | 207 | 立合    | たちあひ          | 251 |
| 対へて     | こたへて           | 180 | 蘇芳     | すおう        | 207 | 側みたる  | そばみたる         | 251 |
| 欲ふ      | おもふ            | 180 | 衛門督    | ゑもんのかみ     | 208 | 栗原信充  | くりはらのぶみつ      | 253 |
| 退り      | まかり            | 180 | 御法     | みのり        | 212 | 出来    | しゅつたい         | 255 |
| 件       | くだん            | 180 | 勝朗     | かつお        | 212 | 己     | おの            | 257 |
| 扶け      | たすけ            | 180 | 大君     | おおいぎみ      | 214 | 虚実皮膚論 | きよじつひにくのろん    | 258 |
| 能はず     | あたはず           | 180 | 黄鐘調    | わうしきでう     | 214 | 虚     | うそ            | 258 |
| 了んぬ     | をはんぬ           | 180 | 傾きかかりて | かたぶきかかりて   | 216 | 皮膚    | ひにく           | 258 |
| 河原院     | かわらのいん         | 181 | 狭衣     | さごろも       | 218 | 情     | こころ           | 260 |
| 灯し      | ともし            | 182 | 光起     | みつおき       | 223 | 空蟬    | うつせみ          | 260 |
| 妃       | きさき            | 186 | 墮ち     | おち         | 225 | 泥水    | ひぢみづ          | 261 |
| 網代      | あむじろ           | 186 | 従り     | より         | 226 | 為章    | ためあきら         | 262 |
| 汗衫      | かざみ            | 186 | 冥き     | くらき        | 226 | 双六    | すぐるく          | 264 |
| 口強く     | くちごはく          | 187 | 伊丹     | いたみ        | 227 | 埋もれ   | むもれ           | 264 |
| 副車      | ひとだまひ          | 187 | 昆陽     | こや         | 227 | 帳     | とばり           | 264 |
| 筒       | どう             | 187 | 通光     | みちてる       | 231 | 花薄    | はなすすき         | 265 |
| 後目      | しりめ            | 188 | 三冊子    | さんぞうし      | 232 | 惜し    | あたらし          | 269 |
| 執念き     | しふねき           | 190 | 三木貞成   | みきさだしげ     | 232 | 掃墨    | はいずみ          | 271 |
| 驗者      | げんざ            | 190 | 穂積以貫   | ほづみいかん     | 232 | 畳紙    | たたうがみ         | 271 |
| 退き      | しぞき            | 190 | 本居宣長   | もとりのりなが    | 232 | 装束    | さうぞ           | 271 |
| 釈迦      | しゃか            | 190 | 石上私淑言  | いそのかみささめごと | 232 | 指形    | およびがた         | 271 |
| 帷子      | かたびら           | 191 | 宣旨     | せんじ        | 234 | 拭へば   | のごへば          | 272 |
| 魂       | たま             | 191 | 師輔     | もろすけ       | 234 | 大晦日   | おほつごもり        | 274 |
| 四方      | よも             | 194 | 東風     | こち         | 235 | 直なる   | すぐなる          | 274 |
| 神戸      | こうべ            | 194 | 防府     | ほうふ        | 235 | 半井清庵  | なからぬせいあん      | 274 |
| 続古今集    | しよくこきんしゆ       | 194 | 駅      | むまや        | 236 | 薬師    | くすし           | 274 |
| 四、五人    | よたりいつたり        | 195 | 是れ     | これ         | 236 | 合力    | かうりよく         | 275 |
| 明石      | あかし            | 195 | 勸請     | かんじやう      | 236 | 高砂    | たかさご          | 275 |
| 数珠      | ずず             | 196 | 辱号     | ぞくがう       | 240 | 丸行灯   | まるあんどん        | 276 |
| 民部大輔    | みんぶのたいふ        | 196 | 佐理     | すけまさ       | 242 | 夜更鶏   | よふけどり         | 277 |
| 手鑑      | てかがみ           | 196 | 敦敏     | あつとし       | 242 | 手水鉢   | てうづばち         | 277 |
| 前右近将監   | さきのうこんのぞう      | 197 | 斉敏     | ただとし       | 242 | 下総    | しもうさ          | 279 |
| 二千里外故人心 | じせんりのほかこじんのこころ | 197 | 今治     | いまばり       | 242 | 闇い    | くらい           | 279 |

| 漢字    | 音訓     | 頁   | 漢字             | 音訓                 | 頁   | 漢字    | 音訓        | 頁  |
|-------|--------|-----|----------------|--------------------|-----|-------|-----------|----|
| 離れば   | わかれば   | 279 | 雅              | みやび                | 286 | 第二分冊  | かんぴし      |    |
| 隠れば   | こもれば   | 279 | 太安万侶           | おほのやすまる            | 287 | 韓非子   | しゅんじゅう    | 7  |
| 寡     | やもめ    | 279 | 出雲国            | いずものくに             | 287 | 春秋    | りよししゅんじゅう | 7  |
| 全き    | またき    | 279 | 小野岑守           | おののみねもり            | 288 | 呂氏春秋  | かたう       | 7  |
| 辛苦    | からきめ   | 279 | 順              | したごう               | 288 | 賈島    | のり        | 8  |
| 消息    | おとづれ   | 279 | 打聞             | うちぎき               | 289 | 騎り    | なさんと      | 8  |
| 京     | みやこ    | 279 | 北畠親房           | きたばたけちかふさ          | 291 | 作さんと  | いまだ：ず     | 8  |
| 丈夫    | ますらを   | 279 | 虚栗             | みなしぐり              | 292 | 未だ：ず  | あたる       | 8  |
| 鎖し    | とざし    | 279 | 出世景清           | しゅつせかげきよ           | 292 | 衝たる   | つぶさに      | 8  |
| 成氏    | しげうじ   | 279 | 世間子息気質         | せけんむすこかたぎ          | 292 | 具に    | つぶさに      | 8  |
| 管領    | かんれい   | 279 | 国性爺合戦          | こくせんやかっせん          | 292 | 佳し    | よし        | 8  |
| 実     | む      | 279 | 手習鑑            | てならいかがみ            | 293 | 遂に    | つひに       | 8  |
| 途     | みち     | 280 | 呉陵軒可有          | ごりょうけんあるべし         | 293 | 呉越同舟  | ごゑつどうしう   | 9  |
| 勞れ    | つかれ    | 280 | 金々先生栄花夢<br>のゆめ | きんきんせんせいえいが<br>のゆめ | 293 | 如し    | ごとし       | 9  |
| 天     | そら     | 280 | 江戸生艶氣樺燒<br>やき  | えどうまれうわきのかば<br>やき  | 293 | 者     | は         | 9  |
| 現     | うつつ    | 280 | 新花摘            | しんはなつみ             | 293 | 敢へて   | あへて       | 9  |
| 扉     | と      | 281 | 四谷             | よつや                | 293 | 可き    | べき        | 9  |
| 所     | ど      | 281 | 戯作             | げさく                | 293 | 夫れ    | それ        | 9  |
| 死りて   | まかりて   | 281 | 草双紙            | くさぞうし              | 293 | 与は    | とは        | 9  |
| 鬼の化   | もののけ   | 281 | 洒落             | しやれ                | 293 | 悪む    | にくむ       | 9  |
| 閨房    | ふしど    | 282 | 海道下            | かいだうくだり            | 301 | 濟る    | わたる       | 9  |
| 夜     | よべ     | 282 | 閑かさ            | しづかさ               | 307 | 遇は    | あは        | 9  |
| 三十一文字 | みそひとじ  | 282 | 釣瓶             | つるべ                | 307 | 逆鱗    | げきりん      | 10 |
| 末期    | いまは    | 282 | 歩行             | かち                 | 307 | 為る    | たる        | 10 |
| 漆間    | うるま    | 282 | 独楽             | こま                 | 307 | 然れども  | しかれども     | 10 |
| 高齡    | よはひ    | 282 | 書初             | かきぞめ               | 307 | 若し    | もし        | 10 |
| 寿きて   | ことぶきて  | 282 | 海老             | えび                 | 307 | 能く    | よく        | 10 |
| 詳に    | つばらに   | 283 | 陽炎             | かげろう               | 307 | 幾し    | ちかし       | 10 |
| 築きて   | つきて    | 283 | 雪解             | ゆきどけ               | 307 | 獵     | れうす       | 11 |
| 恩     | めぐみ    | 283 | 公魚             | わかさぎ               | 307 | 将に：す  | まさに：す     | 11 |
| 揮ひ    | ふるひ    | 283 | 雲雀             | ひばり                | 307 | 御     | ぎよ        | 11 |
| 軍民    | いくさびと  | 283 | 沈丁花            | じんちようげ             | 307 | 所謂    | いはゆる      | 11 |
| 烈婦    | さかしめ   | 283 | 蝸牛             | かたつむり              | 307 | 却く    | しりぞく      | 11 |
| 約ひ    | ちかひ    | 283 | 海月             | くらげ                | 307 | 為らん   | ならん       | 11 |
| 閉てこもり | たてこもりて | 283 | 百日紅            | さるすべり              | 307 | 疾     | やまひ       | 12 |
| 樹神    | こたま    | 283 | 紫陽花            | あじさい               | 307 | 為さめ   | をさめ       | 12 |
| 稚き    | わかき    | 283 | 向日葵            | ひまわり               | 307 | 居らば   | をらば       | 12 |
| 矢武    | やたけ    | 283 | 案山子            | かかし                | 307 | 若：何   | いかんせん     | 12 |
| 八月    | はづき    | 283 | 啄木鳥            | きつつき               | 307 | 方たり   | あたり       | 13 |
| 蔵め    | をさめ    | 284 | 秋刀魚            | さんま                | 307 | 若し    | ごとし       | 13 |
| 終焉    | をはり    | 284 | 南瓜             | かぼちゃ               | 307 | 湯湯    | しやうしやう    | 13 |
| 寺院    | てら     | 284 | 銀杏             | いちよう               | 307 | 復た    | また        | 13 |
| 贈号    | おくりな   | 284 | 河豚             | ふぐ                 | 307 | 以為へらく | おもへらく     | 13 |
| 手児女   | てごな    | 284 | 山茶花            | さざんか               | 307 | 為に    | ために       | 13 |

| 漢字   | 音訓       | 頁  | 漢字   | 音訓      | 頁  | 漢字     | 音訓         | 頁  |
|------|----------|----|------|---------|----|--------|------------|----|
| 好    | よしみ      | 14 | 若    | なんぢ     | 24 | 当に…べけん | まさにな…べけん   | 34 |
| 孟参   | もうしん     | 15 | 疾く   | とく      | 24 | 療やす    | いやす        | 35 |
| 鼓腹撃壤 | こふくげきじやう | 16 | 良    | やや      | 24 | 魏晋南北朝  | ぎしんなんぼくちやう | 36 |
| 茆茨   | ぼうし      | 16 | 棄て   | すて      | 24 | 唐宋八家文  | とうそうはつかぶん  | 36 |
| 戴く   | いたたく     | 16 | 上    | ほとり     | 25 | 明      | みん         | 36 |
| 康衢   | かうく      | 16 | 等    | そむき     | 25 | 清      | しん         | 36 |
| 識ら   | しらがふ     | 17 | 六朝   | りくちやう   | 27 | 本紀     | しんとくせん     | 37 |
| 順ふ   | のり       | 17 | 食ふ   | やしなふ    | 28 | 行      | ゆくゆく       | 38 |
| 則    | なし       | 17 | 見はれ  | あらはれ    | 28 | 従弟     | いとこ        | 38 |
| 作し   | いこふ      | 17 | 安くんぞ | いづくんぞ   | 28 | 虞      | ぐ          | 38 |
| 息ふ   | ほとんど     | 18 | 策うつ  | むちうつ    | 28 | 曹無傷    | さうむしやう     | 39 |
| 幾ど   | より       | 18 | 材    | さい      | 28 | 新豊     | しんぼう       | 39 |
| 自り   | み        | 18 | 嗚呼   | ああ      | 29 | 美姫     | びき         | 39 |
| 視    | やすし      | 18 | 邪    | か       | 29 | 令む     | しむ         | 39 |
| 寧し   | つかへ      | 18 | 柳宗元  | りうそうげん  | 30 | 意は     | おもは        | 40 |
| 事へ   | ほめ       | 19 | 蔽れ   | かくれ     | 30 | 今者     | いま         | 40 |
| 誉め   | まづ       | 20 | 且に…す | まさに…す   | 30 | 環      | わ          | 40 |
| 鷄鳴狗盗 | けいめいくたう  | 20 | 益    | ますます    | 30 | 留め     | とどめ        | 41 |
| 先づ   | いれ       | 20 | 習れ   | なれ      | 30 | 与に     | ともに        | 41 |
| 納れ   | まみえん     | 20 | 終に   | つひに     | 30 | 亜父     | あほ         | 41 |
| 見えん  | とどめ      | 20 | 勝へ   | たへ      | 30 | 数      | しばしば       | 41 |
| 止め   | いたり      | 20 | 囚りて  | よりて     | 30 | 者      | こと         | 41 |
| 囚へて  | かうき      | 20 | 止だ   | ただ      | 30 | 起ち     | たち         | 41 |
| 抵り   | けだし      | 21 | 向に   | さきに     | 31 | 前み     | すすみ        | 41 |
| 幸姫   | ゆるさるる    | 21 | 是くの  | かくの     | 31 | 不者ずんば  | しからずんば     | 41 |
| 蓋し   | すなはち     | 21 | 夫    | かな      | 31 | 鴻門会    | こうもんのかい    | 41 |
| 積さるる | まさ       | 21 | 歐陽脩  | おうやうしう  | 32 | 是      | ここ         | 42 |
| 即ち   | しよくけい    | 21 | 陳康肅  | ちんかうしゆく | 32 | 何如     | いかん        | 42 |
| 方に   | うらみ      | 21 | 積き   | おき      | 32 | 即ち     | すなはち       | 42 |
| 食頃   | ゆゑ       | 21 | 担    | にあ      | 32 | 内れ     | いれ         | 42 |
| 怨み   | つひに      | 22 | 中つる  | あつる     | 32 | 側て     | そばだて       | 42 |
| 故    | のみ       | 22 | 但だ   | ただ      | 32 | 披き     | ひらき        | 42 |
| 卒に   | よろしく     | 22 | 徼しく  | すこしく    | 32 | 何為る    | なんする       | 42 |
| 特だ   | なほ       | 22 | 徐ろに  | おもむろに   | 32 | 賜へ     | たまへ        | 42 |
| 耳    | ゆゑん      | 22 | 湿は   | うるほは    | 33 | 覆せ     | ふせ         | 42 |
| 宜しく  | ちやうじ     | 22 | 遣る   | やる      | 33 | 還り     | かへり        | 43 |
| 尚ほ   | ひきゐて     | 22 | 医薬談笑 | いやくだんせう | 34 | 故らに    | ことさらに      | 43 |
| 所以   | にぐる      | 24 | 末とし  | こなとし    | 34 | 窃かに    | ひそかに       | 43 |
| 張耳   | むなしく     | 24 | 雑ふ   | まじふ     | 34 | 須臾     | しゆゆ        | 43 |
| 以ゐて  | おはん      | 24 | 流ひ   | たぐひ     | 34 | 如き     | ゆき         | 43 |
| 走ぐる  | おはん      | 24 | 麻黄   | まくわう    | 34 | 奈何     | いかん        | 44 |
| 空しく  | おはん      | 24 | 故き   | ふるき     | 34 | 如今     | いま         | 44 |
| 逐はん  | おはん      | 24 | 比ひ   | たぐひ     | 34 | 操れる    | とれる        | 44 |

| 漢字    | 音訓      | 頁  | 漢字   | 音訓     | 頁  | 漢字    | 音訓     | 頁  |
|-------|---------|----|------|--------|----|-------|--------|----|
| 度り    | はかり     | 45 | 常規   | つねのり   | 61 | 許     | ばかり    | 72 |
| 間び    | しのび     | 45 | 偶    | たまたま   | 62 | 濟     | すくひ    | 72 |
| 安くにか  | いづくにか   | 45 | 大宰府  | だざいふ   | 62 | 活     | いかす    | 72 |
| 罷れ    | つかれ     | 47 | 睡り   | ねむり    | 63 | 見     | る      | 73 |
| 如かず   | しかず     | 47 | 便ち   | すなわち   | 63 | 被     | る      | 73 |
| 駿馬    | しゆんめ    | 48 | 泰く   | やすく    | 63 | 横     | よこしま   | 73 |
| 為り    | つくり     | 48 | 平仄   | ひようそく  | 64 | 同に    | ともに    | 73 |
| 蓋ふ    | おほふ     | 49 | 掃ふ   | はらふ    | 64 | 被     | らるる    | 73 |
| 泣     | なみだ     | 49 | 承け   | うけ     | 65 | 械を    | かせを    | 73 |
| 行     | かう      | 49 | 霜葉   | さうえふ   | 65 | 旋いで   | ついで    | 73 |
| 困しむ   | くるしむ    | 49 | 紅    | くれなゐ   | 65 | 往く    | ゆく     | 74 |
| 亡ぼす   | ほろぼす    | 49 | 寒山   | かんざん   | 65 | 漸く    | やうやく   | 74 |
| 非ざる   | あらざる    | 49 | 石径   | せつけい   | 65 | 恒に    | つねに    | 74 |
| 固より   | もとより    | 49 | 停めて  | とめて    | 65 | 悦び    | よろこび   | 74 |
| 縦ひ    | たとひ     | 50 | 晩    | くれ     | 65 | 把り    | とり     | 74 |
| 呂馬童   | りよばどう   | 51 | 紅い   | あかい    | 65 | 就す    | なす     | 75 |
| 指し    | しめし     | 51 | 沙    | すな     | 66 | 児     | こ      | 75 |
| 王翳    | わうえい    | 51 | 鳥    | てう     | 66 | 次る    | いたる    | 75 |
| 購ふ    | あがなふ    | 51 | 下ち   | おち     | 66 | 鳴咽    | をえつ    | 75 |
| 頭     | かうべ     | 51 | 作り   | なり     | 66 | 陳ぶ    | のぶ     | 75 |
| 閑かなり  | しづかなり   | 56 | 苦だ   | はなはだ   | 66 | 長山    | ちやうざん  | 76 |
| 兩に    | ともに     | 56 | 潦倒   | らうたう   | 66 | 毎に    | つねに    | 76 |
| 夢得    | ぼうとく    | 56 | 停む   | とどむ    | 66 | 負郭    | ふくわく   | 76 |
| 憶ふ    | おもふ     | 57 | 干宝   | かんぼう   | 67 | 種うる   | ううる    | 76 |
| 王維    | わうゐ     | 57 | 少くして | わかくして  | 68 | 累ひ    | わづらひ   | 76 |
| 為る    | なる      | 57 | 畝    | ぼ      | 68 | 需ゐる   | もちゐる   | 76 |
| 毎     | ごと      | 57 | 鹿    | ろく     | 68 | 須ゐる   | もちゐる   | 76 |
| 倍     | ますます    | 57 | 亡する  | したがつ   | 68 | 首     | かうべ    | 76 |
| 処     | とき      | 57 | 縁りて  | よりにて   | 68 | 暴かに   | にはかに   | 77 |
| 遍く    | あまねく    | 57 | 語げ   | つげ     | 69 | 酬ゆる   | むくゆる   | 77 |
| 少く    | かく      | 57 | 宛    | ゑん     | 69 | 貯へ    | たくはへ   | 77 |
| 到らん   | いたらん    | 57 | 宛    | ゑん     | 70 | 適だ    | ただ     | 78 |
| 円なる   | まどかなる   | 57 | 太だ   | はなはだ   | 70 | 益す    | ます     | 78 |
| 幽かなり  | しづかなり   | 58 | 通ひ   | たがひ    | 70 | 肥つて   | ふとつて   | 79 |
| 自づから  | おのづから   | 58 | 將た   | はた     | 70 | 遇つた   | あつた    | 80 |
| 画き    | ゑがき     | 59 | 略    | ほぼ     | 70 | 迭     | かたみ    | 80 |
| 碁局    | ききよく    | 59 | 畏忌   | みき     | 70 | 志す    | しるす    | 82 |
| 須つ    | まつ      | 59 | 作す   | なす     | 71 | 佐藤春夫  | さとうはるお | 82 |
| 好し    | よし      | 60 | 著け   | つけ     | 71 | 太宰治   | だざいおさむ | 82 |
| 菅家後集  | かんけこうしふ | 60 | 徑ちに  | ただちに   | 71 | 黒田真美子 | くろだまみこ | 82 |
| 晋帥    | ときのり    | 60 | 蟻王   | ぎわう    | 72 | 仲尼    | ちゆうじ   | 83 |
| 去けよ   | ゆけよ     | 61 | 董昭之  | とうせうし  | 72 | 扱び    | えらび    | 84 |
| 少に    | まれに     | 61 | 錢塘江  | せんたうかう | 72 | 参     | しん     | 84 |
| 残なはるる | そこなはるる  | 61 | 意    | こころ    | 72 | 古     | いにしへ   | 86 |

| 漢字   | 音訓     | 頁   | 漢字  | 音訓     | 頁   | 漢字    | 音訓      | 頁   |
|------|--------|-----|-----|--------|-----|-------|---------|-----|
| 汎く   | ひろく    | 86  | 魯肅  | ろしゆく   | 105 | 懐ひ    | おもひ     | 118 |
| 反ら   | かえら    | 87  | 周瑜  | しうゆ    | 105 | 茲若き   | かくのごとき  | 119 |
| 恵王   | けいわう   | 88  | 逆へ  | むかへ    | 106 | 幾何    | いくばく    | 120 |
| 交    | こもごも   | 88  | 黄蓋  | くわうがい  | 106 | 良に    | まことに    | 120 |
| 征り   | とり     | 88  | 蒙衝  | もうしよう  | 106 | 以     | ゆゑ      | 120 |
| 遣つる  | すつる    | 89  | 予め  | あらかじめ  | 106 | 召く    | まねく     | 120 |
| 猶ほ…き | なほ…ごとき | 89  | 詐りて | いつはりて  | 106 | 大塊    | たいくわい   | 120 |
| 諸を   | これを    | 89  | 公覆  | こうふ    | 106 | 転た    | うたた     | 120 |
| 信に   | まことに   | 89  | 烈しく | はげしく   | 107 | 如し    | もし      | 120 |
| 下き   | ひくき    | 90  | 衆し  | おほし    | 107 | 文選    | もんぜん    | 120 |
| 行れば  | やれば    | 90  | 壞れ  | やぶれ    | 107 | 沈香亭   | じんこうてい  | 120 |
| 偽    | ゐ      | 91  | 走げ  | にげ     | 107 | 肌     | き       | 122 |
| 然らば  | しからば   | 91  | 仲達  | ちゆうたつ  | 108 | 歳     | とし      | 122 |
| 用つて  | もつて    | 91  | 興き  | おき     | 108 | 当つ    | あつ      | 122 |
| 過ち   | あやまち   | 92  | 夜   | よは     | 108 | 嗣ぎ    | つぎ      | 122 |
| 畏る   | おそる    | 92  | 親ら  | みづから   | 108 | 貌     | かたち     | 122 |
| 説苑   | ぜいえん   | 93  | 覽る  | みる     | 108 | 更へ    | かへ      | 123 |
| 劉向   | りゆうきやう | 93  | 墜つ  | おつ     | 109 | 居り    | をり      | 123 |
| 宜帝   | せんてい   | 93  | 幾なら | いくばくなら | 109 | 徒し    | うつりし    | 124 |
| 戦国策  | せんごくさく | 93  | 卒す  | しゆつす   | 109 | 缶     | ふ       | 124 |
| 懐き   | いだき    | 94  | 奔りて | はしりて   | 109 | 齒     | おくれ     | 124 |
| 丸    | たま     | 94  | 姜維  | きやうゐ   | 109 | 後れ    | かの      | 125 |
| 操りて  | とりて    | 94  | 反し  | かへし    | 109 | 夫の    | かたはら    | 125 |
| 弾    | ゆみ     | 94  | 料る  | はかる    | 109 | 側ら    | しよくして   | 126 |
| 樹    | き      | 94  | 弘前  | ひろさき   | 112 | 式して   | しよくして   | 126 |
| 患ひ   | うれひ    | 95  | 漁父  | ぎよほ    | 113 | 壺     | いつ      | 126 |
| 罷む   | やむ     | 95  | 与   | や      | 114 | 昔者    | むかし     | 126 |
| 若か   | しか     | 96  | 清む  | すむ     | 114 | 識せ    | しるせ     | 126 |
| 者    | ば      | 96  | 醒む  | さむ     | 114 | 檀弓    | だんぐう    | 126 |
| 喪ふ   | うしなふ   | 96  | 弾き  | はじき    | 114 | 樂府    | がふ      | 127 |
| 和氏   | くわし    | 96  | 湘流  | しやうりう  | 115 | 桃夭    | たうえう    | 128 |
| 弥    | いよいよ   | 97  | 滄浪  | さうらう   | 115 | 帰ぐ    | とつぐ     | 128 |
| 凡そ   | およそ    | 99  | 濯ふ  | あらふ    | 116 | 宜しからん | よろしからん  | 128 |
| 諭す   | さとす    | 99  | 毀りて | やぶりて   | 116 | 阻しく   | けはしく    | 129 |
| 差ふ   | たがふ    | 99  | 太甲  | たいかふ   | 116 | 晩れ    | くれ      | 129 |
| 奚為れぞ | なんすれぞ  | 99  | 違く  | さく     | 116 | 道ふ    | いふ      | 129 |
| 訪ふ   | とふ     | 102 | 活く  | いく     | 116 | 被ひ    | おほひ     | 130 |
| 見ふ   | あふ     | 103 | 陶潜  | たうせん   | 118 | 総て    | すべて     | 130 |
| 挟みて  | さしはさみて | 103 | 何許  | いづこ    | 118 | 故より   | もとより    | 130 |
| 付く   | なつく    | 103 | 詳らか | つまびらか  | 118 | 匹ひ    | たぐひ     | 130 |
| 援け   | たすけ    | 103 | 造り  | いたり    | 118 | 垂んとして | なんなんとして | 130 |
| 駿府   | すんぶ    | 103 | 曾て  | かつて    | 118 | 且く    | しばらく    | 130 |
| 遺りて  | おくりて   | 105 | 蔽は  | おほは    | 118 | 詞     | ことば     | 131 |
| 張昭   | ちやうせう  | 105 | 娛しみ | たのしみ   | 118 | 鄴城    | げふじやう   | 131 |

| 漢字    | 音訓      | 頁   | 漢字    | 音訓     | 頁   |
|-------|---------|-----|-------|--------|-----|
| 湯浅邦弘  | ゆあさくにひろ | 148 | 提げて   | ひつさげて  | 165 |
| 幽咽する  | いうえつする  | 131 | 匕首    | ひしゆ    | 164 |
| 振ひ    | すくひ     | 147 | 会     | たまたま   | 163 |
| 疑し    | ちかし     | 85  | 頃く    | しばらく   | 163 |
| 死され   | ころされ    | 146 | 寧渠くんぞ | いづくんぞ  | 162 |
| 畜ふ    | やしなふ    | 146 | 頼り    | より     | 162 |
| 説び    | よろこび    | 146 | 激ます   | はげます   | 161 |
| 寧ろ    | むしろ     | 145 | 如か    | しか     | 161 |
| 嘗試みに  | こころみに   | 144 | 見る    | らる     | 161 |
| 不詳    | ふしやう    | 143 | 寧ぞ    | なんぞ    | 160 |
| 易ふる   | かふる     | 142 | 材能    | さいのう   | 160 |
| 後涼殿   | こうろうでん  | 140 | 上り    | たてまつり  | 160 |
| 翼     | はね      | 140 | 微か    | ひそか    | 160 |
| 筋     | すぢ      | 140 | 負かん   | そむかん   | 160 |
| 命婦    | みやうぶ    | 140 | 従親    | しようしん  | 160 |
| 期     | とき      | 138 | 執へ    | とらへ    | 159 |
| 会ず    | かならず    | 138 | 意ひ    | うたがひ   | 159 |
| 将て    | もて      | 137 | 亡ふ    | うしなふ   | 159 |
| 将つて   | もつて     | 137 | 以へらく  | おもへらく  | 159 |
| 両つ    | ふたつ     | 137 | 不や    | いなや    | 159 |
| 聞道く   | きくならく   | 137 | 亡ぐる   | にぐる    | 157 |
| 参差    | しんし     | 137 | 素より   | もとより   | 157 |
| 貌     | かんばせ    | 137 | 既に    | すでに    | 156 |
| 膚     | はだへ     | 137 | 彼の    | かの     | 156 |
| 偏し    | あまねし    | 136 | 与し    | くみし    | 156 |
| 電     | いなづま    | 136 | 弟だ    | ただ     | 156 |
| 教む    | しむ      | 136 | 重射す   | ちようせきす | 155 |
| 与共にせん | ともにせん   | 136 | 疾み    | ねたみ    | 155 |
| 挑げ    | かかげ     | 136 | 翻せば   | かへせば   | 154 |
| 未央    | びあう     | 135 | 有つ    | たもつ    | 153 |
| 信せ    | まかせ     | 135 | 世     | よよ     | 153 |
| 旋り    | めぐり     | 135 | 顕れ    | あらはれ   | 153 |
| 安禄山   | あんろくざん  | 134 | 謀     | はかりごと  | 152 |
| 委て    | すて      | 134 | 穎上    | えいじやう  | 152 |
| 宛転    | ゑんてん    | 134 | 脱き    | とき     | 152 |
| 動し    | どよもし    | 134 | 堂阜    | だうふ    | 152 |
| 足か    | あか      | 134 | 距む    | こぼむ    | 151 |
| 士     | くに      | 134 | 詳り    | いつはり   | 150 |
| 列ぬ    | つらぬ     | 134 | 将み    | ひきみ    | 150 |
| 粧ひ    | よそほひ    | 134 | 陰か    | ひそか    | 150 |
| 飲び    | よろこび    | 133 | 鮑叔    | はうしゆく  | 150 |
| 度る    | わたる     | 133 | 召忽    | せうこつ   | 150 |
| 女     | むすめ     | 133 | 糾     | きう     | 150 |
| 御宇    | ぎよう     | 133 | 管鮑    | くわんぱう  | 150 |

# 出 典 一 覧 表

[国語教材]

| 申 請 図 書 |            |      | 出 典              |  |          |          |       | 備考 |
|---------|------------|------|------------------|--|----------|----------|-------|----|
| ページ     | 名 称        | 種別   | 名 称              | ページ                                    | 著作者等     | 発行者      | 発行年次等 |    |
| 第一分冊    |            |      |                  |  |          |          |       |    |
| 8       | 古今著聞集      | 国語教材 | 日本古典文学大系84       | 168                                    | 橘成季      | 岩波書店     | 1966年 |    |
| 11      | 古今著聞集      | 国語教材 | 日本古典文学大系84       | 160～161                                | 橘成季      | 岩波書店     | 1966年 |    |
| 11      | 後拾遺和歌集     | 国語教材 | 新日本古典文学大系8       | 186                                    | 和泉式部     | 岩波書店     | 1994年 |    |
| 11      | 金葉和歌集      | 国語教材 | 新日本古典文学大系9       | 183                                    | 和泉式部     | 岩波書店     | 1989年 |    |
| 12～13   | 沙石集        | 国語教材 | 日本古典文学大系85       | 240～241                                | 無住       | 岩波書店     | 1966年 |    |
| 14～15   | 今物語        | 国語教材 | 今物語(講談社学術文庫)     | 69～70                                  | 未詳       | 講談社      | 1998年 |    |
| 18～25   | 徒然草        | 国語教材 | 新版 徒然草(角川ソフィア文庫) | 14、33、78～80、19～20、37～38                | 兼好法師     | KADOKAWA | 2015年 |    |
| 26～29   | 方丈記        | 国語教材 | 日本古典文学大系30       | 23～25                                  | 鴨長明      | 岩波書店     | 1957年 |    |
| 32～40   | 伊勢物語       | 国語教材 | 新日本古典文学大系17      | 79～80、157～163、144～147                  | 未詳       | 岩波書店     | 1997年 |    |
| 42～43   | 大和物語       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集12     | 391～392                                | 未詳       | 小学館      | 1994年 |    |
| 46～54   | 枕草子        | 国語教材 | 新日本古典文学大系25      | 50～52、28、30～31、238～240、146～147、174～175 | 清少納言     | 岩波書店     | 1991年 |    |
| 58～67   | 源氏物語       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集20     | 17～20、41～44、205～209                    | 紫式部      | 小学館      | 1994年 |    |
| 75～86   | 大鏡         | 国語教材 | 新編日本古典文学全集34     | 13～15、21、318～321、44～47、324～326         | 未詳       | 小学館      | 1996年 |    |
| 92～95   | 紫式部日記      | 国語教材 | 新編日本古典文学全集26     | 150～152、208～209                        | 紫式部      | 小学館      | 1994年 |    |
| 96～99   | 更級日記       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集26     | 279～281、297～299                        | 菅原孝標女    | 小学館      | 1994年 |    |
| 104～111 | 平家物語       | 国語教材 | 新日本古典文学大系44      | 5                                      | 未詳       | 岩波書店     | 1991年 |    |
|         |            | 国語教材 | 新日本古典文学大系45      | 48～50、298～300                          | 未詳       | 岩波書店     | 1993年 |    |
| 116～118 | 義経記        | 国語教材 | 新編日本古典文学全集62     | 421～424                                | 未詳       | 小学館      | 2008年 |    |
| 122～123 | 建礼門院右京大夫集  | 国語教材 | 和歌文学大系23         | 137～139                                | 建礼門院右京大夫 | 明治書院     | 2001年 |    |
| 124～126 | 十六夜日記      | 国語教材 | 新編日本古典文学全集48     | 281～282、286～287                        | 阿仏尼      | 小学館      | 1994年 |    |
| 126     | 伊勢物語       | 国語教材 | 新日本古典文学大系17      | 88                                     | 未詳       | 岩波書店     | 1997年 |    |
| 128     | あかねさす      | 国語教材 | 新編日本古典文学全集6      | 36～37                                  | 額田王      | 小学館      | 1994年 |    |
| 128     | 紫草の        | 国語教材 | 新編日本古典文学全集6      | 37                                     | 大海人皇子    | 小学館      | 1994年 |    |
| 128     | 憶良らは       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集6      | 206                                    | 山上憶良     | 小学館      | 1994年 |    |
| 128     | み吉野の       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集7      | 113                                    | 山部赤人     | 小学館      | 1995年 |    |
| 129     | 石見の海       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集6      | 100～101                                | 柿本人麻呂    | 小学館      | 1994年 |    |
| 129     | 石見のや・小竹の葉は | 国語教材 | 新編日本古典文学全集6      | 101～102                                | 柿本人麻呂    | 小学館      | 1994年 |    |
| 129     | 春の野に       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集9      | 363                                    | 大伴家持     | 小学館      | 1996年 |    |
| 130     | 信濃道は       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集8      | 472                                    | (東歌)     | 小学館      | 1995年 |    |
| 130     | 父母が        | 国語教材 | 新編日本古典文学全集9      | 393                                    | (防人歌)    | 小学館      | 1996年 |    |
| 131     | やまと歌は      | 国語教材 | 新編日本古典文学全集11     | 17                                     | 紀貫之      | 小学館      | 1994年 |    |
| 132     | 春の夜の       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集11     | 44                                     | 凡河内躬恒    | 小学館      | 1994年 |    |
| 132     | 蓮葉の        | 国語教材 | 新編日本古典文学全集11     | 87                                     | 僧正遍昭     | 小学館      | 1994年 |    |
| 132     | ひさかたの      | 国語教材 | 新編日本古典文学全集11     | 97                                     | 壬生忠岑     | 小学館      | 1994年 |    |
| 132     | 冬ながら       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集11     | 143                                    | 清原深養父    | 小学館      | 1994年 |    |
| 132     | むすぶ手の      | 国語教材 | 新編日本古典文学全集11     | 171                                    | 紀貫之      | 小学館      | 1994年 |    |
| 133     | ほととぎす      | 国語教材 | 新編日本古典文学全集11     | 196                                    | よみ人知らず   | 小学館      | 1994年 |    |
| 133     | 色見えて       | 国語教材 | 新編日本古典文学全集11     | 303                                    | 小野小町     | 小学館      | 1994年 |    |

| 申請図書    |        |      | 出典            |  |       |          |       | 備考 |
|---------|--------|------|---------------|--|-------|----------|-------|----|
| ページ     | 名称     | 種別   | 名称            | ページ  | 著作者等  | 発行者      | 発行年次等 |    |
| 134     | 春の夜の   | 国語教材 | 新編日本古典文学全集43  | 32   | 藤原定家  | 小学館      | 1995年 |    |
| 134     | 秋更けぬ   | 国語教材 | 新編日本古典文学全集43  | 157  | 後鳥羽院  | 小学館      | 1995年 |    |
| 134     | 明けばまた  | 国語教材 | 新編日本古典文学全集43  | 279  | 藤原家隆  | 小学館      | 1995年 |    |
| 134     | 玉の緒よ   | 国語教材 | 新編日本古典文学全集43  | 305  | 式子内親王 | 小学館      | 1995年 |    |
| 135     | 下燃えに   | 国語教材 | 新編日本古典文学全集43  | 318  | 藤原俊成女 | 小学館      | 1995年 |    |
| 135     | 吉野山    | 国語教材 | 新編日本古典文学全集43  | 469  | 西行法師  | 小学館      | 1995年 |    |
| 137     | 雪月花    | 国語教材 | 日本古典文学大系92    | 37   | 松永貞徳  | 岩波書店     | 1964年 |    |
| 137     | 年の内へ   | 国語教材 | 日本古典文学大系92    | 46   | 北村季吟  | 岩波書店     | 1964年 |    |
| 137     | 海は少し   | 国語教材 | 日本古典文学全集42    | 84   | 西山宗因  | 小学館      | 1972年 |    |
| 137     | 浮き世の月  | 国語教材 | 日本古典文学大系92    | 57   | 井原西鶴  | 岩波書店     | 1964年 |    |
| 138     | 奈良七重   | 国語教材 | 日本古典文学大系45    | 49   | 松尾芭蕉  | 岩波書店     | 1962年 |    |
| 138     | 応々と    | 国語教材 | 日本古典文学大系92    | 100  | 向井去来  | 岩波書店     | 1964年 |    |
| 138     | 梅一輪    | 国語教材 | 日本古典文学大系92    | 95   | 服部嵐雪  | 岩波書店     | 1964年 |    |
| 138     | 夕顔や    | 国語教材 | 日本古典文学大系92    | 152  | 千代女   | 岩波書店     | 1964年 |    |
| 138     | 初恋や    | 国語教材 | 古典俳文学大系13     | 399  | 炭太祇   | 集英社      | 1970年 |    |
| 139     | 愁ひつつ   | 国語教材 | 日本古典文学大系58    | 128  | 与謝蕪村  | 岩波書店     | 1959年 |    |
| 139     | 月や霞    | 国語教材 | 日本古典文学全集42    | 326  | 上田秋成  | 小学館      | 1972年 |    |
| 139     | 青海苔や   | 国語教材 | 日本古典文学大系92    | 180  | 高井几董  | 岩波書店     | 1964年 |    |
| 139     | 仰のけに   | 国語教材 | 日本古典文学全集42    | 430  | 小林一茶  | 小学館      | 1972年 |    |
| 142～143 | 発心集    | 国語教材 | 新潮日本古典集成5     | 174～176                                      | 鴨長明   | 新潮社      | 1976年 |    |
| 144～145 | 今昔物語集  | 国語教材 | 新日本古典文学大系36   | 438～439                                      | 未詳    | 岩波書店     | 1994年 |    |
| 146～148 | 宇治拾遺物語 | 国語教材 | 新日本古典文学大系42   | 61～63  | 未詳    | 岩波書店     | 1990年 |    |
| 150～156 | 枕草子    | 国語教材 | 新日本古典文学大系25   | 222～224、231～232、135～136、321                  | 清少納言  | 岩波書店     | 1991年 |    |
| 157     | 十訓抄    | 国語教材 | 新編日本古典文学全集51  | 56～57  | 未詳    | 小学館      | 1997年 |    |
| 162～165 | 蜻蛉日記   | 国語教材 | 新編日本古典文学全集13  | 99～101、148～149                               | 藤原道綱母 | 小学館      | 1995年 |    |
| 166～169 | 和泉式部日記 | 国語教材 | 新編日本古典文学全集26  | 17～19、53～55                                  | 和泉式部  | 小学館      | 1994年 |    |
| 170～172 | 讃岐典侍日記 | 国語教材 | 新編日本古典文学全集26  | 395～398                                      | 藤原長子  | 小学館      | 1994年 |    |
| 176～179 | 源氏物語   | 国語教材 | 新編日本古典文学全集20  | 164～167                                      | 紫式部   | 小学館      | 1994年 |    |
| 180     | 江談抄    | 国語教材 | 新日本古典文学大系32   | 83～84  | 大江匡房  | 岩波書店     | 1997年 |    |
| 182～184 | 夕顔     | 国語教材 | 源氏物語 九つの変奏    | 65～69  | 江國香織  | 新潮社      | 2011年 |    |
| 186～217 | 源氏物語   | 国語教材 | 新編日本古典文学全集21  | 22～24、37～41、198～203                          | 紫式部   | 小学館      | 1995年 |    |
|         |        | 国語教材 | 新編日本古典文学全集22  | 450～454                                      | 紫式部   | 小学館      | 1996年 |    |
|         |        | 国語教材 | 新編日本古典文学全集23  | 63～67、140～142、503～506                        | 紫式部   | 小学館      | 1996年 |    |
|         |        | 国語教材 | 新編日本古典文学全集24  | 136～140                                      | 紫式部   | 小学館      | 1997年 |    |
| 220～222 | 無名草子   | 国語教材 | 新編日本古典文学全集40  | 266～268、276～277                              | 未詳    | 小学館      | 1999年 |    |
| 224     | 紫式部日記  | 国語教材 | 新編日本古典文学全集26  | 202  | 紫式部   | 小学館      | 1994年 |    |
| 226     | 俊頼髓脳   | 国語教材 | 新編日本古典文学全集87  | 237～238                                      | 源俊頼   | 小学館      | 2002年 |    |
| 228～229 | 無名抄    | 国語教材 | 無名抄(角川ソフィア文庫) | 76～78  | 鴨長明   | KADOKAWA | 2013年 |    |
| 230～231 | 毎月抄    | 国語教材 | 新編日本古典文学全集87  | 502～503                                      | 藤原定家  | 小学館      | 2002年 |    |
| 234～247 | 大鏡     | 国語教材 | 新編日本古典文学全集34  | 73～76、149～152、380～382、98～100、115～116、273～274 | 未詳    | 小学館      | 1996年 |    |
| 250～252 | 風姿花伝   | 国語教材 | 日本古典文学大系65    | 343～346                                      | 世阿弥   | 岩波書店     | 1961年 |    |

| 申請図書    |                  |      | 出典                      |                 |      |         |       | 備考 |
|---------|------------------|------|-------------------------|-----------------|------|---------|-------|----|
| ページ     | 名称               | 種別   | 名称                      | ページ             | 著作者等 | 発行者     | 発行年次等 |    |
| 253～255 | 去来抄              | 国語教材 | 新編日本古典文学全集88            | 429、444～445、523 | 向井去来 | 小学館     | 2001年 |    |
| 256～257 | 三冊子              | 国語教材 | 新編日本古典文学全集88            | 578～579         | 服部土芳 | 小学館     | 2001年 |    |
| 258～259 | 難波土産             | 国語教材 | 日本古典文学大系50              | 358～359         | 三木貞成 | 岩波書店    | 1959年 |    |
| 260～261 | 源氏物語玉の小櫛         | 国語教材 | 日本古典文学大系94              | 101～102         | 本居宣長 | 岩波書店    | 1966年 |    |
| 264～267 | とりかへばや物語         | 国語教材 | 新編日本古典文学全集39            | 170～173         | 未詳   | 小学館     | 2002年 |    |
| 268～272 | 堤中納言物語           | 国語教材 | 新編日本古典文学全集17            | 493～498         | 未詳   | 小学館     | 2000年 |    |
| 274～278 | 西鶴諸国ばなし          | 国語教材 | 新日本古典文学大系76             | 272～276         | 井原西鶴 | 岩波書店    | 1991年 |    |
| 279～284 | 雨月物語             | 国語教材 | 新編日本古典文学全集78            | 314～316、318～320 | 上田秋成 | 小学館     | 1995年 |    |
| 第二分冊    |                  |      |                         |                 |      |         |       |    |
| 8       | 推敲               | 国語教材 | 唐詩紀事(初版)                | 巻40 613         | 計有功  | 中華書局    | 1972年 |    |
| 9       | 呉越同舟             | 国語教材 | 十一家注孫子(第2刷)             | 巻下 197          | 孫武   | 中華書局    | 1974年 |    |
| 10      | 嬰逆鱗              | 国語教材 | 韓非子集釈(初版)               | 巻4 223～224      | 韓非   | 上海人民出版社 | 1974年 |    |
| 11      | 螳螂之斧             | 国語教材 | 淮南鴻烈解(漢文大系本)(増補版第五刷)    | 第18巻 33         | 劉安   | 富山房     | 1984年 |    |
| 12      | 病入膏肓             | 国語教材 | 春秋左氏伝(十三経注疏)(3版)        | 第7冊             | 左丘明  | 芸文印書館   | 1965年 |    |
| 13      | 知音               | 国語教材 | 呂氏春秋(四部叢刊本)(初版)         | 第22冊 81         | 呂不韋  | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 16～17   | 鼓腹撃壤             | 国語教材 | 十八史略(漢文大系本)(増補版第5刷)     | 第5巻 8～9         | 曾先之  | 富山房     | 1990年 |    |
| 18～19   | 莫敢飾詐             | 国語教材 | 十八史略(漢文大系本)(初版)         | 第5巻 57～58       | 曾先之  | 富山房     | 1910年 |    |
| 20～21   | 鷄鳴狗盜             | 国語教材 | 十八史略(漢文大系本)(第9刷)        | 第5巻 60～61       | 曾先之  | 富山房     | 1990年 |    |
| 22      | 読孟嘗君伝            | 国語教材 | 臨川先生文集(四部叢刊本)(第2版)      | 第46冊 456        | 王安石  | 商務印書館   | 1967年 |    |
| 24～25   | 背水之陣             | 国語教材 | 十八史略(漢文大系本)(第4刷)        | 第5巻 27～28       | 曾先之  | 富山房     | 1911年 |    |
| 28～29   | 雑説               | 国語教材 | 昌黎先生文集(四部叢刊本)(初版)       | 第34冊 100～101    | 韓愈   | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 30～31   | 黔之驢              | 国語教材 | 柳先生文集(四部叢刊本)(初版)        | 第35冊 103        | 柳宗元  | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 32～33   | 売油翁              | 国語教材 | 欧陽文忠公文集<br>(四部叢刊本)(初版)  | 第45冊<br>980～981 | 欧陽脩  | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 34～35   | 医薬談笑             | 国語教材 | 東坡志林<br>(唐宋史料筆記叢刊)(第2刷) | 巻3<br>60～61     | 蘇軾   | 中華書局    | 1997年 |    |
| 38～46   | 鴻門之会             | 国語教材 | 史記(史記会注考証)(初版)          | 巻7 26～35        | 司馬遷  | 芸文印書館   | 1972年 |    |
| 47～51   | 四面楚歌             | 国語教材 | 史記(史記会注考証)(初版)          | 巻7 68～73        | 司馬遷  | 芸文印書館   | 1972年 |    |
| 56      | 独坐敬亭山            | 国語教材 | 李太白集(四部叢刊本)(初版)         | 第32冊            | 李白   | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 56      | 秋風引              | 国語教材 | 劉夢得文集(四部叢刊本)(初版)        | 第35冊            | 劉禹錫  | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 57      | 九月九日憶山東兄弟        | 国語教材 | 王右丞集(四部叢刊本)(初版)         | 第33冊            | 王維   | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 57      | 磧中作              | 国語教材 | 岑嘉州詩(四部叢刊本)(初版)         | 第33冊 54         | 岑参   | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 58      | 除夜寄弟妹            | 国語教材 | 白氏文集歌詩索引(初版)            | 下冊 150          | 白居易  | 同朋舎出版   | 1989年 |    |
| 58～59   | 江村               | 国語教材 | 杜工部集(四部叢刊本)(初版)         | 第32冊 137        | 杜甫   | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 60      | 不出門              | 国語教材 | 日本古典文学大系72(第6刷)         | 481～482         | 菅原道真 | 岩波書店    | 1974年 |    |
| 60～61   | 冬夜読書             | 国語教材 | 江戸詩人選集第4巻(初版)           | 81～82           | 菅茶山  | 岩波書店    | 1990年 |    |
| 61      | 送夏目漱石之伊予         | 国語教材 | 子規全集第8巻(初版)             | 211             | 正岡子規 | 講談社     | 1976年 |    |
| 63      | 香炉峰下新卜山居草堂初成偶題東壁 | 国語教材 | 白氏文集(四部叢刊本)(初版)         | 第36冊            | 白居易  | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 68～69   | 織女               | 国語教材 | 搜神記(初版)                 | 巻1 14～15        | 干宝   | 中華書局    | 1979年 |    |
| 70～71   | 売鬼               | 国語教材 | 搜神記(初版)                 | 巻16 199         | 干宝   | 中華書局    | 1979年 |    |
| 72～73   | 蟻王               | 国語教材 | 搜神記(初版)                 | 巻20 239～240     | 干宝   | 中華書局    | 1979年 |    |
| 74～75   | 買粉兒              | 国語教材 | 古小説鈎沈                   | 254             | 魯迅   | 人民文学出版社 | 1951年 |    |

| 申請図書    |             |      | 出典                  |                      |       |         |       | 備考 |
|---------|-------------|------|---------------------|----------------------|-------|---------|-------|----|
| ページ     | 名称          | 種別   | 名称                  | ページ                  | 著作者等  | 発行者     | 発行年次等 |    |
| 76～78   | 酒虫          | 国語教材 | 聊齋誌異(会校会注会評本)       | 巻5 607～608           | 蒲松齡   | 上海古籍出版社 | 1986年 |    |
| 79～80   | 酒虫          | 国語教材 | 芥川龍之介全集第1巻(第2刷)     | 181～182              | 芥川龍之介 | 岩波書店    | 1982年 |    |
| 84～87   | 論語          | 国語教材 | 論語(十三經注疏)(3版)       | 第10冊                 | 孔子    | 芸文印書館   | 1965年 |    |
| 88～90   | 孟子          | 国語教材 | 孟子(十三經注疏)(再版)       | 第8冊                  | 孟軻    | 新文豊出版   | 1978年 |    |
| 91      | 荀子          | 国語教材 | 荀子集解(漢文大系本)(増補版第5刷) | 第15巻 巻17 1～2         | 荀況    | 富山房     | 1984年 |    |
| 94～95   | 不顧後患        | 国語教材 | 説苑(増訂漢魏叢書)(初版)      | 第34冊 925             | 劉向    | 大化書局    | 1989年 |    |
| 96～97   | 不若人有其宝      | 国語教材 | 新序(増訂漢魏叢書)(初版)      | 第34冊 825             | 劉向    | 大化書局    | 1989年 |    |
| 98～99   | 不死之道        | 国語教材 | 列子(漢文大系本)(増補版第3刷)   | 第13巻 22～23           | 列禦寇   | 富山房     | 1978年 |    |
| 102～104 | 水魚之交        | 国語教材 | 十八史略(漢文大系本)(増補版第5刷) | 第5巻 56～57            | 曾先之   | 富山房     | 1990年 |    |
| 105～107 | 赤壁之戦        | 国語教材 | 十八史略(漢文大系本)(増補版第5刷) | 第5巻 57～58            | 曾先之   | 富山房     | 1990年 |    |
| 108～109 | 死諸葛走生仲達     | 国語教材 | 十八史略(漢文大系本)(増補版第5刷) | 第5巻 69～70            | 曾先之   | 富山房     | 1990年 |    |
| 114～115 | 漁父辞         | 国語教材 | 楚辞(四部叢刊本)(初版)       | 巻7 96～97             | 屈原    | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 116     | 孟子          | 国語教材 | 孟子(十三經注疏)(3版)       | 第13冊 128             | 孟軻    | 芸文印書館   | 1965年 |    |
| 118～119 | 五柳先生伝       | 国語教材 | 箋註陶淵明集(四部叢刊本)(初版)   | 第30冊 56～57           | 陶潛    | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 120     | 春夜宴従弟桃花園序   | 国語教材 | 李太白文集(四部叢刊本)(初版)    | 第32冊 368             | 李白    | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 122～125 | 捕蛇者説        | 国語教材 | 柳先生文集(四部叢刊本)(初版)    | 第35冊 89              | 柳宗元   | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 126     | 礼記          | 国語教材 | 礼記(十三經注疏)(3版)       | 第6冊 193～194          | 戴聖    | 芸文印書館   | 1965年 |    |
| 128     | 桃夭          | 国語教材 | 詩経(十三經注疏)(3版)       | 第3冊 37               | 孔子    | 芸文印書館   | 1965年 |    |
| 129     | 行行重行行       | 国語教材 | 文選(四部叢刊本)(初版)       | 第92冊 537             | 昭明太子  | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 130     | 責子          | 国語教材 | 箋註陶淵明集(四部叢刊本)(初版)   | 第30冊                 | 陶潛    | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 130～131 | 石壕吏         | 国語教材 | 杜工部集(四部叢刊本)(初版)     | 第32冊 255             | 杜甫    | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 133～138 | 長恨歌         | 国語教材 | 白氏文集(四部叢刊本)(初版)     | 第36冊 63～64           | 白居易   | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 140     | 源氏物語        | 国語教材 | 新編日本古典文学全集20        | 33～35                | 紫式部   | 小学館     | 1994年 |    |
| 142     | 老子(大道廃有仁義)  | 国語教材 | 老子翼(漢文大系本)(増補版第5刷)  | 第9巻 巻2 2             | 老子    | 富山房     | 1984年 |    |
| 142～143 | 老子(天下莫柔弱於水) | 国語教材 | 老子翼(漢文大系本)(増補版第6刷)  | 第9巻 巻4 29            | 老子    | 富山房     | 1988年 |    |
| 143     | 老子(無用之用)    | 国語教材 | 老子翼(漢文大系本)(増補版第5刷)  | 第9巻 巻1 19            | 老子    | 富山房     | 1984年 |    |
| 144～145 | 莊子          | 国語教材 | 莊子(漢文大系本)(増補版第6刷)   | 第9巻                  | 莊周    | 富山房     | 1988年 |    |
| 146～147 | 韓非子         | 国語教材 | 韓非子(四部叢刊本)(初版)      | 第18冊                 | 韓非    | 商務印書館   | 1979年 |    |
| 150～153 | 管鮑之交        | 国語教材 | 史記(史記会注考証)(再版)      | 巻32 16～19<br>巻62 2～4 | 司馬遷   | 宏業書局    | 1994年 |    |
| 154     | 貧交行         | 国語教材 | 杜工部集(四部叢刊本)(第2版)    | 426                  | 杜甫    | 商務印書館   | 1967年 |    |
| 155～158 | 孫臏          | 国語教材 | 史記(史記会注考証)(初版)      | 巻65<br>5～7、9～11      | 司馬遷   | 芸文印書館   | 1972年 |    |
| 159～162 | 張儀          | 国語教材 | 史記(史記会注考証)(第2刷)     | 巻70 2～5              | 司馬遷   | 芸文印書館   | 1980年 |    |
| 163～168 | 荊軻          | 国語教材 | 史記(史記会注考証)(初版)      | 巻86 20～36            | 司馬遷   | 芸文印書館   | 1972年 |    |
| 169     | 易水送別        | 国語教材 | 唐詩選(漢文大系本)(増補3版)    | 第2巻 巻6 2             | 李攀龍   | 富山房     | 1978年 |    |

※上記以外のものについては、編集委員による書き下ろしである。

〔図・地図〕

※自社で作成。

[写真]

| 申請図書        |                             | 出典 |              |     |       |       | 備考                       |              |
|-------------|-----------------------------|----|--------------|-----|-------|-------|--------------------------|--------------|
| ページ         | 名称                          | 種別 | 名称           | ページ | 著作者等  | 発行者   |                          | 発行年次等        |
| <b>第一分冊</b> |                             |    |              |     |       |       |                          |              |
| 見返③         | 梅                           | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 46652602     |
| 見返③         | 桜                           | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 54974908     |
| 見返③         | 藤                           | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 30824691     |
| 見返③         | 橘                           | 写真 |              |     |       |       | フォトオリジナル                 | 4165735      |
| 見返③         | 梨                           | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 7140369      |
| 見返③         | 桐                           | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 38332964     |
| 見返③         | 棟                           | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 17605054     |
| 8           | 『十訓抄』版本の挿絵                  | 写真 |              | 卷三  |       |       | 1721年 国立公文書館             |              |
| 9           | 天橋立                         | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 41057825     |
| 13          | 平兼盛                         | 写真 | 『佐竹本三十六歌仙絵』  |     |       |       | MOA美術館                   |              |
| 13          | 壬生忠見                        | 写真 | 『佐竹本三十六歌仙絵』  |     |       |       | 個人蔵                      |              |
| 18          | 兼好法師                        | 写真 |              |     | 伝狩野探幽 |       | 神奈川県立金沢文庫                |              |
| 19          | (月)                         | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 547695       |
| 22          | (かげろふ)                      | 写真 |              |     |       |       | 関根一希・東城幸治                |              |
| 23          | 現在のあだし野(念仏寺)                | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 12063174     |
| 26          | 鴨長明(伝土佐広周筆)                 | 写真 |              |     | 伝土佐広周 |       | 神宮文庫                     |              |
| 27          | 大福光寺本『方丈記』                  | 写真 |              |     |       |       | 大福光寺                     |              |
| 32          | 初冠(奈良絵本『伊勢物語』)              | 写真 | 奈良絵本『伊勢物語』   |     |       |       | 『日本古典籍データセット』(国文学研究資料館蔵) |              |
| 35          | 渚の院(奈良絵本『伊勢物語』)             | 写真 | 奈良絵本『伊勢物語』   |     |       |       | 『日本古典籍データセット』(国文学研究資料館蔵) |              |
| 37          | 小野の雪(奈良絵本『伊勢物語』)            | 写真 | 奈良絵本『伊勢物語』   |     |       |       | 『日本古典籍データセット』(国文学研究資料館蔵) |              |
| 41          | 狩りの使い(奈良絵本『伊勢物語』)           | 写真 | 奈良絵本『伊勢物語』   |     |       |       | 『日本古典籍データセット』(国文学研究資料館蔵) |              |
| 43          | (嫉捨山)                       | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 46722226     |
| 46          | ほととぎす                       | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 58441328     |
| 48          | 網代(『石山縁起』)                  | 写真 |              |     |       |       | 国立国会図書館デジタル化資料           |              |
| 64          | 脇息                          | 写真 | 桐鳳風時絵脇息      |     |       |       | ColBase                  |              |
| 67          | 若紫(『源氏物語絵巻』土佐光吉筆)           | 写真 |              |     | 土佐光吉  |       | 京都国立博物館                  |              |
| 70          | 夕顔                          | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 70          | 藤壺の宮                        | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 70          | 光源氏                         | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 70          | 朧月夜                         | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 71          | 葵の上                         | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 71          | 明石の君                        | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 71          | 紫の上                         | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 71          | 六条の御息所                      | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 72          | 栂木                          | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 72          | 女三の宮                        | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 72          | 光源氏                         | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 72          | 落葉の宮                        | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 72          | 雲居の雁                        | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 72          | 夕霧                          | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 72          | 紫の上                         | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 73          | 大君                          | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 73          | 中の君                         | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 73          | 匂宮                          | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 73          | 薫                           | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 73          | 浮舟                          | 写真 |              |     |       |       | 国文学研究資料館                 |              |
| 76          | 雲林院の菩提講(『大鏡絵詞』)             | 写真 | 『大鏡絵詞』       |     |       |       | 国立歴史民俗博物館                |              |
| 80          | 高御座                         | 写真 |              |     | 岡本茂男  |       | 宮内庁京都事務所・岡本写真工房          |              |
| 83          | 花山天皇の出家(『大鏡絵詞』)             | 写真 | 『大鏡絵詞』       |     |       |       | 国立歴史民俗博物館                |              |
| 85          | 祈禱する安倍晴明(『不動利益縁起絵巻』)        | 写真 | 『不動利益縁起絵巻』   |     |       |       | ColBase                  |              |
| 87          | 弓争い(『大鏡絵詞』)                 | 写真 | 『大鏡絵詞』       |     |       |       | 国立歴史民俗博物館                |              |
| 89          | 紫式部日記絵巻                     | 写真 |              |     |       |       | ColBase                  |              |
| 94          | 中宮(左)に漢籍を進講する紫式部(『紫式部日記絵詞』) | 写真 | 『紫式部日記絵詞』    |     |       |       | 個人蔵                      |              |
| 106         | 忠度の都落ち(『平家物語絵巻』)            | 写真 | 『平家物語絵巻』     | 卷七  |       |       | 林原美術館/DNPアートコミュニケーションズ   |              |
| 108         | 現在の壇の浦(山口県下関市)              | 写真 |              |     |       |       | アフロ                      | 13043987     |
| 109         | 壇の浦の戦い(『源平合戦図屏風』)           | 写真 | 『源平合戦図屏風』    |     |       |       | ColBase                  |              |
| 111         | 能登殿の最期(『平家物語絵巻』)            | 写真 | 『平家物語絵巻』     | 卷十一 |       |       | 林原美術館/DNPアートコミュニケーションズ   |              |
| 113         | 天草版平家物語巻第三                  | 写真 |              |     |       | 大英図書館 | 大英図書館                    |              |
| 114         | 俱利伽羅の戦い                     | 写真 | 奈良絵本『平家物語絵巻』 | 卷七  |       |       | 明星大学                     |              |
| 114         | 屋島の戦い                       | 写真 | 奈良絵本『平家物語絵巻』 | 卷十一 |       |       | 明星大学                     |              |
| 114         | 宇治平等院の戦い                    | 写真 | 奈良絵本『平家物語』   | 卷四  |       |       | 明星大学                     |              |
| 114         | 壇の浦の戦い                      | 写真 | 奈良絵本『平家物語絵巻』 | 卷十一 |       |       | 明星大学                     |              |
| 115         | 源頼朝                         | 写真 | 「源頼朝木像」      |     |       |       | 甲斐 善光寺                   |              |
| 115         | 平清盛                         | 写真 | 「平清盛公坐像」     |     |       |       | 六波羅蜜寺                    |              |
| 115         | 源義経                         | 写真 | 「源義経画像」      |     |       |       | 中尊寺                      |              |
| 117         | (幣)                         | 写真 |              |     |       |       | ユニフォトプレス                 | HAGA_k007331 |
| 119         | 義経・弁慶像(富山県高岡市)              | 写真 | 「如意の渡」       |     |       |       | アマナイメーجز                 | 27267000115  |
| 128         | 紫草                          | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 64053613     |
| 129         | (笹)                         | 写真 |              |     |       |       | PIXTA                    | 43656004     |

| 申請図書 |                                 | 出典 |                          |     |         |        | 備考    |                          |
|------|---------------------------------|----|--------------------------|-----|---------|--------|-------|--------------------------|
| ページ  | 名称                              | 種別 | 名称                       | ページ | 著作者等    | 発行者    | 発行年次等 |                          |
| 130  | 『万葉集』巻十九                        | 写真 |                          | 巻十九 |         |        |       | 『日本古典籍データセット』(国文学研究資料館蔵) |
| 131  | 古今和歌集仮名序(藤原定実筆)                 | 写真 |                          |     | 藤原定実    |        |       | 大倉集古館                    |
| 132  | 桂(かつら)                          | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 133  | (あやめぐさ)                         | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 135  | 『新古今和歌集』巻十一                     | 写真 |                          | 巻十一 |         |        |       | 国立公文書館                   |
| 137  | 卯木(卯の花)                         | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 138  | 八重桜                             | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 138  | 夕顔                              | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 138  | (灯笼)                            | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 139  | いばら                             | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 139  | 忘れ潮                             | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 147  | 「藤原保昌月下弄笛図」(月岡芳年筆)              | 写真 | 「藤原保昌月下弄笛図」              |     | 月岡芳年    |        |       | 国立国会図書館デジタル化資料           |
| 150  | 高坏                              | 写真 | 朱漆塗高杯                    |     |         |        |       | ColBase                  |
| 155  | 「琵琶の御琴 中宮定子」                    | 写真 |                          |     | 佐多芳郎    |        |       | 個人蔵                      |
| 156  | 「清少納言」(上村松園筆)                   | 写真 |                          |     | 上村松園    |        |       | 北野美術館                    |
| 159  | 『この世をば 藤原道長と平安王朝の時代』            | 写真 | 『この世をば 藤原道長と平安王朝の時代』     | 表紙  | 永井路子    | 朝日新聞出版 | 2023年 | 自社で撮影                    |
| 164  | 泔坏                              | 写真 |                          |     | 岡本茂男    |        |       | 宮内庁京都事務所・岡本写真工房          |
| 174  | 『源氏物語の結婚』                       | 写真 | 『源氏物語の結婚』                | 表紙  | 工藤重矩    | 中央公論新社 | 2012年 | 自社で撮影                    |
| 188  | 車争い(『源氏物語図屏風』)                  | 写真 | 『源氏物語図屏風』                |     | 伝岩佐又兵衛  |        |       | 京都国立博物館                  |
| 192  | 「焰」(上村松園筆)                      | 写真 |                          |     | 上村松園    |        |       | ColBase                  |
| 196  | 須磨(『源氏物語手鑑』土佐光吉筆)               | 写真 | 『源氏物語手鑑』                 |     | 土佐光吉    |        |       | 和泉市久保惣記念美術館              |
| 209  | 柗木の懸想(『源氏物語図屏風』)                | 写真 |                          |     |         |        |       | ColBase                  |
| 211  | 脇息                              | 写真 | 桐鳳風時絵脇息                  |     |         |        |       | ColBase                  |
| 212  | 紫の上を見守る光源氏と明石の中宮(『源氏物語絵巻(御法)』)  | 写真 | 『源氏物語絵巻(御法)』             |     |         |        |       | 五島美術館                    |
| 213  | 萩                               | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 216  | (舞楽「陵王」)                        | 写真 | 舞楽の陵王                    |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 216  | (隠月)                            | 写真 |                          |     |         |        |       | 国立音楽大学楽器学資料館             |
| 217  | 宇治の姫君を垣間見る薫(『源氏物語絵巻(橘姫)』)       | 写真 | 『源氏物語絵巻(橘姫)』             |     |         |        |       | 徳川美術館/DNPアートコミュニケーションズ   |
| 223  | 「紫式部図」(土佐光起筆)                   | 写真 | 「紫式部図」                   |     | 土佐光起    |        |       | 石山寺                      |
| 227  | 和泉式部(『百人一首図』狩野探幽筆)              | 写真 | 『百人一首図』                  |     | 狩野探幽    |        |       | ColBase                  |
| 228  | 鶺鴒(徴宗筆・模写)                      | 写真 |                          |     | 徴宗(模写)  |        |       | ColBase                  |
| 230  | 藤原定家(『新三十六歌仙図帖』狩野探幽筆)           | 写真 | 『新三十六歌仙図帖』               |     | 狩野探幽    |        |       | ColBase                  |
| 235  | 『松崎天神縁起絵巻』                      | 写真 | 『松崎天神縁起絵巻』               |     |         |        |       | 防府天満宮                    |
| 239  | 中宮安子の局を訪れる村上天皇(『大鏡絵詞』)          | 写真 | 『大鏡絵詞』                   |     |         |        |       | 国立歴史民俗博物館                |
| 241  | 鶯宿梅(『大鏡絵詞』)                     | 写真 | 『大鏡絵詞』                   |     |         |        |       | 国立歴史民俗博物館                |
| 244  | 「大堰川遊覧図屏風」(浮田一蕙筆)               | 写真 | 「大堰川遊覧図屏風」               |     | 浮田一蕙    |        |       | 御寺泉涌寺                    |
| 246  | 道長と隆家(『大鏡絵詞』)                   | 写真 | 『大鏡絵詞』                   |     |         |        |       | 国立歴史民俗博物館                |
| 252  | 世阿弥作「忠度」の一場面                    | 写真 |                          |     |         |        |       | 鏡仙会・前島吉裕                 |
| 252  | 能舞台                             | 写真 |                          |     |         |        |       | 国立能楽堂                    |
| 253  | 向井去来(栗原信充筆)                     | 写真 |                          |     | 栗原信充    |        |       | 国立国会図書館デジタル化資料           |
| 256  | 「芭蕉翁画像」(小川破笠筆)                  | 写真 |                          |     | 小川破笠    |        |       | 芭蕉翁顕彰会(芭蕉翁記念館)           |
| 258  | 近松門左衛門                          | 写真 |                          |     |         |        |       | 大阪歴史博物館                  |
| 260  | 本居宣長自画像                         | 写真 | 本居宣長六十一歳自画像自賛像           |     |         |        |       | 本居宣長記念館                  |
| 264  | 暮を打つなどしてくつろぐ女性(模本『源氏物語絵巻(竹河二)』) | 写真 | 『源氏物語絵巻(竹河二)』(模本)        |     |         |        |       | 徳川美術館/DNPアートコミュニケーションズ   |
| 264  | (御帳台 復元)                        | 写真 |                          |     |         |        |       | 国立歴史民俗博物館                |
| 272  | 『掃墨物語絵巻』                        | 写真 | 『掃墨物語絵巻』                 | 上巻  |         |        |       | 徳川美術館/DNPアートコミュニケーションズ   |
| 276  | 版本の挿絵                           | 写真 | 『近年諸国咄天下馬』               | 巻一  |         |        | 1685年 | 天理大学附属天理図書館              |
| 278  | 井原西鶴                            | 写真 | 井原西鶴像 模本                 |     | 芳一品(模写) |        |       | 東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ |
| 280  | 園怨(『雨月物語<浅茅ヶ宿>』森田曠平筆)           | 写真 | 『雨月物語<浅茅ヶ宿>』             |     | 森田曠平    |        |       | 個人蔵                      |
| 281  | 掃郷(『雨月物語<浅茅ヶ宿>』森田曠平筆)           | 写真 | 『雨月物語<浅茅ヶ宿>』             |     | 森田曠平    |        |       | 個人蔵                      |
| 283  | 掃郷(『雨月物語<浅茅ヶ宿>』森田曠平筆)           | 写真 | 『雨月物語<浅茅ヶ宿>』             |     | 森田曠平    |        |       | 個人蔵                      |
| 308  | 東三条殿復元模型                        | 写真 |                          |     |         |        |       | 国立歴史民俗博物館                |
| 308  | (寝殿の内部)                         | 写真 |                          |     |         |        |       | 池浩三/西村孝一法律事務所            |
| 308  | (牛車)                            | 写真 | 『故実叢書 輿車図考附図』            |     | 今泉定介    | 吉川弘文館  | 1900年 | 弘前市立弘前図書館                |
| 309  | 中世初期公家調度(復元)                    | 写真 |                          |     |         |        |       | 国立歴史民俗博物館                |
| 309  | 夏の暑い日、釣殿で涼む光源氏と公達(『源氏物語』常夏の巻)   | 写真 | 『源氏物語六条院の生活』より釣殿での涼み(常夏) |     |         |        |       | 風俗博物館                    |
| 310  | やまぶき                            | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | やなぎ                             | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | ふじ                              | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | さくら                             | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | うめ                              | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | つばくらめ(つばめ)                      | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | うぐいす                            | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | せり                              | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | なずな                             | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | ごぎょう                            | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | はこべら(はこべ)                       | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | ほとけのぎ(たびらこ)                     | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | すずな(かぶ)                         | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |
| 310  | すずしろ(だいこん)                      | 写真 |                          |     |         |        |       | PIXTA                    |

| 申請図書        |                     | 出典 |               |     |      |     | 備考    |                          |           |
|-------------|---------------------|----|---------------|-----|------|-----|-------|--------------------------|-----------|
| ページ         | 名称                  | 種別 | 名称            | ページ | 著作者等 | 発行者 |       | 発行年次等                    |           |
| 310         | うのはな(うつき)           | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 2215280   |
| 310         | すえつむいはな(べにばな)       | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 14492772  |
| 310         | あおい                 | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 34279534  |
| 310         | ほととぎす               | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 58441328  |
| 310         | ほたる                 | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 41452242  |
| 310         | かきつばた               | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 2501577   |
| 310         | しょうぶ(あやめ)           | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 50157774  |
| 310         | はちす(はす)             | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 30880459  |
| 310         | たちばな                | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 98021418  |
| 311         | さざんか                | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 27430791  |
| 311         | すいせん                | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 28673727  |
| 311         | みやこどり(ゆりかもめ)        | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 48034163  |
| 311         | ちどり                 | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 60926833  |
| 311         | おし(おしどり)            | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 38652557  |
| 311         | まき                  | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 405982    |
| 311         | かつら                 | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 18296014  |
| 311         | はぎ                  | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 12384448  |
| 311         | おぼな(すずき)            | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 59447930  |
| 311         | くず                  | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 43924075  |
| 311         | なでしこ                | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 16043086  |
| 311         | おみなえし               | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 42510207  |
| 311         | ふじばかま               | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 12807279  |
| 311         | あさがお(ききょう)          | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 54932511  |
| 311         | かり・かりがね(がん)         | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 50393816  |
| 311         | かり・かりがね(がん)         | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 54036763  |
| 311         | しのぶ・しのぶぐさ(のきしのぶ)    | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 62231677  |
| 311         | しおん                 | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 50737039  |
| 311         | きく                  | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 60269619  |
| 311         | きりぎりす(こおろぎ)         | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 39825264  |
| 311         | まつむし(すずむし)          | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 12097225  |
| 311         | ひぐらし                | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 23874784  |
| 311         | あさじ(ち・ちがや)          | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 50687496  |
| 311         | もみじ(かえて)            | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 5764219   |
| 314         | 歌合(『天徳四年内裏歌合復元図』)   | 写真 | 『天徳内裏歌合復元図』   |     |      |     |       | 京都文化博物館                  |           |
| 314         | 管弦の遊び(冷泉為恭筆「春秋行楽図」) | 写真 | 「春秋行楽図」       |     | 冷泉為恭 |     |       | MOA美術館                   |           |
| 314         | 双六盤(上)              | 写真 |               |     |      |     |       | ColBase                  |           |
| 314         | 具合(下)               | 写真 |               |     |      |     |       | ColBase                  |           |
| 314         | 絵合(『源氏物語団扇画帖』)      | 写真 | 『源氏物語団扇画帖』    |     |      |     |       | 国文学研究資料館                 |           |
| 314         | 蹴鞠(『年中行事絵巻』住吉本(巻三)) | 写真 |               |     |      |     |       | 東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ |           |
| 315         | 葡萄色の小桂・紅梅襲の匂いの桂     | 写真 |               |     |      |     |       | 風俗博物館                    |           |
| 315         | 浅縹の小桂・紅の薄様襲の桂       | 写真 |               |     |      |     |       | 風俗博物館                    |           |
| 316         | 武官の束帯姿              | 写真 | 『有職故実』        | 第一巻 | 鈴木敬三 | 全教図 | 1983年 | 全教図                      |           |
| 316         | 文官の束帯姿              | 写真 | 『有職故実』        | 第一巻 | 鈴木敬三 | 全教図 | 1983年 | 全教図                      |           |
| 316         | 直衣                  | 写真 | 『有職故実』        | 第一巻 | 鈴木敬三 | 全教図 | 1983年 | 全教図                      |           |
| 316         | 狩衣                  | 写真 |               |     |      |     |       | 風俗博物館                    |           |
| 317         | (女房装束(前))           | 写真 | 『有職故実』        | 第二巻 | 鈴木敬三 | 全教図 | 1984年 | 全教図                      |           |
| 317         | (女房装束(後ろ))          | 写真 | 『有職故実』        | 第二巻 | 鈴木敬三 | 全教図 | 1984年 | 全教図                      |           |
| 317         | 壺装束                 | 写真 |               |     |      |     |       | 風俗博物館                    |           |
| 317         | (桂)                 | 写真 | 『有職故実』        | 第二巻 | 鈴木敬三 | 全教図 | 1984年 | 全教図                      |           |
| 318         | (大鑑姿(前面))           | 写真 | 『有職故実』        | 第三巻 | 鈴木敬三 | 全教図 | 1983年 | 全教図                      |           |
| 318         | (大鑑姿(後面))           | 写真 | 『有職故実』        | 第三巻 | 鈴木敬三 | 全教図 | 1983年 | 全教図                      |           |
| 318         | 兵庫鎖の太刀              | 写真 | 三鱗紋兵庫鎖太刀      |     |      |     |       | ColBase                  |           |
| 318         | (馬具をつけた馬)           | 写真 | 大和鞍           |     |      |     |       | 馬の博物館                    |           |
| 319         | 出産(『北野天神縁起絵巻』)      | 写真 | 『北野天神縁起絵巻』    | 巻八  |      |     |       | 北野天満宮                    |           |
| 319         | 五十日の祝い(『紫式部日記絵巻』)   | 写真 | 『紫式部日記絵巻』     | 第二段 |      |     |       | 五島美術館                    |           |
| 319         | 初冠(『聖徳太子絵伝』)        | 写真 | 『聖徳太子絵伝』      | 第一幅 |      |     |       | ColBase                  |           |
| 319         | 露頭(『源氏物語絵巻』(宿木二))   | 写真 | 『源氏物語絵巻(宿木二)』 |     |      |     |       | 徳川美術館/DNPアートコミュニケーションズ   |           |
| 319         | 五十の賀(『北野天神縁起絵巻』)    | 写真 | 『北野天神縁起絵巻』    | 巻二  |      |     |       | 北野天満宮                    |           |
| 319         | 野辺送り(『北野天神縁起絵巻』)    | 写真 | 『北野天神縁起絵巻』    | 巻八  |      |     |       | 北野天満宮                    |           |
| 見返⑤         | 清涼殿                 | 写真 |               |     |      |     |       | 宮内庁京都事務所                 |           |
| 見返⑤         | 清涼殿東面               | 写真 |               |     |      |     |       | 宮内庁京都事務所                 |           |
| 見返⑤         | 清涼殿西廂               | 写真 |               |     | 岡本茂男 |     |       | 宮内庁京都事務所・岡本写真工房          |           |
| 見返⑥         | 紫宸殿                 | 写真 |               |     |      |     |       | 宮内庁京都事務所                 |           |
| 見返⑥         | 清涼殿殿上の間             | 写真 |               |     |      |     |       | 宮内庁京都事務所                 |           |
| 見返⑥         | 承明門から紫宸殿を望む         | 写真 |               |     |      |     |       | 宮内庁京都事務所                 |           |
| 見返⑥         | 清涼殿皇の御座             | 写真 |               |     |      |     |       | 宮内庁京都事務所                 |           |
| 見返⑥         | 清涼殿夜の御殿             | 写真 |               |     | 岡本茂男 |     |       | 宮内庁京都事務所・岡本写真工房          |           |
| <b>第二分冊</b> |                     |    |               |     |      |     |       |                          |           |
| 見返②         | 烏江                  | 写真 |               |     |      |     |       | CPC                      | YS-2804a  |
| 見返②         | 易水                  | 写真 |               |     |      |     |       | アフロ                      | 239033208 |
| 見返②         | 函谷関                 | 写真 |               |     |      |     |       | PIXTA                    | 28852839  |

| 申請図書 |                       | 出典 |                      |         |             |         | 備考    |                                      |
|------|-----------------------|----|----------------------|---------|-------------|---------|-------|--------------------------------------|
| ページ  | 名称                    | 種別 | 名称                   | ページ     | 著作者等        | 発行者     | 発行年次等 |                                      |
| 見返②  | 廬山(香炉峰)               | 写真 |                      |         |             |         |       | アフロ 142015711                        |
| 見返②  | 蜀の栈道                  | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC YS-89574b                        |
| 見返③  | 万里の長城                 | 写真 |                      |         |             |         |       | PIXTA 3983222                        |
| 11   | (カマキリ)                | 写真 |                      |         |             |         |       | PIXTA 12510142                       |
| 16   | 堯                     | 写真 |                      |         |             |         |       | 国立公文書館                               |
| 20   | 孟嘗君                   | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC PT-13218                         |
| 24   | 韓信                    | 写真 |                      |         |             |         |       | 国立公文書館                               |
| 26   | 『史記』                  | 写真 |                      |         |             |         |       | 東北大学附属図書館                            |
| 26   | 『十八史略』                | 写真 | 『十八史略』               | 表紙      | 今西凱夫訳 三上英司編 | 筑摩書房    | 2014年 | 自社で撮影                                |
| 28   | 韓愈                    | 写真 |                      |         |             |         |       | ユニフォトプレス FOE_12134253                |
| 29   | 「人馬図」(趙雍筆)            | 写真 |                      |         | 趙雍          |         |       | アフロ 15209397                         |
| 30   | 柳宗元                   | 写真 |                      |         |             |         |       | アフロ 15209391                         |
| 32   | 歐陽脩                   | 写真 |                      |         |             |         |       | アフロ 15056593                         |
| 33   | 北宋の銅銭                 | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC YS-91015                         |
| 34   | 蘇軾                    | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC                                  |
| 40   | (玉珎)                  | 写真 |                      |         |             |         |       | ユニフォトプレス BAL_FSG5950982              |
| 41   | 「鴻門会」(安田靱彦筆)          | 写真 |                      |         | 安田靱彦        |         |       | 東京国立近代美術館/DNPアートコミュニケーションズ/<br>安田由紀夫 |
| 48   | 「項羽」(安田靱彦筆)           | 写真 |                      |         | 安田靱彦        |         |       | 東京国立近代美術館/DNPアートコミュニケーションズ/<br>安田由紀夫 |
| 52   | 司馬遷                   | 写真 |                      |         |             |         |       | 国立公文書館                               |
| 53   | 劉邦                    | 写真 |                      |         |             |         |       | 国立公文書館                               |
| 53   | 項羽                    | 写真 |                      |         |             |         |       | 国立公文書館                               |
| 59   | 浣花溪                   | 写真 |                      |         |             |         |       | ユニフォトプレス fotoe20523066               |
| 72   | (アリ)                  | 写真 |                      |         |             |         |       | PIXTA 68263675                       |
| 77   | 『詳注聊齋志異図詠』より          | 写真 | 『詳注聊齋志異図詠』下冊         | 巻14・19頁 |             | 北京市中国書店 | 1981年 | 自社で撮影                                |
| 82   | 『中国古典小説選』             | 写真 | 『中国古典小説選』            | 表紙      | 竹田晃・黒田真美子編  | 明治書院    | 2007年 | 自社で撮影                                |
| 85   | 「孔子杏壇講学図」             | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC JB-216                           |
| 88   | 垂聖殿(山東省鄒城市)           | 写真 |                      |         |             |         |       | アフロ 5687662                          |
| 88   | 孟子                    | 写真 |                      |         |             |         |       | 国立公文書館                               |
| 103  | 草廬三顧(下村観山筆)           | 写真 |                      |         | 下村観山        |         |       | 駿府博物館                                |
| 106  | (赤壁の戦い)               | 写真 | 『中華古文明大図集』           | 5-144   |             | 人民日報出版社 | 1992年 | CPC YS-102734                        |
| 111  | 曹操                    | 写真 |                      |         |             |         |       | 国立公文書館                               |
| 111  | 孫権                    | 写真 |                      |         |             |         |       | 国立公文書館                               |
| 111  | 劉備                    | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC PT-120325                        |
| 112  | 諸葛亮(『絵本通俗三国志』)        | 写真 |                      |         |             |         |       | 弘前市立博物館                              |
| 112  | 『三国志演義の世界 増補版』        | 写真 | 『増補版 三国志演義の世界』       | 表紙      | 金文京         | 東方書店    | 2010年 | 自社で撮影                                |
| 119  | 「五柳先生屏風」(横山大観筆)       | 写真 | 「五柳先生屏風」             |         | 横山大観        |         |       | 東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ             |
| 121  | 「春夜桃李園沈香亭図」(仇英筆)      | 写真 | 「春夜桃李園沈香亭図」          |         | 仇英          |         |       | ColBase                              |
| 123  | 柳侯祠(広西壮族自治区柳州市)       | 写真 | 広西壮族自治区柳州市 柳侯祠 入り口の門 |         |             |         |       | アフロ 141375676                        |
| 128  | (桃の花)                 | 写真 |                      |         |             |         |       | PIXTA 92557162                       |
| 132  | 石壕の吏                  | 写真 |                      |         |             |         |       | ユニフォトプレス FAI_AP1339                  |
| 142  | 老子                    | 写真 | 『集古像賛』               |         |             |         | 1936年 | 国立公文書館                               |
| 144  | 莊子                    | 写真 | 『集古像賛』               |         |             |         | 1936年 | 国立公文書館                               |
| 146  | 韓非                    | 写真 |                      |         |             |         |       | サイネットフォト ABM110347159                |
| 148  | 『超入門「中国思想」』           | 写真 | 『超入門「中国思想」』          | 表紙      | 湯浅邦弘        | 大和書房    | 2016年 | 自社で撮影                                |
| 163  | 「易水離別図」(寺崎広業筆)        | 写真 |                      |         |             |         |       | 秋田市立千秋美術館                            |
| 170  | 撃鼓説唱俑(講釈師をかたどった人形)    | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC KJ-72a                           |
| 170  | 『現代語訳 史記』             | 写真 | 『現代語訳 史記』            | 表紙      | 大木康訳・解説     | 筑摩書房    | 2011年 | 自社で撮影                                |
| 見返⑤  | 矛                     | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC JB-251b                          |
| 見返⑤  | 戟                     | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC JB-232                           |
| 見返⑤  | 戦国時代の兵士               | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC JBD-890                          |
| 見返⑤  | 弩                     | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC JB-237                           |
| 見返⑤  | 盾                     | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC JB-240                           |
| 見返⑤  | 劍                     | 写真 |                      |         |             |         |       | Colbase                              |
| 見返⑤  | 羽觶                    | 写真 |                      |         |             |         |       | ColBase                              |
| 見返⑤  | 鼎                     | 写真 |                      |         |             |         |       | Colbase                              |
| 見返⑥  | 皇帝の礼装(伝閔立本筆「隋の文帝」)    | 写真 |                      |         |             |         |       | ユニフォトプレス 9.AKG3808029                |
| 見返⑥  | 宮女の服装(伝周昉「簪花仕女図」)     | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC PT-13211                         |
| 見返⑥  | 文官の服装(唐・章懷太子墓壁図「迎賓図」) | 写真 |                      |         |             |         |       | 時事通信社 47375090                       |
| 見返⑥  | 壁                     | 写真 |                      |         |             |         |       | アフロ 236184882                        |
| 見返⑥  | 環                     | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC K1C000977N000000000PAC           |
| 見返⑥  | 玦                     | 写真 |                      |         |             |         |       | ユニフォトプレス 3.5950982                   |
| 見返⑥  | 琴                     | 写真 |                      |         |             |         |       | サイネットフォト ABM110486352                |
| 見返⑥  | 琵琶                    | 写真 |                      |         |             |         |       | Colbase                              |
| 見返⑥  | 瑟                     | 写真 |                      |         |             |         |       | アーテファクトリー CPC KJ-46                  |
| 見返⑥  | 筑                     | 写真 |                      |         |             |         |       | CPC JB-1045                          |

- 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。  
(2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること(別途契約を締結する場合を除く)。

備考4の内容について確認しました。☑

原典に加除訂正を加えた箇所と加除訂正の理由

| 单元名   | ページ・行  | 本文  | 原典  | 訂正理由  |
|-------|--|---|---|---|
| 第一分冊  |  |   |   |   |
| 説話(一) | p8・3<br>p11・上2<br>p11・上2   | 参りにたりや<br>式部が娘、<br>わづらひけり。〈改行〉  | まいりにたるや<br>同式部がむすめ、   | 諸本により校訂。<br>一編の説話として完結性をもたせるため。<br>わかりやすくするため。以下、改行した箇所については同様の理由による。   |
| 随筆(一) | p13・2<br>p15・6   | かく重り侍りぬ<br>者なりけり。〈このあと原文削除〉   | カク思侍リヌ  | 諸本により校訂。<br>一編の説話として完結性をもたせるため。   |
| 物語(一) | p20・10<br>p32・11<br>p35・7  | 鼻のほどおごめきて<br>おいつきて<br>親王、〈一字下げなし〉   | 鼻のほどおごめきて<br>をいつきて  | 注3に示した解釈をしたため。<br>注5に示した解釈をしたため。<br>わかりやすくするため。以下、改行をはずした箇所については同様の理由による。   |
| 随筆(二) | p46・8<br>p48・2<br>p48・9<br>p48・14<br>p48・14<br>p50・11<br>p50・14<br>p52・9<br>p54・13   | よにすさまじきものにして、<br>乳児亡くなりたる産屋。〈このあと原文削除〉<br>え問ひにだにも問はず。<br>いとほしう、<br>すさまじげなり。<br>十七、八ばかりにやあらむ、<br>衣の裾にはづれて<br>大殿籠りたり。<br>のちのちのは御前に。〈このあと原文削除〉 | よにすさまじきものにて、<br><br>え問ひだにも問はず、<br>いとおかしう<br>すさまじげなる。<br>十七八ばかりやあらん、<br>衣の裾にかくれて、<br>御とのごもりたり。                 | 諸本により校訂。<br>採録スペースの関係による。<br>諸本により校訂。<br>諸本により校訂。<br>諸本により校訂。<br>諸本により校訂。<br>能因本の本文により校訂。<br>諸本により校訂。<br>採録スペースの関係による。                          |
| 物語(二) | p59・6<br>p60・7<br>p65・1<br>p75・4<br><br>p76・2<br>p76・13<br>p76・14<br>p76・15<br>p82・2 | 男皇子<br>もの思ひをぞし給ふ。〈改行なし〉<br>十ばかりにやあらむ<br>言ふやう、〈改行なし〉<br><br>大宅世継<br>繁樹<br>いとあさまじうなりぬ。〈改行なし〉<br>居寄りなどしけり。〈このあと原文削除〉<br>懐子と申す。〈このあと原文削除〉       | 男御子<br><br>十ばかりやあらむ<br><br>大宅世次<br>重木   | 諸本により校訂。<br>帝の「みこ」については「皇子」「皇女」の表記に統一した。<br>教科書採録の都合による。<br>原典の誤りと思われるため。<br>採録スペースの関係による。以下、会話文の改行については同様の理由による。<br>一般的な表記に改めた。<br>一般的な表記に改めた。 |
| 日記(一) | p97・7  | いかた   | いかだ   | 伝未詳の地名で、清濁の判断に信憑性がないため。   |
| 物語(三) | p104・小題ほか<br>p116・5<br>p118・9  | 忠度<br>如意の渡り<br>「かやうに我らに当たれば、出羽の国へ<br>今年明年にこの国の者越えぬことはよ<br>もあらじ、坂田の渡りは、このをさなき人<br>の父、坂田次郎殿の知行なり、ただ今<br>この返礼すべきものを。」                          | 忠教<br>二位の渡り<br>「か様に我らに当たれば、出羽の国へ<br>今年明年にこの国の者越えぬ事は<br>よもあらじ。坂田の渡りは、この幼き<br>人の父、坂田次郎殿の知行なり。<br>只今この返礼すべきものを。」 | 一般的な表記に改めた。<br>伝未詳の地名なので、表題と統一した。<br>「出羽の国へ……知行なり」が挿入句であることを明確にするため。  |
| 和歌・俳諧 | p129・1   | 妻に別れて   | 妻を別れて   | 諸本の校訂に従う。   |
| 説話(二) | p142・3<br>p142・10  | なまじひに参り給ふ。〈改行〉道に、<br>かかる病人とても   | なまじひに罷りける道に、<br>かかる非人とても  | 神宮文庫本の本文により校訂。<br>教育的配慮による。   |

| 单元名   | ページ・行   | 本文   | 原典   | 訂正理由  |
|-------|---|--|--|---|
| 随筆(三) | p146・2<br>p146・3<br>p146・7<br>p150・4<br>p151・10<br>p157・4 | うかがひありきけるに、<br>衣あまた着たりける主の、<br>我に人こそつきたれと<br>大殿油<br>をかし。〈このあと原文削除〉<br>言ひ伝へられけり。                        | うかぢひあるきけるに、<br>衣、あまた着たるなるぬしの、<br>我に人こそ付たると<br>御殿油  | 諸本により校訂。<br>諸本により校訂。<br>諸本により校訂。<br>一般的な表記に改めた。<br>採録スペースの関係による。  |
| 日記(三) | p162・1  | 九月ばかりになりて  | いひ伝へられける。<br>さて、九月ばかりになりて  | 教育的配慮による。<br>部分採録のため。   |
| 物語(四) | p180・1<br>p180・2<br>p180・12<br>p182・15                    | 寛平法皇、<br>月明らかなり。〈このあと原文削除〉<br>跡なり。〈このあと原文削除〉<br>などと言う。   | 「資仲卿曰はく、「寛平法皇、<br><br>〈原文では、会話文のあととは一字下げで始まっているが、教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため、一字下げをやめ、普通の形に改めた。なお、以後についても同様。〉 | 一編の説話として完結性をもたせるため。<br>教育的配慮による。<br>一編の説話として完結性をもたせるため。<br>教科書として適切な表現に改めた。                                   |
| 評論(一) | p190・6<br>p201・2<br>p220・1<br>p224・6<br><br>p226・1        | 御祈り<br>並びなきことをば<br>「すべて、あまりに<br>行く末うたてのみ侍るは。   | 御祈禱<br>並びなきことは<br>また、人、「すべて、あまりに<br>行末うたてのみはべれば、   | 一般的な表記に改めた。<br>諸本により校訂。<br>部分採録のため。<br>底本の黒川本の本文が「侍は」であることから、<br>文意に合わせて「侍るは。」と読むように校訂。<br>冷泉家時雨亭文庫本の本文により校訂。 |
| 物語(五) | p228・10<br>p229・3<br>p230・1<br>p247・5                     | 歌のよしあしを知らむことは、ことのほかの<br>大事なめり。<br>申しは、〈このあと小題削除〉<br>なりぬる。」とぞ。〈このあと小題削除〉<br>本歌取り侍るやうは、<br>乱れ遊ばせ給ひけるさまなど | 歌のよしあしをも知らむ事は、ことの<br>ほかのためしなめり。<br><br>また、本歌取り侍るやうは、<br>乱れ遊ばせたまけるさまなど                                      | 教科書採録の都合による。<br>教科書採録の都合による。<br>部分採録のため。<br>諸本により校訂。  |
| 評論(二) | p250・6<br>p251・2<br>p252・1<br>p256・9<br>p258・3            | とまるなり。〈このあと原文削除〉<br>相なり。〈このあと原文削除〉<br>いやましにすべし。〈このあと原文削除〉<br>いふべし。〈このあと小題削除〉<br>歌舞伎                    |  | 採録スペースの関係による。<br>採録スペースの関係による。<br>採録スペースの関係による。<br>教科書採録の都合による。<br>一般的な表記に改めた。                                |
| 物語(六) | p264・5<br>p268・10<br>p271・3                               | 御帳のうちに<br>給ひぬる<br>ぜひも知らず、  | 哥舞妓<br>御帳のうちにぞ<br>給ひぬ<br>ぜひも知らず。   | 諸本により校訂。<br>諸本により校訂。<br>注16に示した解釈をしたため。   |
| 近世の小説 | p279・5<br>p282・13<br>p284・7                               | 〈この前原文削除〉妻涙をとどめて、<br>日高くさし昇りぬ。〈このあと原文削除〉<br>明かしける。〈このあと原文削除〉   |  | 採録スペースの関係による。<br>採録スペースの関係による。<br>採録スペースの関係による。   |
| 第二分冊  |   |  |  |   |
| 故事・寓話 | p8・1<br>p12・1   | 賈島<br>晋景公  | 島<br>公   | わかりやすくするため。<br>わかりやすくするため。  |
| 古代の史話 | p16・3<br>p16・5  | 陶唐氏〈このあと原文削除〉<br>三等〈このあと原文削除〉  |  | 採録スペースの関係による。<br>採録スペースの関係による。  |

| 单元名     | ページ・行  | 本文                  | 原典       | 訂正理由   |             |
|---------|--------|---------------------|----------|--|-------------|
| 名家の文章   | p24・4  | 漢三年                 | 三年       | 抜粋であるので、学習者に理解しやすくするため。                        |             |
|         | p24・4  | 韓信・張耳               | 信耳       | 抜粋であるので、学習者に理解しやすくするため。                        |             |
|         | p24・4  | 擊趙〈このあと原文削除〉        |          | 『史記』の本文と内容が異なるため。                              |             |
|         | p24・5  | 禦之〈このあと原文削除〉        |          | 採録スペースの関係による。                                  |             |
|         | p24・5  | 夜半、信伝               | 夜半伝      | 原文削除により主語が不明確になったため。                           |             |
|         | p35・2  | 可以治怯〈このあと原文削除〉      |          | 教育的配慮による。                                      |             |
|         | p35・3  | 公遂大笑〈このあと原文削除〉      |          | 採録本文と直接関係がないため。                                |             |
|         | 項羽と劉邦  | p38・13              | 楚軍行略定秦地  | 行略定秦地  | わかりやすくするため。 |
|         |        | p42・8               | 眦        | 眦  | 通行本によって改めた。 |
|         |        | p43・6               | 毫毛       | 豪毛   | 一般的表記に改めた。  |
| p45・4   |        | 驪山                  | 麗山       | 通行本によって改めた。                                    |             |
| p45・7   |        | 一双                  | 一璧       | 通行本によって改めた。                                    |             |
| p50・11  |        | 項王                  | 籍        | わかりやすくするため。                                    |             |
| p57・2   |        | 佳節                  | 嘉節       | 通行本によって改めた。                                    |             |
| p57・6   |        | 辞                   | 離        | 通行本によって改めた。                                    |             |
| p57・7   |        | 人煙                  | 人烟       | 通行本によって改めた。                                    |             |
| p63・9   |        | 何                   | 可        | 通行本によって改めた。                                    |             |
| 儒家の思想逸話 | p91・上9 | 犯文乱理                | 犯分亂理     | 愈越『諸子平議』によって改めた。                               |             |
|         | p97・2  | 粗                   | 犮        | わかりやすくするため。                                    |             |
|         | p98・1  | 人有言知不死之道者           | 人言有不死之道者 | 『列子集釈』によって改めた。                                 |             |
| 三国志の世   | p108・4 | 諸葛亮                 | 亮        | 抜粋であるので、学習者に理解しやすくするため。                        |             |
|         | p108・4 | 司馬懿                 | 懿        | 抜粋であるので、学習者に理解しやすくするため。                        |             |
|         | p114・7 | 醜                   | 醜        | 通行本によって改めた。                                    |             |
| 諸家の文章   | p115・4 | 乃歌曰                 | 歌曰       | 通行本によって改めた。                                    |             |
|         | p122・3 | 太医                  | 大医       | 一般的表記に改めた。                                     |             |
|         | p123・3 | 感                   | 戚        | p122・8と同じ字に統一した。                               |             |
|         | p131・6 | 惟                   | 所        | 通行本によって改めた。                                    |             |
|         | p137・7 | 欄干                  | 欄干       | わかりやすくするため。                                    |             |
| 道家・法家の  | p140・6 | 枕言にせさせ給ふ。〈このあと原文削除〉 |          | 採録スペースの関係による。                                  |             |
|         | p142・2 | 知恵                  | 智慧       | わかりやすくするため。                                    |             |
|         | p142・5 | 於                   | 于        | わかりやすくするため。                                    |             |
| 史記の群像   | p142・6 | 強                   | 彊        | わかりやすくするため。                                    |             |
|         | p150・2 | 醉殺魯桓公〈このあと原文削除〉     |          | 教育的配慮による。                                      |             |
|         | p150・2 | 糾                   | 次弟糾      | わかりやすくするため、兄弟関係については脚注に記載した。<br>p150・3「小白」も同様。 |             |
|         | p150・4 | 鮑叔傅之〈このあと原文削除〉      |          | 採録本文と直接関係がないため。                                |             |
|         | p152・1 | 桓公従之〈このあと原文削除〉      |          | 採録スペースの関係による。                                  |             |
|         | p152・6 | 鮑叔知其賢〈このあと原文削除〉     |          | 前後の内容との重複を避けるため。                               |             |
|         | p162・5 | 此吾在術中               | 此在吾術中    | 考証の注によって改めた。                                   |             |
|         | p163・3 | 読書撃剣〈このあと原文削除〉      |          | 採録スペースの関係による。以下、削除については同様。                     |             |
|         | p168・5 | 銅柱                  | 桐柱       | 考証の注によって改めた。                                   |             |

# ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

| 申請図書 |     |        | 学習上の参考にする情報 |          |                              | 備考     |
|------|-----|--------|-------------|----------|------------------------------|--------|
| 番号   | ページ | 種別     | 参照先         | URL      | 概要                           |        |
| 第一分冊 |     |        |             |          |                              |        |
| 1    | 3   | 二次元コード |             | 自社ページURL | コンテンツリスト                     | 別紙1添付  |
|      | 3   | URL    |             | 自社ページURL | コンテンツリスト                     | 別紙1添付  |
|      | 表4  | 二次元コード |             | 自社ページURL | コンテンツリスト                     | 別紙1添付  |
| 2    | 8   | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『古今著聞集』小式部内侍が大江山の歌の事 重要古語の確認 | 別紙2添付  |
| 3    | 12  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『沙石集』歌ゆゑに命を失ふ事 重要古語の確認       | 別紙3添付  |
| 4    | 14  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『今物語』やさし蔵人 重要古語の確認           | 別紙4添付  |
| 5    | 18  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『徒然草』よろづのことは、月見るにこそ 重要古語の確認  | 別紙5添付  |
| 6    | 20  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『徒然草』世に語り伝ふること 重要古語の確認       | 別紙6添付  |
| 7    | 22  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『徒然草』あだし野の露消ゆるときなく 重要古語の確認   | 別紙7添付  |
| 8    | 24  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『徒然草』飛鳥川の淵瀬 重要古語の確認          | 別紙8添付  |
| 9    | 26  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『方丈記』ゆく川の流れ 重要古語の確認          | 別紙9添付  |
| 10   | 28  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『方丈記』安元の大火 重要古語の確認           | 別紙10添付 |
| 11   | 29  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 参考資料：『方丈記』「日の山の閑居」           | 別紙11添付 |
|      |     |        |             | 自社ページURL | 参考資料：『方丈記』「結び」               | 別紙12添付 |
|      |     |        |             | 自社ページURL | 参考資料：草庵図（推定）                 | 別紙13添付 |
| 12   | 32  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『伊勢物語』初冠 重要古語の確認             | 別紙14添付 |
| 13   | 34  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『伊勢物語』渚の院 重要古語の確認            | 別紙15添付 |
| 14   | 36  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『伊勢物語』小野の雪 重要古語の確認           | 別紙16添付 |
| 15   | 38  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 読み比べる・伊勢物語 重要古語の確認           | 別紙17添付 |
| 16   | 39  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『伊勢物語』狩りの使ひ 重要古語の確認          | 別紙18添付 |
| 17   | 42  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『大和物語』姨捨 重要古語の確認             | 別紙19添付 |
| 18   | 46  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『枕草子』木の花は 重要古語の確認            | 別紙20添付 |
| 19   | 48  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『枕草子』すさまじきもの 重要古語の確認         | 別紙21添付 |
| 20   | 50  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『枕草子』野分のまたの日こそ 重要古語の確認       | 別紙22添付 |
| 21   | 52  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『枕草子』二月つごもりごろに 重要古語の確認       | 別紙23添付 |
| 22   | 54  | 二次元コード |             | 自社ページURL | 『枕草子』頭弁の、職に参り給ひて 重要古語の確認     | 別紙24添付 |

| 申請図書 |     |        | 学習上の参考に供する情報 |   |                                     | 備考     |
|------|-----|--------|--------------|---|-------------------------------------|--------|
| 番号   | ページ | 種別     | 参照先          | URL   | 概要                                  |        |
| 23   | 58  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『源氏物語』 光る君誕生 重要古語の確認                | 別紙25添付 |
| 24   | 61  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『源氏物語』 藤壺の宮の入内 重要古語の確認              | 別紙26添付 |
| 25   | 64  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『源氏物語』 若紫 重要古語の確認                   | 別紙27添付 |
| 26   | 69  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 参考資料：『源氏物語』 「光る君の誕生」 本文（続き）         | 別紙28添付 |
| 27   | 75  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『大鏡』 雲林院の菩提講 重要古語の確認                | 別紙29添付 |
| 28   | 78  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『大鏡』 道長の豪胆 重要古語の確認                  | 別紙30添付 |
| 29   | 82  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『大鏡』 花山天皇の出家 重要古語の確認                | 別紙31添付 |
| 30   | 86  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『大鏡』 弓争ひ 重要古語の確認                    | 別紙32添付 |
| 31   | 92  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『紫式部日記』 若宮誕生 重要古語の確認                | 別紙33添付 |
| 32   | 94  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『紫式部日記』 日本紀の御局 重要古語の確認              | 別紙34添付 |
| 33   | 96  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『更級日記』 門出 重要古語の確認                   | 別紙35添付 |
| 34   | 98  | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『更級日記』 源氏の五十余巻 重要古語の確認              | 別紙36添付 |
| 35   | 100 | 二次元コード | NHK          | <a href="https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310767_00000">https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310767_00000</a> | 参考動画：平安時代の貴族の服装                     |        |
| 36   | 104 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『平家物語』 忠度の都落ち 重要古語の確認               | 別紙37添付 |
| 37   | 108 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『平家物語』 能登殿の最期 重要古語の確認               | 別紙38添付 |
| 38   | 113 | 二次元コード | 国立国語研究所      | <a href="https://dglb01.ninjal.ac.jp/BL_amakusa/">https://dglb01.ninjal.ac.jp/BL_amakusa/</a>   | 参考リンク：大英図書館蔵『平家物語』 『伊曾保物語』 『金句集』 画像 |        |
| 39   | 116 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『義経記』 「如意の渡りにて義経を弁慶打ち奉る事」 重要古語の確認   | 別紙39添付 |
| 40   | 122 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『建礼門院右京大夫集』 大原まうで 重要古語の確認           | 別紙40添付 |
| 41   | 124 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『十六夜日記』 駿河路 重要古語の確認                 | 別紙41添付 |
| 42   | 127 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 参考資料：近世俳風の比較                        | 別紙42添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL  | 参考資料：主要俳人活動時期一覧                     | 別紙43添付 |
| 43   | 128 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『万葉集』 重要古語の確認                       | 別紙44添付 |
| 44   | 131 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『古今和歌集』 重要古語の確認                     | 別紙45添付 |
| 45   | 134 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『新古今和歌集』 重要古語の確認                    | 別紙46添付 |
| 46   | 137 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 春夏秋冬 重要古語の確認                        | 別紙47添付 |
| 47   | 137 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 参考資料：近世俳風の比較                        | 別紙42添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL  | 参考資料：主要俳人活動時期一覧                     | 別紙43添付 |
| 48   | 142 | 二次元コード |              | 自社ページURL  | 『癡心集』 叡実、路頭の病者を憐れむ事 重要古語の確認         | 別紙48添付 |

| 申請図書 |     |        | 学習上の参考に供する情報 |          |                                     | 備考     |
|------|-----|--------|--------------|----------|-------------------------------------|--------|
| 番号   | ページ | 種別     | 参照先          | URL      | 概要                                  |        |
| 49   | 144 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『今昔物語集』藤原為時、詩を作りて越前守に任ぜらるる語 重要古語の確認 | 別紙49添付 |
| 50   | 146 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『宇治拾遺物語』袴垂、保昌に合ふ事 重要古語の確認           | 別紙50添付 |
| 51   | 150 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『枕草子』宮に初めて参りたるころ 重要古語の確認            | 別紙51添付 |
| 52   | 152 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『枕草子』大納言殿参り給ひて 重要古語の確認              | 別紙52添付 |
| 53   | 154 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『枕草子』御方々、君たち 重要古語の確認                | 別紙53添付 |
| 54   | 156 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『枕草子』雪のいと高う降りたるを 重要古語の確認            | 別紙54添付 |
| 55   | 157 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 読み比べる・十訓抄 重要古語の確認                   | 別紙55添付 |
| 56   | 162 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『蜻蛉日記』うつろひたる菊 重要古語の確認               | 別紙56添付 |
| 57   | 164 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『蜻蛉日記』泔杯の水 重要古語の確認                  | 別紙57添付 |
| 58   | 166 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『和泉式部日記』夢よりもはかなき世の中 重要古語の確認         | 別紙58添付 |
| 59   | 168 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『和泉式部日記』手枕の袖 重要古語の確認                | 別紙59添付 |
| 60   | 170 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『讃岐典侍日記』堀河天皇との別れ 重要古語の確認            | 別紙60添付 |
| 61   | 176 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『源氏物語』夕顔の死 重要古語の確認                  | 別紙61添付 |
| 62   | 180 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 読み比べる・江談抄 重要古語の確認                   | 別紙62添付 |
| 63   | 186 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『源氏物語』車争ひ 重要古語の確認                   | 別紙63添付 |
| 64   | 190 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『源氏物語』葵の上の出産 重要古語の確認                | 別紙64添付 |
| 65   | 194 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『源氏物語』須磨の秋 重要古語の確認                  | 別紙65添付 |
| 66   | 199 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『源氏物語』明石の姫君の入内 重要古語の確認              | 別紙66添付 |
| 67   | 203 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『源氏物語』女三の宮の降嫁 重要古語の確認               | 別紙67添付 |
| 68   | 207 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『源氏物語』柏木の懸想 重要古語の確認                 | 別紙68添付 |
| 69   | 210 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『源氏物語』紫の上の死 重要古語の確認                 | 別紙69添付 |
| 70   | 214 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『源氏物語』薫と宇治の姫君 重要古語の確認               | 別紙70添付 |
| 71   | 220 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『無名草子』清少納言 重要古語の確認                  | 別紙71添付 |
| 72   | 222 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『無名草子』紫式部 重要古語の確認                   | 別紙72添付 |
| 73   | 224 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 読み比べる・紫式部日記 重要古語の確認                 | 別紙73添付 |
| 74   | 226 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『俊頼髓脳』歌のよしあし 重要古語の確認                | 別紙74添付 |
| 75   | 228 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『無名抄』深草の里 重要古語の確認                   | 別紙75添付 |
| 76   | 230 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『毎月抄』本歌取り 重要古語の確認                   | 別紙76添付 |
| 77   | 234 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 『大鏡』菅原道真の左遷 重要古語の確認                 | 別紙77添付 |

| 申請図書 |         |        | 学習上の参考に供する情報                |   |                                | 備考     |
|------|---------|--------|-----------------------------|---|--------------------------------|--------|
| 番号   | ページ     | 種別     | 参照先                         | URL   | 概要                             |        |
| 78   | 236     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 参考資料：『大鏡』の続き1「内裏の裏板」（左大臣時平）    | 別紙78添付 |
|      |         |        |                             | 自社ページURL  | 参考資料：『大鏡』の続き2「雷神となった道真」（左大臣時平） | 別紙79添付 |
| 79   | 237     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『大鏡』村上天皇と中宮安子 重要古語の確認          | 別紙80添付 |
| 80   | 240     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『大鏡』鶯宿梅 重要古語の確認                | 別紙81添付 |
| 81   | 242     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『大鏡』佐理の大弐 重要古語の確認              | 別紙82添付 |
| 82   | 244     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『大鏡』三舟の才 重要古語の確認               | 別紙83添付 |
| 83   | 246     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『大鏡』道長と隆家 重要古語の確認              | 別紙84添付 |
| 84   | 248     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 官位相当表                          | 別紙85添付 |
| 85   | 250     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『風姿花伝』 重要古語の確認                 | 別紙86添付 |
| 86   | 253     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『去来抄』行く春を 重要古語の確認              | 別紙87添付 |
| 87   | 254     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『去来抄』下京や 重要古語の確認               | 別紙88添付 |
| 88   | 255     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『去来抄』発句論 重要古語の確認               | 別紙89添付 |
| 89   | 256     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『三冊子』風雅の誠 重要古語の確認              | 別紙90添付 |
| 90   | 258     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『難波土産』虚実皮膜論 重要古語の確認            | 別紙91添付 |
| 91   | 260     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『源氏物語玉の小櫛』ものあはれ論 重要古語の確認       | 別紙92添付 |
| 92   | 264     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『とりかへばや物語』父大納言の苦悩 重要古語の確認      | 別紙93添付 |
| 93   | 268     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『堤中納言物語』はいずみ 重要古語の確認           | 別紙94添付 |
| 94   | 274     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『西鶴諸国ばなし』大晦日は合はぬ算用 重要古語の確認     | 別紙95添付 |
| 95   | 279     | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 『雨月物語』浅茅が宿 重要古語の確認             | 別紙96添付 |
| 96   | 310(3)  | 二次元コード | サントリーホールディングス               | <a href="https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/">https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/</a>                         | 参考リンク：日本の鳥百科                   |        |
| 97   | 310(3)  | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 参考動画：虫の鳴き声                     | 別紙97添付 |
| 98   | 314(7)  | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | 参考動画：雅楽で使用する楽器                 | 別紙98添付 |
| 99   | 316(9)  | 二次元コード | 風俗博物館                       | <a href="https://costume.iz2.or.jp/">https://costume.iz2.or.jp/</a>   | 参考リンク：日本服飾史                    |        |
| 100  | 326(19) | 二次元コード | 立命館大学アート・リサーチセンター／京都市平安京創生館 | <a href="https://www.arc.ritsumeai.ac.jp/archive01/theater/html/heian/">https://www.arc.ritsumeai.ac.jp/archive01/theater/html/heian/</a> | 参考リンク：平安京オーバーレイマップ             |        |
| 第二分冊 |         |        |                             |   |                                |        |
| 101  | 5       | 二次元コード |                             | 自社ページURL  | コンテンツリスト                       | 別紙99添付 |
|      | 5       | URL    |                             | 自社ページURL  | コンテンツリスト                       | 別紙99添付 |

| 申請図書 |     |        | 学習上の参考に供する情報 |          |                            | 備考      |
|------|-----|--------|--------------|----------|----------------------------|---------|
| 番号   | ページ | 種別     | 参照先          | URL      | 概要                         |         |
|      | 表4  | 二次元コード |              | 自社ページURL | コンテンツリスト                   | 別紙99添付  |
| 102  | 8   | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「推敲」 基本句形の確認               | 別紙100添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 参考資料：科举                    | 別紙101添付 |
| 103  | 9   | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「呉越同舟」 基本句形の確認             | 別紙102添付 |
| 104  | 10  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「嬰逆鱗」 基本句形の確認              | 別紙103添付 |
| 105  | 11  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「螳螂之斧」 基本句形の確認             | 別紙104添付 |
| 106  | 12  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「病入膏肓」 基本句形の確認             | 別紙105添付 |
| 107  | 13  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「知音」 基本句形の確認               | 別紙106添付 |
| 108  | 14  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 参考資料：忘年の交わり（張隱『文士伝』）       | 別紙107添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 参考資料：金石の交わり（『漢書』韓信伝）       | 別紙108添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 参考資料：金蘭の交わり（『易経』繫辞伝上）      | 別紙109添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 参考資料：膠漆の交わり（『史記』蔡沢列伝）      | 別紙110添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 参考資料：莫逆の友（『莊子』大宗師編）        | 別紙111添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 参考資料：忘形の友（白居易「倣陶潜体詩十六首」其七） | 別紙112添付 |
| 109  | 16  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「鼓腹撃壤」 基本句形の確認             | 別紙113添付 |
| 110  | 18  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「莫敢飾詐」 基本句形の確認             | 別紙114添付 |
| 111  | 20  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「鷄鳴狗盜」 基本句形の確認             | 別紙115添付 |
| 112  | 24  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「背水之陣」 基本句形の確認             | 別紙116添付 |
| 113  | 28  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「雑説」 基本句形の確認               | 別紙117添付 |
| 114  | 30  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「黔之驢」 基本句形の確認              | 別紙118添付 |
| 115  | 32  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「売油翁」 基本句形の確認              | 別紙119添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 参考資料：『莊子』養生主編              | 別紙120添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 参考資料：『莊子』天道編               | 別紙121添付 |
| 116  | 34  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「医薬談笑」 基本句形の確認             | 別紙122添付 |
| 117  | 38  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「項羽、大いに怒る」 基本句形の確認         | 別紙123添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 「劍の舞」 基本句形の確認              | 別紙124添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 「樊噲、頭髮 上指す」 基本句形の確認        | 別紙125添付 |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 「沛公、虎口を脱す」 基本句形の確認         | 別紙126添付 |
| 118  | 47  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「時 利あらず」 基本句形の確認           | 別紙127添付 |

| 申請図書 |     |        | 学習上の参考に供する情報   |   |                    | 備考      |
|------|-----|--------|----------------|---|--------------------|---------|
| 番号   | ページ | 種別     | 参照先            | URL   | 概要                 |         |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「項王の最期」 基本句形の確認    | 別紙128添付 |
| 119  | 54  | 二次元コード |                | 自社ページURL  | 参考資料：『史記』高祖本紀      | 別紙129添付 |
| 120  | 56  | 二次元コード |                | 自社ページURL  | 「独坐敬亭山」 基本句形の確認    | 別紙130添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「秋風引」 基本句形の確認      | 別紙131添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「磧中作」 基本句形の確認      | 別紙132添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「除夜寄弟妹」 基本句形の確認    | 別紙133添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「江村」 基本句形の確認       | 別紙134添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「独坐敬亭山」 押韻確認問題     | 別紙135添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「秋風引」 押韻確認問題       | 別紙136添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「九月九日憶山東兄弟」 押韻確認問題 | 別紙137添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「磧中作」 押韻確認問題       | 別紙138添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「除夜寄弟妹」 押韻確認問題     | 別紙139添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「江村」 押韻確認問題        | 別紙140添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 参考資料：漢詩のきまり        | 別紙141添付 |
| 121  | 60  | 二次元コード |                | 自社ページURL  | 「不出門」 基本句形の確認      | 別紙142添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「送夏目漱石之伊予」 基本句形の確認 | 別紙143添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「不出門」 押韻確認問題       | 別紙144添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「冬夜読書」 押韻確認問題      | 別紙145添付 |
|      |     |        |                | 自社ページURL  | 「送夏目漱石之伊予」 押韻確認問題  | 別紙146添付 |
|      |     |        | 太宰府天満宮         | <a href="https://www.dazaifutenmangu.or.jp/about/sugawaranomichizanekou">https://www.dazaifutenmangu.or.jp/about/sugawaranomichizanekou</a> | 参考リンク：菅原道真と大宰府     |         |
|      |     |        | 古都大宰府保存協会      | <a href="https://www.kotodazaifu.net/">https://www.kotodazaifu.net/</a>   | 参考リンク：古都大宰府        |         |
|      |     |        | 九州国立博物館        | <a href="https://www.kyuhaku.jp/dazaifu/">https://www.kyuhaku.jp/dazaifu/</a>   | 参考リンク：西都太宰府        |         |
|      |     |        | 太宰府市日本遺産活性化協議会 | <a href="https://www.dazaifu-japan-heritage.jp/intro/#step1">https://www.dazaifu-japan-heritage.jp/intro/#step1</a>                         | 参考リンク：日本遺産太宰府      |         |
|      |     |        | 観世音寺           | <a href="https://kanzeonji.net/">https://kanzeonji.net/</a>   | 参考リンク：観世音寺         |         |
| 122  | 68  | 二次元コード |                | 自社ページURL  | 「織女」 基本句形の確認       | 別紙147添付 |
| 123  | 70  | 二次元コード |                | 自社ページURL  | 「売鬼」 基本句形の確認       | 別紙148添付 |
| 124  | 72  | 二次元コード |                | 自社ページURL  | 「蟻王」 基本句形の確認       | 別紙149添付 |
| 125  | 74  | 二次元コード |                | 自社ページURL  | 「買粉児」 基本句形の確認      | 別紙150添付 |

| 申請図書 |     |        | 学習上の参考に供する情報 |          |                         |         | 備考 |
|------|-----|--------|--------------|----------|-------------------------|---------|----|
| 番号   | ページ | 種別     | 参照先          | URL      | 概要                      |         |    |
| 126  | 76  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「酒虫」 基本句形の確認            | 別紙151添付 |    |
| 127  | 84  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「論語」 基本句形の確認            | 別紙152添付 |    |
| 128  | 88  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「孟子」 基本句形の確認            | 別紙153添付 |    |
| 129  | 94  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「不顧後患」 基本句形の確認          | 別紙154添付 |    |
| 130  | 96  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「不若人有其宝」 基本句形の確認        | 別紙155添付 |    |
| 131  | 98  | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「不死之道」 基本句形の確認          | 別紙156添付 |    |
| 132  | 100 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 参考資料：『莊子』山木編            | 別紙157添付 |    |
| 133  | 102 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「水魚之交」 基本句形の確認          | 別紙158添付 |    |
| 134  | 105 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「赤壁之戦」 基本句形の確認          | 別紙159添付 |    |
| 135  | 108 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「死諸葛走生仲達」 基本句形の確認       | 別紙160添付 |    |
| 136  | 114 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「漁父辞」 基本句形の確認           | 別紙161添付 |    |
| 137  | 118 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「五柳先生伝」 基本句形の確認         | 別紙162添付 |    |
| 138  | 120 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「春夜宴従弟桃花園序」 基本句形の確認     | 別紙163添付 |    |
| 139  | 122 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「捕蛇者説」 基本句形の確認          | 別紙164添付 |    |
| 140  | 128 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「桃夭」 押韻確認問題             | 別紙165添付 |    |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 「行行重行行」 押韻確認問題          | 別紙166添付 |    |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 「責子」 押韻確認問題             | 別紙167添付 |    |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 「石壕吏」 押韻確認問題            | 別紙168添付 |    |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 「長恨歌」 押韻確認問題            | 別紙169添付 |    |
| 141  | 139 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 参考資料：『源氏物語』桐壺の巻         | 別紙170添付 |    |
| 142  | 142 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「老子」 基本句形の確認            | 別紙171添付 |    |
| 143  | 144 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「莊子」 基本句形の確認            | 別紙172添付 |    |
| 144  | 146 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「韓非子」 基本句形の確認           | 別紙173添付 |    |
| 145  | 150 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「管鮑之交」 基本句形の確認          | 別紙174添付 |    |
| 146  | 155 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「孫臏」 基本句形の確認            | 別紙175添付 |    |
| 147  | 159 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「張儀」 基本句形の確認            | 別紙176添付 |    |
| 148  | 163 | 二次元コード |              | 自社ページURL | 「壯士一たび去りて復た還らず」 基本句形の確認 | 別紙177添付 |    |
|      |     |        |              | 自社ページURL | 「凶窮まりてヒ首見はる」 基本句形の確認    | 別紙178添付 |    |

古文編

漢文編

107-220 (書名入る)

著作権について

第 I 部

第 II 部

巻末図録・地図

別紙 2

1問 / 6問

次の古語の意味を答えよう。  
下の  
もの

解答を見る

別紙 3

1問 / 10問

次の古語の意味を答えよう。  
いかで

解答を見る

別紙 4

1問 / 10問

次の古語の意味を答えよう。  
もの言

解答を見る

別紙 5

1問 / 7問

次の古語の意味を答えよう。  
よろづ

解答を見る

別紙6

1問 / 14問

次の古語の意味を答えよう。  
あいなし

解答を見る

別紙7

1問 / 8問

次の古語の意味を答えよう。  
ものあはれ

解答を見る

別紙8

1問 / 9問

次の古語の意味を答えよう。  
いにしへ

解答を見る

別紙9

1問 / 9問

次の古語の意味を答えよう。  
うたかた

解答を見る

1問 / 10問

次の古語の意味を答えよう。  
春秋

解答を見る

## 日野山の閑居

わが身、父方の祖母の家を伝へて久しくかの所に住む。その後、縁欠けて身衰へ、偲ぶ方々しげかりしかど、つひに跡とむることを得ず、三十余りにして、さらにわが心と一つの庵を結ぶ。これをありし住まひに並ぶるに、十分が一なり。居屋ばかりを構へて、はかばかしく屋を作るに及ばず。わづかに築地を築けりといへども、門を建つたつきなし。竹を柱として車を宿せり。雪降り、風吹くごとに、あやふからずしもあらず。所、河原近ければ、水の難も深く、白波のおそれも騒がし。

すべて、あられぬ世を念じ過ぐしつつ、心を悩ませること三十余年なり。その間、折々の違ひめ、おのづから短かき運を悟りぬ。すなはち、五十の春を迎へて、家を出で世を背けり。もとより妻子なければ捨てがたきよすがもなし。身に官禄あらず、何につけてか執をとどめん。むなしく大原山の雲に臥して、また五返りの春秋をなん経にける。

ここに六十の露消えがたに及びて、さらに末葉の宿りを結べることあり。いはば、旅人の一夜の宿を作り、老いたる蚕の繭を営むがごとし。これを中ごろの住みかに並ぶれば、また百分が一に及ばず。とかくいふほどに、よはひは歳々に高く、住みかは折々に狭し。その家のありさま世の常にも似ず。広さはわづかに方丈、高さは七尺が内なり。所を思ひ定めざるがゆゑに地を占めて作らず。土居を組み、うちおほひを葺きて、継ぎ目ごとにかげがねを掛けたり。もし心になはぬことあらば、やすくほかへ移さんがためなり。その改め作ること、いくばくのわづらひかある。積むところわづかに二両、車の力を報ふほかには、さらにはかの用途いらす。

今、日野山の奥に跡を隠してのち、東に三尺余の庇をさして、柴折りくぶるよすがとす。南、竹の簀子を敷き、その西に閑伽棚を作り、北に寄せて障子を隔てて阿弥陀の絵像を安置し、そばに普賢を描き、前に法花経を置けり。東のきはに蕨のほどろを敷きて、夜の床とす。西南に竹のつり棚を構へて、黒き皮籠三合を置けり。すなはち、和歌・管弦・往生要集ごときの抄物を入れたり。かたはらに琴・琵琶のおの一張を立つ。いはゆる折琴・継琵琶これなり。仮の庵のありやう、かくのごとし。

その所のさまを言はば、南に懸け樋あり。岩を立てて、水をためたり。林の木近ければ、爪木を拾ふに乏しからず。名を外山といふ。まさきのかづら、跡埋めり。谷しげけれど、西晴れたり。観念の頼り、なきにしもあらず。春は藤波を見る。紫雲のごとくして西方にはほふ。夏はほととぎすを聞く。語らふごとに死出の山路を契る。秋はひぐらしの声、耳に満てり。うつせみの世をかなしむほど聞こゆ。冬は雪をあはれぶ。積もり消ゆるさま、罪障にたとへつべし。

## 方丈記

鴨長明

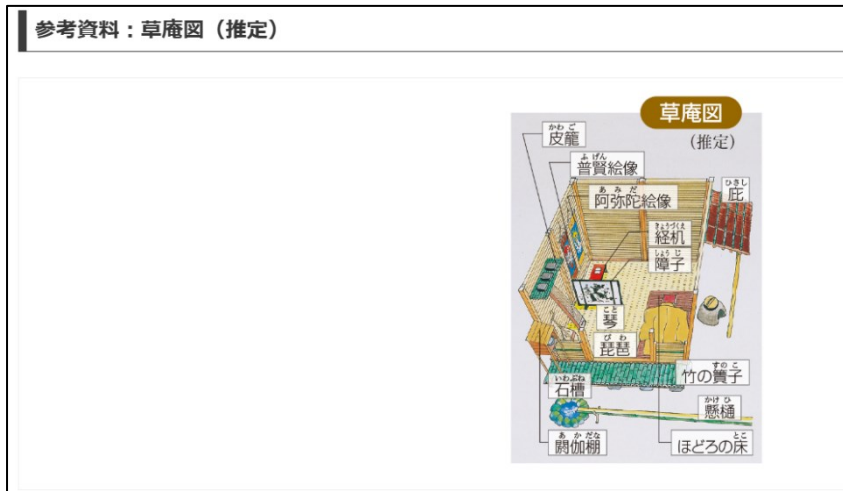
## 結び

そもそも一期いちじの月影かたぶきて、余算、山の端はに近し。たちまちに三途さんづの闇に向かはんとす。何のわざをかかこたんとする。仏の教へ給ふおもむきは、ことに触れて執心なかれとなり。今、草庵を愛するもとがとす。閑寂かんせきに著しやくするもさはりなるべし。いかが要なき楽しみを述べて、あたら時を過ぐさん。

静かなる暁、このことわりを思ひ続けて、みづから心に問ひていはく、世を逃れて山林にまじはるは、心を修めて道を行はんとなり。しかるを、なんじ姿は聖人ひじりにて、心は濁りに染めり。住みかはすなはち浄名居士じやうみやうこじの跡をけがせりといへども、保つところはわづかに周利槃特しゆりはんどくが行ひにだに及ばず。もしこれ貧賤ひんせんの報ひのみづから悩ますか、はたまた妄心のいたりて狂きやうせるか。そのとき心さらに答ふることなし。ただ、かたはらに舌根をやとひて、不請の阿弥陀仏あみだぶつ、両三遍申してやみぬ。

時に、建暦の二年ふたとせ、弥生のつごもりごろ、桑門さうもんの蓮胤れんいん、外山やまの庵いほりにして、これを記す。

## 方丈記



1問 / 13問

解答を見る

領る 次の古語の意味を答えよ。

1問 / 13問

解答を見る

おはします 次の古語の意味を答えよ。

別紙 16

1問 / 9問

例の  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 17

1問 / 4問

おほやけ  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 18

1問 / 18問

いたはる  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 19

1問 / 10問

憂し  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 20

1問 / 15問

つごもり  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 21

1問 / 6問

すなまじ  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 22

1問 / 10問

心苦しげなり  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 23

1問 / 15問

いたし  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 24

1問 / 9問

解答を見る

物語  
次の古語の意味を答えよう。

別紙 25

1問 / 17問

解答を見る

やむごとなし  
次の古語の意味を答えよう。

別紙 26

1問 / 14問

解答を見る

かたち  
次の古語の意味を答えよう。

別紙 27

1問 / 22問

解答を見る

つれづれなり  
次の古語の意味を答えよう。

「光る君の誕生」本文（続き）

あまたの御方々を過ぎさせ給ひて、ひまなき御前渡りに、人の御心を尽くし給ふも、げにことわりと見えたり。まう上り給ふにも、あまりうちしきる折々は、打橋・渡殿のここかしこの道に、あやしきわざをしつつ、御送り迎への人の衣の裾、たへがたくまさなきこともあり。またあるときには、えさらぬ馬道の戸を鎖しこめ、こなたかなた心を合はせて、はしたなめわづらはせ給ふときも多かり。ことにふれて、数知らず苦しきことのみまされば、いとう思ひわびたるを、いとどあはれと御覧じて、後涼殿にもとより候ひ給ふ更衣の曹司をほかに移させ給ひて、上局に給はず。その恨み、ましてやらむ方なし。

この皇子三つになり給ふ年、御袴着のこと、一の宮の奉りしに劣らず、内蔵寮・納殿の物を尽くして、いみじうせさせ給ふ。それにつけても、世のそしりのみ多かれど、この皇子のおよすけもおはする御かたち・心ばへ、ありがたくめづらしきまで見え給ふを、えそねみあへ給はず。ものの心知り給ふ人は、かかる人も世に出でおはするものなりけりと、あさましきまで目を驚かし給ふ。

その年の夏、御息所、はかなき心地にわづらひて、まかでなむとし給ふを、いとまさらに許させ給はず。年ごろ、常のあつしきになり給へれば、御目慣れて、「なほしばし試みよう。」とのみのたまはするに、日々に重り給ひて、ただ五、六日のほどに、いと弱うなれば、母君泣く泣く奏して、まかでさせ奉り給ふ。かかる折にも、あるまじき恥もこそと、心づかひして、皇子をばとどめ奉りて、忍びてぞ出で給ふ。

限りあれば、さのみもえとどめさせ給はず、御覧じだに送らぬおぼつかなさや、言ふ方なく思ほさる。いとにほひやかに、うつくしげなる人の、いたう面痩せて、いとあはれどもの思ひしみながら、言に出でも聞こえやらず、あるかなきかに消え入りつつものし給ふを御覧するに、来し方行く末おぼしめされず、よろづのことを、泣く泣く契りのたまはずれど、御いらへもえ聞こえ給はず、まみなどもいとたゆげにて、いとどなよなよと、我がのけしきにて臥したれば、いかさまにとおぼしめし惑はる。輦車の宣旨などのたまはせても、また入らせ給ひて、さらにえ許させ給はず。「限りあらむ道にも、おくれ先立たじと契らせ給ひけるを。さりとともうち捨ててはえ行きやらじ。」とのたまはするを、女もいといみじと見奉りて、

「限りとて別るる道の悲しきにかまほしきは命なりけり

いとかく思ひ給へましかば。」と、息も絶えつつ、聞こえまほしげなることはありげなれど、いと苦しげにたゆげなれば、かくながら、ともかくもならむを御覧じ果てむとおぼしめすに、「今日始むべき祈りども、さるべき人々承れる、今宵より。」と聞こえ急がせば、わりなく思ほしながら、まかでさせ給ふ。

御胸のみつとふたがりて、つゆまどろまれず、明かしかねさせ給ふ。御使ひの行き交ふほどもなきに、なほいぶせさを限りなくのたまはせつるを、「夜半うち過ぐるほどになむ、絶え果て給ひぬる。」とて泣き騒げば、御使ひも、いとあへなくて帰り参りぬ。聞こしめす御心惑ひ、何事もおぼしめし分かれず、籠りおはします。

(桐壺)

1問 / 11問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
こよなし

1問 / 17問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
猛し

1問 / 16問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
あさまし

1問 / 7問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
あそばす

別紙 33

1問 / 14問

おぼろび

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 34

1問 / 13問

あやし

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 35

1問 / 12問

あやし

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 36

1問 / 12問

心もとなし

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 37

1問 / 12問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
あはれなり

別紙 38

1問 / 10問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
な...そ

別紙 39

1問 / 8問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
まほる

別紙 40

1問 / 11問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
わりなし

1問 / 9問

次の古語の意味を答えよう。  
まねぶ

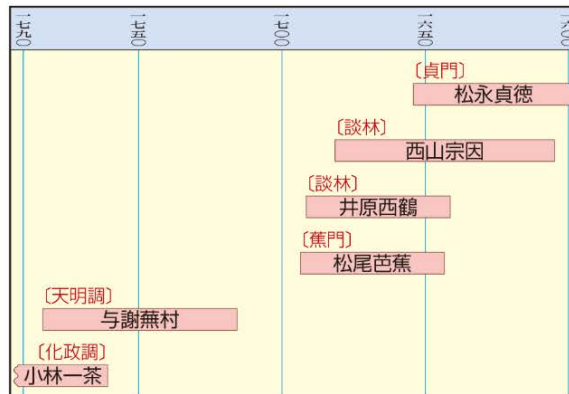
解答を見る

参考資料：近世俳風の比較

| 化政調 <small>（小林一茶）</small>   | 天明調 <small>（与謝蕪村）</small> | 蕉風 <small>（松尾芭蕉）</small>            | 談林 <small>（西山宗因）</small>             | 貞門 <small>（松永貞徳）</small>            | 呼称・代<br>表俳人<br>時期                 |
|-----------------------------|---------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 文化～文政(1804～1830)            | 天明(1781～1789)             | 元禄(1688～1704)                       | 延宝～貞享(1673～1688)                     | 寛永～寛文(1624～1673)                    | 活動                                |
| 句の間味あふれる。根ざした、人             | 論から離俗論を唱えた。               | 俳諧を芸術に高めた。                          | 開放した。                                | 立させた。                               | 俳風                                |
| 月並調の俳諧が大勢を占める中、生活に          | 蕉風復帰の運動。南宋の画論から離俗論を唱えた。   | 俗化した俳諧を革新する、蕉風復帰の運動。南宋の画論から離俗論を唱えた。 | 放埒になつた俳諧を革新し、風雅・閑寂な境地を開いた。俳諧を芸術に高めた。 | 貞門俳諧のマンネリ化に對抗し、方式を自由にして、俳諧を庶民に開放した。 |                                   |
| ●名月を取つてくれろと泣く子かな            | ●牡丹散つてうち重なりぬ二三片           | ●この道や行く人なしに秋の暮れ                     | ●やがて見よ樺くらはせん蕎麦の花                     | ●ねぶらせて養ひたてよ花のあめ                     |                                   |
| 主観的・現実的。俗語や方言を使い生活感情を率直に詠む。 | 印象鮮明な作風。                  | 浪漫的・叙情的。古典などに材料を求め。絵画的で             | わび・さび・しをり・ほそみ。平易な表現で人生の深遠を象徴的に詠む。    | 軽妙洒脱。斬新で奇抜な趣向を求め。破格表現が多い。           | 言語遊戯的。縁語・掛詞などの技巧を用い、言葉の上での滑稽を求める。 |

◆近世俳風の比較

参考資料：主要俳人活動時期一覧



別紙 44

1問 / 4問

あやなし

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 45

1問 / 3問

にほひ

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 46

1問 / 3問

みぢ

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 47

1問 / 3問

見ず

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 48

1問 / 10問

悩み  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 49

1問 / 4問

受領  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 50

1問 / 15問

いみじ  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 51

1問 / 3問

まはゆし  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

1問 / 5問

念守

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

1問 / 8問

いかに

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

1問 / 4問

物語

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

1問 / 3問

おもしろし

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

1問 / 12問

次の古語の意味を答えよう。  
あざまし

解答を見る

1問 / 14問

次の古語の意味を答えよう。  
恕ず

解答を見る

1問 / 6問

次の古語の意味を答えよう。  
あてなり

解答を見る

1問 / 9問

次の古語の意味を答えよう。  
限り

解答を見る

1問 / 10問

次の古語の意味を答えよう。  
参らす

解答を見る

1問 / 10問

次の古語の意味を答えよう。  
ことなり

解答を見る

1問 / 4問

次の古語の意味を答えよう。  
渡御す

解答を見る

1問 / 18問

次の古語の意味を答えよう。  
ひま

解答を見る

1問 / 12問

次の古語の意味を答えよう。  
たゆむ

解答を見る

1問 / 15問

次の古語の意味を答えよう。  
まがふ

解答を見る

1問 / 18問

次の古語の意味を答えよう。  
かしづく

解答を見る

1問 / 9問

次の古語の意味を答えよう。  
あだあだし

解答を見る

別紙 68

1問 / 14問

次の古語の意味を答えよう。  
しどけなし

解答を見る

別紙 69

1問 / 15問

次の古語の意味を答えよう。  
露けし

解答を見る

別紙 70

1問 / 6問

次の古語の意味を答えよう。  
ゆかし

解答を見る

別紙 71

1問 / 6問

次の古語の意味を答えよう。  
ありがたし

解答を見る

別紙 72

1問 / 5問

次の古語の意味を答えよう。  
めでたし

解答を見る

別紙 73

1問 / 5問

次の古語の意味を答えよう。  
うたて

解答を見る

別紙 74

1問 / 6問

次の古語の意味を答えよう。  
やむことなし

解答を見る

別紙 75

1問 / 6問

次の古語の意味を答えよう。  
夕さる

解答を見る

1問 / 6問

次の古語の意味を答えよう。  
やがて

解答を見る

1問 / 8問

次の古語の意味を答えよう。  
才

解答を見る

## 大鏡

雷神となった道真

また、北野の、神にならせ給ひて、いと恐ろしく雷鳴りひらめき、清涼殿に落ちかかりぬと見えけるが、本院の大臣、太刀を抜きさけて、「生きてもわが次にこそものし給ひしか。今日、神となり給へりとも、この世には、我にところ置き給ふべし。いかでかさらではあるべきぞ。」と、にらみやりてのたまひける。一度はしづまらせ給へりけりとぞ、世人申し侍りし。されど、それは、かの大臣のいみじうおはするにはあらず、王威の限りなくおはしますによりて、理非を示させ給へるなり。

(左大臣時平)

## 大鏡

内裏の裏板

また、雨の降る日、うちながめ給ひて、

あめの下乾けるほどのなければや着てし濡れ衣干るよしもなき

やがてかしこにて失せ給へる、夜のうちに、この北野にそらの松を生ほし給ひて、渡り住み給ふをこそは、ただ今の北野宮と申して、現人神におはしますれば、おほやけも行幸せしめ給ふ。いとかしこく崇め奉り給ふめり。筑紫のおはしまし所は安楽寺といひて、おほやけより別当・所司などなさせ給ひて、いとやむことなし。

内裏焼けてたびたび造らせ給ふに、円融院の御時のことなり、工ども、裏板どもをいとうるはしく鉋かきてまかり出でつつ、またの朝に参りて見るに、昨日の裏板に、もののすすけて見ゆる所のありければ、梯に上りて見るに、夜のうちに虫の食めるなりけり。その文字は、

造るともまたも焼けなむ菅原やむねのいたまの合はぬ限りは

とこそありけれ。それもこの北野のあそばしたるとこそは申すめりしか。

(左大臣時平)

1問 / 10問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
やすし

1問 / 9問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
いますかり

1問 / 6問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
手書き

1問 / 7問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
ひととせ

1問 / 8問

次の古語の意味を答えよう。  
さぶざぶし

解答を見る



別紙 86

1問 / 7問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
さのみに

別紙 87

1問 / 3問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
振る

別紙 88

1問 / 4問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
冠

別紙 89

1問 / 2問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
発句

1問 / 7問

風雅

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

1問 / 3問

とかく

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

1問 / 7問

わび

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

1問 / 14問

物忌み

次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

1問 / 11問

次の古語の意味を答えよう。  
おどろく

解答を見る

1問 / 15問

次の古語の意味を答えよう。  
たより

解答を見る

1問 / 5問

次の古語の意味を答えよう。  
かなし

解答を見る

参考動画：きりぎりす（こおろぎ）の声



動画：NHK/Getty Images

参考動画：まつむし（すすむし）の声



動画：栗林慧/JAPAN4K/アフロ

参考動画：ひぐらしの声



動画：NHK/Getty Images

参考動画：笙（合奏：笙・横笛・篳篥）



雅楽同友会/ユニフォトプレス

参考動画：三の鼓（合奏：三の鼓・横笛・篳篥）



雅楽同友会/ユニフォトプレス

参考動画：笏拍子（合奏）



雅楽同友会/ユニフォトプレス

参考動画：琵琶（合奏：琵琶・箏・篳篥）



雅楽同友会/ユニフォトプレス

古文編

漢文編

107-220 (書名入る) / 漢文編

著作権について

第 I 部

第 II 部

**科擧** 科擧とは、隋から清末に至るまで千三百年以上にわたって実施された、高級官僚の登用試験制度である。当初、進士・明經などの科目に分かれて選擧（人材任用）していたため「科擧」という。

儒家の理念においては、儒家思想を身につけた「君子」が民の上に立って政治を行うべきとされたため、それにふさわしい人材を選ぶ試験で、主に経学（儒教の経書の知識）・詩文（文学）・論策（政治論文）の三分の分野が出題された。

第一段階の試験である解試の合格率が1%を下回ることもある狭き門であったが、儒教社会においては、知識人である限り科擧を受験するのは当然とされ、ほぼ全員が科擧合格を目ざしたのである。

唐代の後半以降、僧侶などを除いたほぼすべての知識人にとって、科擧の合格は前半生の最大の目標であった。そのため科擧は、さまざまなジャンルの文章に影響を与えた。

**例文** 「九月九日憶山東兄弟」詩：科擧受験の準備のため、都長安を一人で訪れた王維が、九月九日の重陽の節句の日に故郷の家族への思いをよんだ詩。

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

未<sup>ス</sup>ク<sup>ク</sup> 欲<sup>シ</sup>ニ<sup>シ</sup>改<sup>メ</sup>シ<sup>テ</sup>推<sup>ス</sup>作<sup>ラ</sup>ト<sup>ト</sup>敵<sup>シ</sup>引<sup>キ</sup>手<sup>ヲ</sup>作<sup>ス</sup>推<sup>シ</sup>敵<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>勢<sup>ヲ</sup>未<sup>ク</sup>決<sup>ス</sup>

〈例文〉

解答を見る

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

若<sup>シ</sup>ク<sup>ク</sup> 則<sup>チ</sup> 若<sup>シ</sup>人<sup>ニ</sup>有<sup>ラ</sup>嬰<sup>フル</sup>之<sup>者</sup> 則<sup>チ</sup>必<sup>ズ</sup>殺<sup>ス</sup>人<sup>ヲ</sup>

〈例文〉

解答を見る

1問 / 3問

次の句形の読みと意味を答えよう。

ス<sup>バ</sup> 則<sup>チ</sup> 擊<sup>タ</sup>其<sup>首</sup> 則<sup>チ</sup>尾<sup>至</sup>リ

〈例文〉

解答を見る



## 友情に関する故事



○忘年の交わり

## 【書き下し文】

1 禰衡と、2 孔融と、3 爾汝の交はりを作す。時に衡は未だ二十に満たず、融は已に五十なるも、衡の才の秀なるを重んじ、年を忘るるなり。

(張隱『文士伝』)

## 【口語訳】

禰衡と孔融とは、お互いを「おまえ」と呼び合う仲だった。その時に禰衡はまだ二十歳になっておらず、孔融はすでに五十歳だったが、禰衡が優秀なので敬意を払い、年齢のことは忘れていたのである。

※実際の生年から見ると、年齢差は二十歳なので、『文士伝』の年齢表記には誤りがあると思われる。

1 禰衡 一七三―一九八。後漢末の文人。字は正平。

2 孔融 一五三―二〇八。後漢末の文人。字は文學。建安七子の一人。

3 爾汝の交はり 「爾」「汝」ともに「なんじ」と読み、慣れ親しんだ者を呼ぶときに使う言葉。これも親しい友情関係を表す成語。

## 友情に関する故事

○金石の交わり

1 漢王（劉邦）の命令を受けた2 韓信が3 楚の項羽を攻めに来たとき、項羽は4 武渉を遣わして韓信を味方に付けようとした。武渉は次のように言って韓信を説得した。

## 【書き下し文】

「足下何ぞ漢に反きて楚に与せざる。楚王は足下と旧故有り。且つ漢王は必ずすべからず。身 項王の掌握の中に居ること数なり。然れども脱するを得れば、約に背き、復た項王を撃つ。其の親信すべからざること此のごとし。今 足下自ら以為へらく漢王と金石の交はりを為すと雖も、然れども終に漢王の禽とする所と為らん。足下の須臾にして今に至るを得し所以の者は、項王の在るを以つてなり。項王即し亡せば、次は足下を取らん。何ぞ楚と連和し、天下を三分して5 齊に王たらざる。今此の時を積て、自ら漢王に必して以つて楚を撃つは、且し智者たれば固より此のごとくせんや。」

（『漢書』韓信伝）

## 【口語訳】

「あなたはどうして漢に背き楚に味方しないのですか。楚王はあなたと旧交があります。そのうえ漢王は信用できません。（漢王の）身は何度も項王の手に握られましたが、危機を脱することができたら、約束に背き、また項王を攻撃しました。その信用できないのはこのようです。今あなたは自分で漢王と金石のように堅い交わりを結んでいるとお思いでしょうが、しかし結局は漢王に虜にされるでしょう。あなたが今まで生き延びてこられたのは、項王がいたからです。もし項王が亡くなったら、次はあなたが捕まるでしょう。どうして楚と連携して、天下を三分して齊に王となられないのですか。今この時を逃して、自ら漢王を信じて楚を攻撃するというようなことは、智者ならば当然いたしません。」

1 漢王（劉邦） 前二五六―前一九五。のちの漢の高祖。鴻門の会のあと、項羽によって漢王とされた。

2 韓信 ？―前一九六。漢の將軍。劉邦が天下を取るのを助けた。蕭何・張良とともに「三傑」の一人。

3 楚の項羽 前二三二―前二〇二。名は籍。楚（春秋・戦国時代に長江中流域を領有した国）の將軍の家の出身で、鴻門の会のあと、西楚の霸王と号した。

4 武渉 生没年未詳。項羽の部下。

5 齊 春秋・戦国時代の齊の国が領有した地方。今の山東省一帯。これ以前に、韓信は齊を平定し、劉邦から齊王とされていた。



## 友情に関する故事

○金蘭の交わり

## 【書き下し文】

子曰はく、「君子の道は、或いは出で或いは処り、或いは黙し或いは語る。二人 心を同じくすれば、其の利きこと金を断つ。同心の言は、其の臭ひ蘭のごとし。」と。

(『易経』繫辭伝上)

## 【口語訳】

先生（孔子）が言われた、「君子の道は、出仕する人がいたり民間におる人がいたり、沈黙する人がいたり大いに論ずる人がいたりするものである。この二人が心を一つにすれば、その鋭利さは金属をも断ち切るほどである。心を一つにした者の言葉は、その香りが蘭のように芳しい。」と。



## 友情に関する故事

## ○膠漆の交わり

1 秦の昭王に仕えていた<sup>2</sup>范雎に対して、<sup>3</sup>蔡沢が王の様子を尋ねた。

## 【書き下し文】

蔡沢曰はく、「然らば則ち君の主の慈仁にして忠に任じ、旧故に悼厚にして、其の智を賢として、有道の士と<sup>4</sup>膠漆を為し、義として功臣に倍かざるは、<sup>5</sup>秦の孝公・楚の悼王・越王に孰与れぞや。」と。

(『史記』蔡沢列伝)

## 【口語訳】

蔡沢が言った、「それでは、あなたの主君は慈しみと仁愛にあふれ、忠臣を信任し、古からのつき合いを大事にされて、智者を大切に、徳ある人物と膠や漆で固めたような交わりを結び、信義を重んじて功績のある臣下を裏切らないという点において、秦の孝公・楚の悼王・越王と比べてどうでしょうか。」と。

- 1 秦の昭王 前三〇六―前二五一在位。
- 2 范雎 ?―前二五五。戦国時代の遊説家。
- 3 蔡沢 生没年未詳。戦国時代の遊説家。
- 4 膠漆 膠と漆は、どちらも接着剤として使われた。
- 5 秦の孝公・楚の悼王・越王 いずれも臣下の意見をよく聞いたと言われる君主。越王は越王句踐のこと。



## 友情に関する故事

○莫逆の友

## 【書き下し文】

子祀・子輿・子犁・子来の四人、相与に語りて曰はく、「孰か能く無を以つて首と為し、生を以つて脊と為し、死を以つて尻と為さん。孰か死生存亡の一体なるを知る者ぞ。吾之と友たらん。」と。四人相視て笑ひ、心に逆らふ莫し。遂に相与に友と為る。

……………

子桑戸・孟子反・子琴張の三人、相与に友たらんとして曰はく、「孰か能く相与する無きに相与し、相為す無きに相為さん。孰か能く天に登り霧に遊び、無極に撓挑し、相忘るるに生を以つてし、終窮する所無からん。」と。三人相視て笑ひ、心に逆らふ莫し。遂に相与に友たり。

(『莊子』 大宗師編)

## 【口語訳】

子祀・子輿・子犁・子来の四人が、いっしょに語り合つて言った、「誰か無を頭にし、生を背骨にし、死を尻にできる者はいないかなあ。誰か死生存亡が一体のものだと知っている者はいないかなあ。私はそういう人と友人でいたい。」と。四人は顔を見合わせて笑いながら、心を通わせ、そのまま友人になった。

……………

子桑戸・孟子反・子琴張の三人が、お互いに交わりを結ぼうとして言った、「誰か協力し合うことなしに協力し、いっしょに行動しようとしなくていっしょに行動することのできる者はいないかなあ。誰か天に登って霧の中で遊び、無限の空間を動き回り、生を忘れて、極まるどころがない世界に住むことのできる者はいないかなあ。」と。三人は顔を見合わせて笑いながら、心を通わせ、そのまま友人になった。



## 友情に関する故事

○忘形の友

## 【原文・書き下し文】

唐・白居易「陶潜の体なまに倣ならふ詩十六首」其の七（第五〜八句）

我有同心人 我に同心の人有り

邈邈崔与銭 邈邈びやくびやくたり1 崔さいと銭せんと我有忘形友 我に2 忘形の友有り迢迢李与元 迢迢てうてうたり3 李りと元げんと

## 【口語訳】

私には心を一つにする人がいる

遠く離れて暮らす崔君と銭君だ

私には地位など関係ない友がいる

遥はるか遠くに隔たはって住む李君と元君だ1 崔・銭 崔群くわん（一説に崔玄亮）と銭徽き。

2 忘形 顔かたちや身なり、地位、身分などを気にしないこと。『莊子』讓王編の「養志者忘形」（志を養ふ者は形を忘る）に基づく言葉。

3 李・元 李紳しん（一説に李建けん、あるいは李固言こげん）と元稹じん。

1問 / 3問

次の句形の読みと意味を答えよう。

〔例文〕  
 願<sub>ニ</sub>戴<sub>ル</sub>己<sub>ハ</sub>不<sub>レ</sub>願<sub>フ</sub>戴<sub>ル</sub>己<sub>ハ</sub>不<sub>レ</sub>知<sub>ル</sub>天下<sub>ヲ</sub>治<sub>ス</sub>不<sub>レ</sub>治<sub>ス</sub>戴<sub>ル</sub>億兆

解答を見る

1問 / 3問

次の句形の読みと意味を答えよう。

〔例文〕  
 然<sub>レ</sub>吾<sub>レ</sub>使<sub>ニ</sub>人<sub>ヲ</sub>視<sub>ミ</sub>即<sub>チ</sub>畢<sub>ス</sub>

使<sub>ニ</sub>A<sub>ヲ</sub>使<sub>ニ</sub>B<sub>ヲ</sub>

解答を見る

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

〔例文〕  
 封<sub>ニ</sub>於<sub>テ</sub>薛<sub>ニ</sub>

封<sub>ニ</sub>於<sub>テ</sub>薛<sub>ニ</sub>

解答を見る

1問 / 3問

次の句形の読みと意味を答えよう。

〔例文〕  
 乃<sub>チ</sub>使<sub>ニ</sub>万人<sub>ヲ</sub>先<sub>ニ</sub>背<sub>ク</sub>水<sub>ヲ</sub>陣<sub>ニ</sub>

使<sub>ニ</sub>A<sub>ヲ</sub>使<sub>ニ</sub>B<sub>ヲ</sub>

解答を見る

1問 / 9問

次の句形の読みと意味を答えよう。

不<sub>レ</sub>常<sub>ト</sub> (ト)

〈例文〉

而<sub>レ</sub>伯<sub>ト</sub>樂<sub>ハ</sub>不<sub>レ</sub>常<sub>ト</sub>有<sub>ラ</sub>

解答を見る

1問 / 4問

次の句形の読みと意味を答えよう。

不<sub>レ</sub>敢<sub>テ</sub> (ト)

〈例文〉

益<sub>手</sub>習<sub>ナレ</sub>其<sub>キ</sub>声<sub>ニ</sub>又<sub>ニ</sub>近<sub>ク</sub>出<sub>ト</sub>前<sub>ト</sub>後<sub>ニ</sub>終<sub>ツ</sub>不<sub>レ</sub>敢<sub>テ</sub>搏<sub>ツ</sub>

解答を見る

1問 / 4問

次の句形の読みと意味を答えよう。

但<sub>ダ</sub> (ト)爾

〈例文〉

但<sub>ダ</sub>手<sub>ノ</sub>熟<sub>セル</sub>爾

解答を見る

## 『莊子』養生主編

## 【書き下し文】

庖丁 文惠君の為に牛を解く。手の触る所、肩の倚る所、足の履む所、膝の踏つ所、翫然たり嚮然たり、刀を奏むること驕然たり。音に中たらざる莫く、桑林の舞に合ひ、乃ち經首の会に中たる。

文惠君曰はく、「謔、善いかな。技蓋し此に至るか。」と。庖丁 刀を積てて対へて曰はく、「臣の好む所の者は道なり。技よりも進る。始め臣の牛を解くの時、見る所に非ざる者無し。三年の後、未だ嘗て全牛を見ざるなり。方今の時、臣 神を以つて遇ひて、目を以つて視ず。官知は止みて神欲行はる。天理に依りて、大卻を批ち大窾に導ひ、其の固然に因る。枝径肯綮にも未だ嘗みず。而るを況んや大軋をや。良庖は歳ごとに刀を更へて割し、族庖は月ごとに刀を更へて折る。今臣の刀は十九年、解く所は数千牛なり。而るに刀刃は新たに硎より発せるがごとし。彼の節なる者には間有りて、刀刃なる者には厚み無し。厚み无きものを以つて間有るところに入れば、恢恢乎として其の刃を遊ばすに於いて必ず余地あり。是を以つて十九年にして刀刃新たに硎より発せるがごとし。然りと雖も族に至る毎に、吾其の為し難きを見、怵然として為に戒め、視ること為に止まり、行むこと為に遅く、刀を動かすこと甚だ微なり。諒然として已に解くれば、土の地に委つるがごとし。刀を掲げて立ち、之が為に四顧し、之が為に躊躇して志を満たし、刀を善ひて之を蔵む。」と。

文惠君曰はく、「善いかな。吾 庖丁の言を聞きて、養生を得たり。」と。

## 【口語訳】

庖丁が文惠君のために牛を料理した。手で触り、肩を寄せ、足をふんばり、膝立てをする彼の動きのたびに、さくさくぱりぱりと音がたち、牛刀の動きにつれてざくざくと響きわたる。それがみな音律にかなって快く、(殷の湯王のときの名曲である)桑林の舞楽にも調和して、また(堯のときの名曲である)經首の音節にもかなっていた。

文惠君は(すっかり感嘆して)、「ああ、見事なものだなあ。技もなんとここまで至るものか。」と言った。庖丁は牛刀を手から離すと答えて言った、「私の求めておりますものは道でございまして、手先の技以上のものです。私をはじめて牛の料理をいたしましたところは、目に見えるものは牛ばかり(、手のつけどころもわかりません)でしたが、三年たってからは、もう牛の全体は目につかなくなりました。このごろでは、私は精神で牛に対していて、目で見ていたのではありません。感覚器官に基づく知覚はたらきをやめて、精神の自然な活動だけがはたらいているのです。天理(自然な本来の筋道)に従って、(牛の皮と肉、肉と骨の間の)大きな隙間に刀刃をふるい、大きな空洞



に沿って走らせて、牛の体の本来のしくみにそのまま従ってゆきます。支脈と経脈が入り組み、肉と骨とがかたまつたような微妙なところでさえ、試し切りをするようなことはありません。まして大きな骨のかたまりならなおさらです。腕のよい料理人は一年ぐらいで刃こぼれして牛刀を取り替えているのですが、たいていの料理人は一月ごとに（骨につき当てて）牛刀を折ってしまい、取り替えています。ところで、私の牛刀は十九年も使っていて、数千頭もの牛を料理してきましたが、その刃先はまるでたつた今砥石<sup>い</sup>で仕上げたばかりのようです。あの関節というものには隙間があり、牛刀の刃先というものにはほとんど厚みがありません。その厚みのないものを隙間のあるところに入れていくのですから、まことに広々としたもので、刃先を動かすにも必ずゆとりがあります。だからこそ、十九年も使っているのに、牛刀の刃先がまるでたつた今砥石で仕上げたばかりのようなのです。ただそうではあっても、筋や骨の集まったところにくるたびに、私はその仕事の難しさを見て、心をひきしめて緊張し、そのために視線は一点に集中し、手の動きも遅くして、牛刀の動かし方はきわめて微妙にいたします。やがてばさりと音がして肉が離れてしまうと、まるで土が地面に落ちたよう（に、切り離れた形跡が残っていないの）です。牛刀を手にはひっさげて立ち上がり、四方を見回してしばらく去りがたくたたずんだうえで心中に満足し、牛刀をぬぐってそれを鞆<sup>たもと</sup>に収めるのです。」と。

文惠君は言った、「すばらしいことだ。わしは庖丁の言葉を聞いて、養生（という真の生き方）の道を会得した。」と。

## 『莊子』天道編

## 【書き下し文】

世の道に貴ぶ所の者は、書なり。書は語に過ぎず。語には貴きもの有り、語の貴ぶ所の者は、意なり。意には随ふ所有り、意の随ふ所の者は、言を以つて伝ふべからざるなり。而るに世は言を貴ぶに因りて書を伝ふ。世は之を貴ぶと雖も、猶ほ貴ぶに足らざるなり。其の貴ぶは其の貴ぶべきに非ざるが為なり。

……

桓公 書を堂上に読む。輪扁 輪を堂下に斲る。椎鑿を積てて上り、桓公に問ひて曰はく、「敢へて問ふ、公の読む所は何の言と為すや。」と。公曰はく、「聖人の言なり。」と。曰はく、「聖人在りや。」と。公曰はく、「已に死せり。」と。曰はく、「然らば則ち君の読む所の者は、古人の糟魄のみ。」と。桓公曰はく、「寡人 書を読むに、輸入安くんぞ議するを得んや。説有らば則ち可なるも、説无くんば則ち死せん。」と。輪扁曰はく、「臣や、臣の事を以つて之を觀る。輪を斲るに、徐ならば則ち甘くして固からず、疾ならば則ち苦にして入らず。徐ならず疾ならざるは、之を手にて得心に應じ、口 言ふこと能はざるも、数の其の間に存する有り。臣は以つて臣の子に諭すこと能はず、臣の子も亦之を臣より受くること能はず。是を以つて行年七十にして老いて輪を斲る。古の人と其の伝ふべからざるものと、死せり。然らば則ち君の読む所の者は、古人の糟魄のみ。」と。

## 【口語訳】

世間で道を求めるために尊重するものは、書物である。しかし、書物は言葉を連ねたものにすぎない。言葉には大切なものがあって、言葉の大切なものは、その意味内容である。意味内容にはそれが基づいて生まれてきたところがあって、意味内容の基づいたところは、言葉では伝えられないものである。ところが、世間では言葉を尊重することから、書物を（尊重して）伝えている。世間ではいくら尊重していても、それは尊重するに値しないものだ。彼らの尊重しているものは、本当の尊重すべきものではないからである。

……



齊の桓公（あるとき）堂の上で書物を読んでいた。堂の下では輪扁が（木を削って）車の輪を作っていたが、その椎と鑿を置いて堂に上ってゆき、桓公に問いかけた、「お尋ねしますが、あなたさまのお読みなのは、どのような言葉ですか。」と。桓公は答えた、「聖人の言葉だ。」と。（輪扁はまた）尋ねた、「聖人は生きていますか。」と。桓公は「もう死んでしまわれた。」と答えた。（すると輪扁は）言った、「それならあなたさまの読まれているのは、古人の残りかすにすぎませんね。」と。桓公は（むっとして）言った、「わしが書物を読んでいるのに、どうして車職人が意見を言っただろうか、いや、よくない。弁明ができればよいが、できなければ死罪だ。」と。輪扁は答えた、「私は、自分の仕事の経験に照らして考えているのです。車の輪を作るのに、削り方が甘いと（削った穴に輻を差し込むのに）緩くて締まりが悪く、削り方がきつくと窮屈でうまくはめ込めません。甘くもなく、きつくもないという程よさは、手かげんで会得して心にうなずくだけで、口では説明することはできませんが、そこに決まった一つのこつがあるのです。私はそれを自分の子供に教えることができず、私の子供もまたそれを私から受け継ぐことができません。そのために、七十のこの年になって老いてしまっても車の輪を作っているのです。昔の人も、そうした人に伝えられないものといっしょに滅んでいきました。してみると、あなたさまが読まれているのは、古人の残りかすにすぎないということです。」と。

別紙 122

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

為<sub>レ</sub> A 所<sub>レ</sub> B

〈例文〉

医 取<sub>下</sub> 多 年 拖 牙 為<sub>二</sub> 拖 工 手 汗 所<sub>レ</sub> 漬 処<sub>上</sub>

解答を見る

別紙 123

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

令<sub>二</sub> A B

〈例文〉

吾 令<sub>二</sub> 人 望<sub>二</sub> 其 氣 皆 為<sub>二</sub> 竜 虎 成<sub>二</sub> 五 采

解答を見る

別紙 124

1問 / 4問

次の句形の読みと意味を答えよう。

何<sub>ヲ</sub> 以<sub>テ</sub> (a) (b) (c) (d)

〈例文〉

不<sub>レ</sub> 然 籍 何<sub>ヲ</sub> 以<sub>テ</sub> 至<sub>レ</sub> 此

解答を見る

別紙 125

1問 / 3問

次の句形の読みと意味を答えよう。

何<sub>ニ</sub> 如<sub>ク</sub>

〈例文〉

今 日 之 事 何<sub>ニ</sub> 如<sub>ク</sub>

解答を見る

1問 / 5問

次の句形の読みと意味を答えよう。

奈何（なご）

〈例文〉

為（な）之（これ）奈何（なご）。

解答を見る

1問 / 4問

次の句形の読みと意味を答えよう。

乎（か）

〈例文〉

漢皆（みな）已（すで）得（た）楚（そ）乎（か）。

解答を見る

1問 / 6問

次の句形の読みと意味を答えよう。

独（ひとり）

〈例文〉

今独（ひとり）臣（しん）有（あ）船（ふね）。

解答を見る

## 劉邦の人物像

## ① 劉邦の人物

## 【書き下し文】

高祖 人と為り隆準にして竜顔、須髯美しく、左股に七十二の黒子有り。仁にして人を愛し、施しを喜び、意豁如たり。常に大度有り。

## 【口語訳】

高祖の人となりは、鼻が高くて竜のような顔つき（眉の骨が高く盛り上がった顔）で、ひげが美しく、左のにもに七十二のほくろがあった。思いやりが深くて人をいつくしみ、施しを好み、心が広く細かいことにこだわらなかつた。常に度量が大きかつた。

## ② 儒者に面会したときの態度

## 【書き下し文】

西のかた<sup>1</sup>高陽を過ぐ。<sup>2</sup>酈食其監門に詣ひて曰はく、「諸將の此を過ぐる者多し。吾、沛公を視るに、大人長者なり。」と。乃ち見えて沛公に説かんことを求む。沛公方に牀に踞し、両女子をして足を洗はしむ。酈生 拝せず、長揖して曰はく、「足下必ず無道の秦を誅せんと欲せば、宜しく踞して長者を見るべからず。」と。是に於いて沛公起ち、衣を撰りて之に謝し、上坐に延ぐ。

## 【口語訳】

〔沛公は〕西方の高陽を通過した。酈食其が町の門番に言った、「ここを通過する將軍は数多いが、わしが見たところ、沛公は立派な人物だね。」そして沛公に自分の考えを説くために面会を申し入れた。沛公はちょうど、椅子に腰かけ、足を投げだして、二人の女に足を洗わせているところであった。酈生（酈食其）はひざまずく拝礼をせず、ただ両手を前で組む敬礼をして言った、「あなたがどうしても無道の秦を討とうとなさるなら、椅子にかけたまままで徳ある人物に会うという無礼はしないほうがよろしい。」そこで沛公は立ちあがり、衣服の乱れを直して謝り、「酈食其を」上座へと案内した。

## 1 高陽 今の河南省杞県の南西。

## 2 酈食其 ? — 前二〇三。秦末漢初の儒者で遊説家。のちに劉邦に仕える。

## ③ 咸陽占拠時の振る舞い

## 【書き下し文】





漢の元年十月、沛公の兵遂に諸侯に先んじて1覇上に至る。2秦王子嬰、素車白馬で、頸に係くるに組を以つてし、皇帝の璽符節を封じ、3軹道の旁らに降る。諸將或いは秦王を誅せよと言ふも、沛公曰はく、「始め4懐王の我を遣はすは、固より能く寛容なるを以つてなり。且つ人己に服降するに、又之を殺すは不祥なり。」と。乃ち秦王を以つて吏に属し、遂に西のかた咸陽に入る。宮に止まりて休舎せんと欲するも、5樊噲・6張良諫む。乃ち秦の重宝財物の府庫を封じ、還りて覇上に軍す。

諸侯の父老豪傑を召して曰はく、「父老 秦の苛法に苦しむこと久し。誹謗する者は族せられ、偶語する者は棄市せらる。吾 諸侯と約す、『先に関に入る者、之に王とせん。』と。吾当に関中に王たるべし。父老と約す。法は三章のみ。『人を殺す者は死し、人を傷つくるもの及び盗むものは罪に抵つ。』余は悉く秦の法を除去せん。諸の吏人 皆案堵すること故のごとくせよ。凡そ吾の来たる所以は、父老の為に害を除かんとすればなり。侵暴する所有るに非ず。恐るる無かれ。且つ吾の還りて覇上に軍する所以は、諸侯の至るを待ちて、約束を定めんとするのみ。」と。乃ち人をして秦の吏と県の郷邑を行りて之を告諭せしむ。秦人大いに喜び、争ひて牛羊酒食を持ちて、軍士に獻饗す。沛公又譲りて受けずして曰はく、「倉粟多く、乏しきに非ず。人に費やさしむるを欲せず。」と。人又益喜び、唯だ沛公の秦王と為らざらんことを恐る。

### 【口語訳】

漢の元年（前二〇六年）十月、沛公の軍隊は、ついに諸侯に先んじて覇上に到達した。秦王の子嬰は、白馬の引く飾りのない白木の車に乗り、首に「自殺の意思を示す」組みひもをかけ、皇帝の玉璽と割り符（命令や賞罰のしるしとするもの）を封印して、軹道のそばで降伏した。諸将のある者は秦王を誅殺せよと言ったが、沛公が言うには、「前に懐王がわたしを派遣されたのは、必ずわたしが寛容に振る舞うことができると考えられたからだ。そのうえ人がすでに降伏しているのに、なおこれを殺すのは不吉なものとだ。」と。そこで秦王を役人に委ね、そのまま西の咸陽へ入った。秦の宮殿にとどまって休息しようとしたが、樊噲と張良が諫めたので、沛公は秦の宝物・財物が入った倉庫を封印して、引き返して覇上に陣を構えた。

「沛公は、秦の」諸侯の長老や有力者たちを呼びよせて言った、「あなた方は、秦の苛酷な法に長い間苦しんでこられた。〔政治を〕誹謗する者は親族皆殺しにされ、向かい合って（『詩経』や『書経』のような先王の法を）語る者は死体をさらしものにされた。わたしは諸侯と、『先に関中に入った者を、その王にしよう。』と約束した。わたしは当然、関中の王となるはずだ。あなた方と約束しよう。法はただ三条だけだ。『人を殺した者は死刑に処す。人を傷つけた者と盗みをした者は、それ相当の罪に処す。』そのほかはすべて、秦の法を取り除こう。役人や人民たちは、安心して元の通りに生活せよ。そもそもわたしがやって来た理由は、あなた方のために害を取り除くためである。侵略乱暴をすることはないから、恐れることはない。また、わたしが引き返して覇上に陣を構えた理由は、諸侯の到着を待って、協定を結ぶためにすぎない。」と。そこで人を遣わして、秦の役人とともに諸侯の村里をまわってこれを告げさせた。秦の

人びとは大いに喜び、我先にと牛や羊や酒食を持参して、「沛公の」兵士に差し出して、もてなそうとした。すると沛公はまた辞退して、受け取らないで言った、「我が軍の」倉庫の穀物は多くて、不足しているわけではない。あなたたちにもものを費やさせるようなことはしたくない。」と。秦の人びとはますます喜んで、ただただ沛公が秦王になつてくれないことだけを心配した。



- 1 霸王 今の陝西省西安市の東、霸水の沿岸にあった地名。秦の都咸陽に近い。
- 2 秦王子嬰 ?―前二〇六。始皇帝の孫。
- 3 軹道 今の陝西省西安市の北東。
- 4 懷王 ?―前二〇五。戦国時代の楚王の孫。項羽らによって擁立された。
- 5 樊噲 ?―前二八九。劉邦の部下。
- 6 張良 ?―前二八六。劉邦の参謀。韓信・蕭何とともに「三傑」の一人。

#### ④項羽と対峙したときの言動

#### 【書き下し文】

楚・漢久しく相持して未だ決せず。丁壮は軍旅に苦しみ、老弱は輶餉に罷る。漢王・項羽相与に<sup>1</sup>広武の間に臨みて語る。項羽 漢王と独身にて挑戦せんと欲す。漢王 項羽を数めて曰はく、「始め項羽と俱に命を懷王に受け、『先に入りて関中を定むる者、之に王とせん。』と曰ふも、項羽 約に負き、我を<sup>2</sup>蜀・漢に王とす。罪一なり。項羽 3 卿子冠軍を矯り殺し、而して自ら尊くす。罪二なり。項羽已に趙を救ひ、当に還りて報ずべきに、擅に諸侯の兵を劫かして関に入る。罪三なり。懷王『秦に入るも暴掠する無かれ。』と約せしむるに、項羽 秦の宮室を焼き、始皇帝の冢を掘り、私かに其の財物を収む。罪四なり。又彊ひて秦の降王子嬰を殺す。罪五なり。詐りて秦の子弟を<sup>4</sup>新安に阮にすること二十万、<sup>5</sup>其の將を王とす。罪六なり。項羽 皆 諸將を善地に王として、故主を徙し逐ひ、臣下をして争ひ叛逆せしむ。罪七なり。項羽 <sup>6</sup>義帝を<sup>7</sup>彭城より出だし逐ひて、自ら之に都し、<sup>8</sup>韓王の地を奪ひ、<sup>9</sup>梁・楚に并はせ王たりて、多く自ら予ふ。罪八なり。項羽 人をして陰かに義帝を<sup>10</sup>江南に弑せしむ。罪九なり。夫れ人臣為りて其の主を弑し、已に降れるを殺し、政を為すこと平ならず、約を主るも信ならざるは、天下の容さざる所にして、大逆無道なり。罪十なり。吾 義兵を以つて諸侯を従へて残賊を誅す。刑余の罪人をして項羽を撃殺せしめん。何を苦しみて乃ち公と挑戦せん。」と。

#### 【口語訳】

楚・漢の両軍は長らく対峙して、まだ勝敗が決していなかった。若者は戦場で苦しむ、老人と子供は兵糧の運搬で疲れていた。漢王と項羽は、互いに広武山の付近で向き



あって話をした。項羽は漢王に単身で戦いを挑もうとしたが、漢王は項羽の罪状を並たてて責めて言った、「かつて、そなたとともに懐王さまから命を受けたとき、『先に関中に入って平定した者を、その王にしよう。』という話であったが、そなたはその約束を破ってわたしを蜀・漢の王とした。これが第一の罪だ。そなたは卿子冠軍を君主の命令と偽って殺し、かつてに高位についた。これが第二の罪だ。そなたは趙を救援したとき、帰還して「懐王さまに」報告をすべきであったのに、かつてに諸侯の兵を脅迫して関中に入った。これが第三の罪だ。懐王さまが『秦に入っても乱暴や略奪はするな。』と「我々に」約束させなされたのに、そなたは秦の宮殿を焼き、始皇帝の墓を掘り、こっそりその財物を自分のものにした。これが第四の罪だ。また、降伏した秦王の子嬰を無理に殺した。これが第五の罪だ。秦の若い兵士たちをだまして新安で二十万人も生き埋めにし、その將軍を王とした。これが第六の罪だ。そなたは「自分の」諸將をすべて良い土地の王として、もとの君主たちを追いだし、その臣下たちが争って「もとの君主に」叛逆するようにさせた。これが第七の罪だ。そなたは義帝さまを彭城から追いだして自分の都にし、韓王の地を奪ったり、梁と楚を合わせてその王となったりして、多くを自分の領土とした。これが第八の罪だ。そなたは人に命じて江南で義帝さまを殺させた。これが第九の罪だ。そもそも、臣下でありながら自分の主君を殺したり、すでに降伏した者を殺したり、政治のやり方が不公平であったり、盟約の中心となりながら信義を貫かなかったりするようなのは、世の中の誰もが容認しないことであり、大逆無道の行いである。これが第十の罪だ。わたしは正義の軍隊として諸侯を従え、残忍な逆賊を討伐するのだ。「普通の者を使うのはもったいない。」前科者にそなたを殺させてやろう。どうしてわざわざ貴公に戦いを挑んだりなどするものか。」

- 1 広武 今の河南省滎陽市にある山。
- 2 蜀・漢 「蜀」は今の四川省一带。「漢」は今の陝西省南部と湖北省北西部。
- 3 卿子冠軍 「卿子」は人に対する尊称、「冠軍」は軍の総司令官の意。宋義（生没年未詳）をさす。宋義は、かつて懐王から上將軍に任命された。
- 4 新安 今の河南省新安県。
- 5 其の將 章邯（？―前二〇五）のこと。
- 6 義帝 懐王のこと。
- 7 彭城 今の江蘇省徐州市。楚の首都。
- 8 韓王 ？―前二〇六？。名は成。
- 9 梁 戦国時代の梁（魏）の国が領有した地方。今の山西省南西部・河南省北部。
- 10 江南 長江下流の南の地域。

1問 / 1問

次の句形の読みと意味を答えよう。

只ダ　　フミ

〈例文〉

只ダ有ル敬亭山ケイテイサン

解答を見る

1問 / 1問

次の句形の読みと意味を答えよう。

何レ処ヨリ　　ス

〈例文〉

何レ処ヨリ秋風至ル

解答を見る

1問 / 1問

次の句形の読みと意味を答えよう。

何レ処ニ　　ス

〈例文〉

今夜不レ知ラ何処宿セン

解答を見る

1問 / 1問

次の句形の読みと意味を答えよう。

非レ　　ス

〈例文〉

病容非レ旧日ニ

解答を見る

1問 / 2問

解答を見る

次の句形の読みと意味を答えよう。

惟タ ツミ

〈例文〉

多病所ハ 須タ 惟タ 薬物モノ

1問 / 1問

押韻している漢字をすべて選ぶ。

解答

相 衆  
看 鳥  
両 高  
不 飛  
厭 尽

リセット

只 孤  
有 雲  
敬 独  
亭 去  
山 閑

1問 / 1問

押韻している漢字をすべて選ぶ。

解答

朝 何  
来 処  
入 秋  
庭 風  
樹 至

リセット

孤 蕭  
客 蕭  
最 送  
先 雁  
聞 群

1問 / 1問

押韻している漢字をすべて選ぶ。

解答

遥 独  
知 在  
兄 異  
弟 鄉  
登 為  
高 異  
処 客

リセット

遍 每  
挿 逢  
茱 佳  
萸 節  
少 倍  
一 思  
人 親

1問 / 1問

押韻している漢字をすべて選ぼう。

解答

今 走ラセテ 馬マ 西 来 欲ス 到いた 天ニ  
 夜ハ 不ズ 知ラ 何いづレノ 処ところ 宿セン  
 平へい 辞シテ 家ヤ 見ル 月ノ 両 回  
 沙さ 万 里 絶たふ 人 煙ナルヲ

リセット

1問 / 1問

押韻している漢字をすべて選ぼう。

解答

早 病 万 感シテ 時ニ 思ハ 弟 妹ヲ  
 晚 容 里 非あらず 旧 日ニ  
 重ネテ 飲 会セン  
 羈キ 歸 孤 不ズシテ 寐いナラレ 百 憂 生ズ  
 離 思 灯 此コト 夜 情

リセット

1問 / 1問

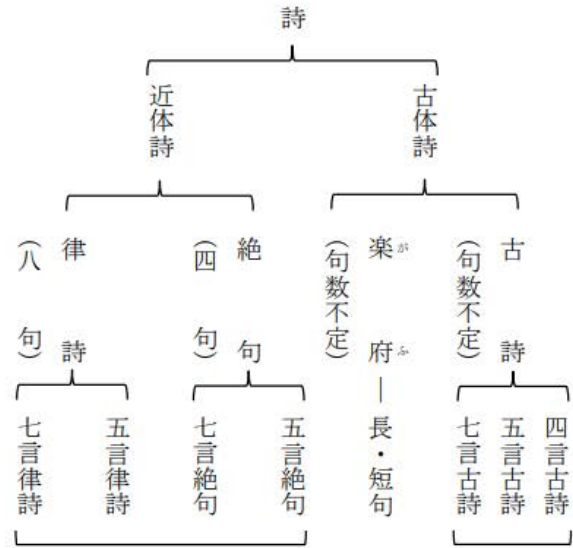
解答

微び 多 稚 老 相 自おの 長 清  
 軀く 病 子ハ 妻ハ 親シメ 去リ 夏 江 一  
 此コト 所ハ 敲たた 画か 相 自おの 来タル 村 事 曲  
 外ニ 須ス 針ヲ 紙ニ 近ク 水 堂 上ノ 事 村ヲ 抱キテ  
 更ニ 惟たゞ 作ル 為ニ 中ノ 上ノ 事 幽しつかなリ 流  
 何ヲカ 葉 釣てう 碁キ 鷗かもめ 燕つばめ  
 求メン 物ノミ 鉤こうワ 局きよくヲ

リセット

# 漢詩のきまり

1 漢詩の形式  
漢詩にはさまざまな形式や規則、構成上のきまりがある。



唐代に成立  
平仄と押韻の規則が厳格  
対句など、構成にきまりがある

六朝時代以前に成立  
平仄と押韻の規則は緩やか

## 絶句と律詩の形式

◎は押韻する字。

□は対句。

**五言絶句** 5字×4句＝20字  
起句(第一句) ○○○○  
承句(第二句) ○○○○◎  
転句(第三句) ○○○○  
結句(第四句) ○○○○◎

**七言絶句** 7字×4句＝28字  
起句(第一句) ○○○○○○  
承句(第二句) ○○○○○○◎  
転句(第三句) ○○○○○○  
結句(第四句) ○○○○○○◎

**五言律詩** 5字×8句＝40字  
首聯(第一・二句) ○○○○  
領聯(第三・四句) ○○○○  
頸聯(第五・六句) ○○○○  
尾聯(第七・八句) ○○○○◎

**七言律詩** 7字×8句＝56字  
首聯(第一・二句) ○○○○○○  
領聯(第三・四句) ○○○○○○  
頸聯(第五・六句) ○○○○○○  
尾聯(第七・八句) ○○○○○○◎

## 2 漢詩の規則

### ▼押韻

押韻とは、句末の漢字音（当時の中国音）を合わせることで、詩を朗詠するときの響きを美しくする方法のことである。押韻された字を**韻字**と呼ぶ。どれが韻字であるかを確認する際は、現代日本語の音読みが目安となる。

| 古詩                              | 律詩                      |
|---------------------------------|-------------------------|
| 偶数句末（一韻到底〓最後まで同一の韻／換韻〓途中で韻が変わる） | 五言〓偶数句末<br>七言〓第一句末と偶数句末 |
| ・五言で第一句末も押韻する破格体もある<br>・換韻はしない  |                         |

### 例 【規則どおりの場合】

王翰「涼州詞」

葡萄美酒夜光杯〓  
欲飲琵琶馬上催〓  
醉臥沙場君莫笑〓  
古來征戰幾人回〓

### 例 【規則から外れた破格体の場合】

孟浩然「春曉」

春眠不覺曉〓  
處處聞啼鳥〓  
夜來風雨聲〓  
花落知多少〓

第一句末と偶数句末が押韻。

韻字は「杯」「催」「回」で

同じ響き。

五言絶句だが第一句も押韻。

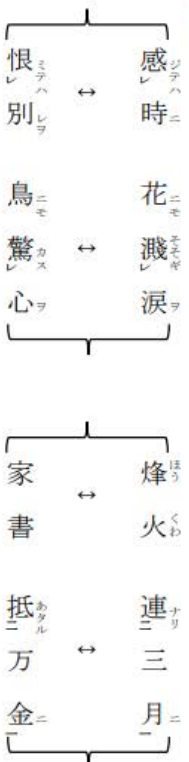
韻字は「曉」「鳥」「少」

で同じ響き。

### ▼対句

対句とは、品詞・文構造・意味内容が何らかの対応関係を持っている二つの句のことである。原則として同じ返り点をつけることができ、対称性を利用した読解も可能である。

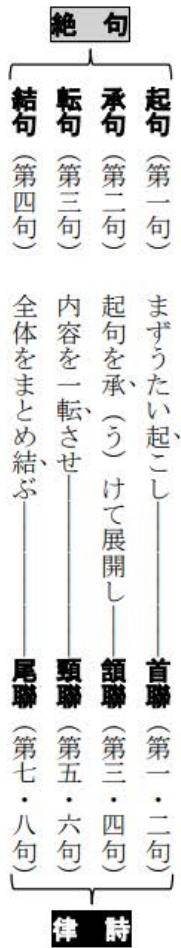
### 例 杜甫「春望」（五言律詩の頷聯と頸聯）



◆とくに律詩（五言・七言ともに）では、頷聯と頸聯をそれぞれ対句にする原則がある。

▼起承転結

起承転結とは、絶句における構成の作法のことである。律詩においては、二句ごとのまとまりである首聯・頷聯・頸聯・尾聯が、これに相当する。



3 漢詩の構成と読解

▼一首の構成(律詩・古詩)

律詩は二句ごと(＝聯)、古詩は二句または四句ごとをひとまとまりにして解釈する。

例 李白「送友人」(五言律詩)

青山横北郭  
白水绕东城

青い山なみが町の北に横たわり、白く光る水が町の東を回って流れる

此地一为别  
孤蓬万里征

この地でいったん別れを告げれば、孤独な蓬は万里の果てまで旅する

浮云游子意  
落日故人情

定めなく漂う雲は旅行く君の心、沈む夕日は見送る私の心

揮手自兹去  
萧萧班马鸣

手を振ってここから去れば、馬も寂しげに鳴くことだよ

▼一句の構成

原則、五言は「○○／○○○」、七言は「○○／○○／○○」の区切りで解釈する。

例 柳宗元「江雪」(五言絶句の起句)

千山鳥飛絶

多くの山から、鳥の飛ぶ姿が消えて

例 杜牧「江南春」(七言絶句の承句)

水村山郭酒旗風

水辺の村、山辺の集落、酒屋の旗が風に吹かれる

1問 / 1問

次の句形の読みと意味を答えよう。

何 為 レ カ シ ヤ

〈例文〉

何 為 レ 寸 步 モ 出 テ 門 ヲ 行 カ シ ヤ

解答を見る

1問 / 1問

次の句形の読みと意味を答えよう。

莫 カ レ ヌ ル コ ト

〈例文〉

莫 カ レ 後 ル 晚 花 ノ 残 モ コ ト ハ

解答を見る

1問 / 1問

押韻している漢字をすべて選ぶ。

閑しづかニ 雪ハ  
 収メテ 擁シテ  
 乱 山  
 帙ちつヲ 堂ヲ  
 思フ 樹  
 疑 影  
 義ヲ 深ク

一 檐えん  
 穂ノ 鈴れい  
 青 不ズ  
 灯 動カ  
 万 夜  
 古ノ 沈  
 心 沈

解答

リセット

1問 / 1問

押韻している漢字をすべて選ぶ。

閑しづかニ 雪ハ  
 収メテ 擁シテ  
 乱 山  
 帙ちつヲ 堂ヲ  
 思フ 樹  
 疑 影  
 義ヲ 深ク

一 檐えん  
 穂ノ 鈴れい  
 青 不ズ  
 灯 動カ  
 万 夜  
 古ノ 沈  
 心 沈

解答

リセット

1問 / 1問

押韻している漢字をすべて選ぶ。

清 僻へき 空 去ゆけこ  
 明 地 中ニ 矣  
 期ス 交 懸カリ 三  
 再 遊 大 千  
 会ヲ 少まれニ 岳 里

莫なカレ 狡かう 海 送レバ  
 後ルル 児 末ニ 君ヲ  
 晚 教 起コル 生ズ  
 花ノ 化 長 暮  
 残そこナハルルニ 難かたカラシ 瀾らん 寒

解答

リセット

1問 / 4問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
何 ヲカ ( スル )

〈例文〉  
婦 人 何 ヲカ  
能 よクスル

解答を見る

1問 / 7問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
何 レノ 所 ニ

〈例文〉  
欲 スルカ 至 ラント 何 レノ 所 ニ

解答を見る

1問 / 5問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
不 レ 可 カラ ( ス )

〈例文〉  
此 ニレハ 是 ニレ 毒 螫 セキノ 物 不 レ 可 カラ 長 ゼシム

解答を見る

1問 / 7問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
止 ダ ( フミ )

〈例文〉  
止 ダ 有 リテ 一 男 ノミ 寵 恣 チヨウシ 過 ダ 常 ニ

解答を見る

1問 / 8問

次の句形の読みと意味を答えよう。

不<sup>ルヤ</sup>レ<sup>セ</sup> 否<sup>ヤ</sup>

〈例文〉

君<sup>ミツ</sup> 飲<sup>カフテ</sup> 嘗<sup>カフテ</sup> 不<sup>ルヤ</sup> 醉<sup>ハ</sup> 否<sup>ヤ</sup>

解答を見る

1問 / 3問

次の句形の読みと意味を答えよう。

不<sup>ルカ</sup>レ<sup>ニ</sup> 如<sup>カ</sup>

〈例文〉

不<sup>ル</sup> 如<sup>カ</sup> 学<sup>ブニ</sup> 也<sup>ナリ</sup>

解答を見る

1問 / 9問

次の句形の読みと意味を答えよう。

乎<sup>カ</sup> 乎<sup>カ</sup>

〈例文〉

亦<sup>また</sup> 将<sup>まさニ</sup> 有<sup>ラル</sup> 以<sup>ラント</sup> 利<sup>もツテ</sup> 吾<sup>スル</sup> 国<sup>コト</sup> 乎<sup>ワガ</sup> 乎<sup>カ</sup>

解答を見る

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

何<sup>ナニ</sup> 何<sup>ナニ</sup>

〈例文〉

何<sup>ナニ</sup> 苦<sup>シク</sup> 沾<sup>うるは</sup> 衣<sup>スコト</sup> 如<sup>カ</sup> 此<sup>カク</sup>

解答を見る

1問 / 4問

次の句形の読みと意味を答えよう。

若<sup>シ</sup>者

〈例文〉

若<sup>シ</sup>与<sup>フ</sup>我<sup>ニ</sup>者、皆喪<sup>ウシナフ</sup>宝<sup>ツ</sup>也<sup>ナリ</sup>。

解答を見る

1問 / 6問

次の句形の読みと意味を答えよう。

使<sup>ム</sup> A<sup>ヲシテ</sup> B<sup>ニ</sup>

〈例文〉

燕<sup>エンノ</sup>君<sup>ノ</sup>使<sup>ム</sup>人<sup>ヲシテ</sup>受<sup>ケ</sup>之<sup>ニルヲ</sup>。

解答を見る

## 螳螂の故事

○『莊子』 山本編

## 【書き下し文】

莊周 1 雕陵の樊に遊ぶ。一異鵠の南方より来たる者を睹る。翼の広さ七尺、目の大なること運寸、周の頰に感れて、栗林に集まる。莊周曰はく、「此れ何の鳥ぞや。翼殷いなるも逝かず、目大なるも睹ず。」と。裳を蹇げて躩歩し、弾を執りて之を留ふ。一蟬の方に美蔭を得て其の身を忘るるを睹る。2 螳螂翳を執りて之を搏たんとし、得を見て其の形を忘る。異鵠従ひて之を利とし、利を見て其の真を忘る。莊周恍然として曰はく、「噫、物は固より相累し、二類は相召ぶなり。」と。弾を捐てて反走す。虞人逐ひて之を諍む。

莊周反り入り、三月庭からず。3 藺且従ひて之に問ふ、「夫子何為れぞ頃間甚だ庭からざるか。」と。莊周曰はく、「吾形を守りて身を忘れ、濁水に觀て清淵に迷へり。且つ吾語を夫子に聞くに曰はく、4 『其の俗に入りては、其の俗に従ふ。』と。今吾雕陵に遊びて吾が身を忘る。異鵠 吾が頰に感れ、栗林に遊びて真を忘れ、栗林の虞人吾を以つて戮むることを為す。吾庭からざる所以なり。」と。

## 【口語訳】

莊周が雕陵といわれる園林の中を散策していた。一羽の奇妙なカササギが南から飛んでくるのを見た。翼の広さは七尺（約一六〇センチ）、目の大きさは直径一寸（二・二五センチ）で、莊周の頰をかすめて、栗林の中に舞い降りた。莊周は言った、「これは何という鳥だろうか。翼は大きいと遠くに飛ばず、目は大きいのに見えていない。」

と。服の裾をからげて早足で近づき、はじき弓を手にとって「これを射とめよう」と様子うかがった。ふと見ると、一匹のセミがちょうど格好な木陰を得て我が身の存在を忘れていた。カマキリが斧を振りあげてセミに打ちかかろうとし、獲物を見て我が身のことを忘れていた。奇妙なカササギが後ろからカマキリを獲物として狙い、利益に目がくらんで本当の自分を見失っている。莊周はぞつとして言った、「ああ、万物は本来危害を加え合い、利益と損害が互いに引き合うものなのだ。」と。「莊周は」はじき弓を捨てて引き返そうとした。栗林の番人が「栗泥棒と間違えて」追いかけてきて彼を厳しくがめた。



莊周は家に帰ってから、三か月ふさぎ込んでいた。藺且がやって来て尋ねた、「先生はどうしてこの頃ひどくふさぎ込んでおられるのですか。」と。莊周は言った、「わたしは見える形にとらわれて我が身のことを忘れ、濁った水に目を奪われて清らかな世界を見失っていた。それにわたしは先生のこんな言葉を聞いている、『俗に入りては、俗に従え。』と。この度わたしは、睢陵の園林を散策しながら自分を見失ってしまった。奇妙なカササギがわたしの額をかすめ、『わたしは』栗林をぶらぶらして自分自身の本当のあり方を忘れ、栗林の番人に〔栗泥棒と間違われて〕辱められた。私がふさぎ込んでいるのはこのためなのだ。」と。

1 睢陵の樊 「睢陵」は丘陵の名。「樊」は「藩」と同義で、囲いの中の意。立ち入りを禁じられた諸侯の園林と思われる。

2 螳螂 「螳螂」に同じ。

3 藺且 生没年未詳。莊周の弟子。

4 其の俗に入りては、其の俗に従ふ ここでは、俗世間の決まりに従うべきこと、つまり、立ち入り禁止の園林には踏み入ってはいけないことを言う。

1問 / 3問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
不可<sup>カ</sup>可<sup>カ</sup> 不可<sup>カ</sup>可<sup>カ</sup>

不可<sup>カ</sup>可<sup>カ</sup> 不可<sup>カ</sup>可<sup>カ</sup>  
与<sup>トモニ</sup>争<sup>ツ</sup>鋒<sup>ほう</sup>鋒<sup>ほう</sup>

解答を見る

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
莫<sup>シ</sup>不<sup>ム</sup> 莫<sup>シ</sup>不<sup>ム</sup>

莫<sup>シ</sup>不<sup>ム</sup> 莫<sup>シ</sup>不<sup>ム</sup>  
失<sup>ハ</sup>色<sup>シ</sup>色<sup>シ</sup>

解答を見る

1問 / 4問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
其<sup>ソレ</sup>能<sup>ノ</sup>乎<sup>ヤ</sup> 其<sup>ソレ</sup>能<sup>ノ</sup>乎<sup>ヤ</sup>

其<sup>ソレ</sup>能<sup>ノ</sup>乎<sup>ヤ</sup> 其<sup>ソレ</sup>能<sup>ノ</sup>乎<sup>ヤ</sup>  
久<sup>シカ</sup>乎<sup>ヤ</sup> 久<sup>シカ</sup>乎<sup>ヤ</sup>

解答を見る

1問 / 7問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
非<sup>ズ</sup>与<sup>ヤ</sup> 非<sup>ズ</sup>与<sup>ヤ</sup>

非<sup>ズ</sup>与<sup>ヤ</sup> 非<sup>ズ</sup>与<sup>ヤ</sup>  
子<sup>コ</sup>非<sup>ズ</sup>三<sup>さん</sup>閻<sup>えん</sup>大<sup>だい</sup>夫<sup>ふ</sup>与<sup>ヤ</sup>

解答を見る

1問 / 4問

次の句形の読みと意味を答えよう。

何許ノカ

〈例文〉

先生ハ不ギル知ラニ何許ノ人ナル也ナリ

解答を見る

1問 / 4問

次の句形の読みと意味を答えよう。

幾何ソ

〈例文〉

而シカシテ浮ハ生ハ若ニシ夢ノ為ナスコト歎ヲ幾何ソ

解答を見る

1問 / 6問

解答を見る

次の句形の読みと意味を答えよう。

A. ハ未<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub> B. ニ

〈例文〉  
 則<sub>レ</sub>吾<sub>ハ</sub>斯<sub>ニ</sub>役<sub>ノ</sub>之<sub>ハ</sub>不幸<sub>ハ</sub>未<sub>レ</sub>若<sub>カ</sub>下<sub>ニ</sub>復<sub>ニ</sub>吾<sub>ガ</sub>賦<sub>ヲ</sub>不幸<sub>ノ</sub>之<sub>ハ</sub>甚<sub>キ</sub>也<sub>ナリ</sub>

1問 / 3問

解答

リセット

押韻している漢字をすべて選ぼう。

|                  |                  |
|------------------|------------------|
| 之 <sub>ニ</sub>   | 桃 <sub>ノ</sub>   |
| 子 <sub>ノ</sub>   | 之 <sub>ノ</sub>   |
| 于 <sub>キ</sub>   | 夭 <sub>ニ</sub>   |
| 歸 <sub>トツケ</sub> | 夭 <sub>タル</sub>  |
| 宜 <sub>シカラ</sub> | 灼 <sub>シヤク</sub> |
| 其 <sub>ノ</sub>   | 灼 <sub>タリ</sub>  |
| 室 <sub>ノ</sub>   | 其 <sub>モノ</sub>  |
| 家 <sub>ニ</sub>   | 其 <sub>モノ</sub>  |
|                  | 華 <sub>ニ</sub>   |

1問 / 2問

解答

リセット

押韻している漢字をすべて選ぼう。

|                 |                   |                   |                 |
|-----------------|-------------------|-------------------|-----------------|
| 胡 <sub>ハ</sub>  | 道 <sub>ノ</sub>    | 相 <sub>ノ</sub>    | 行 <sub>キ</sub>  |
| 馬 <sub>ハ</sub>  | 路 <sub>ノ</sub>    | 去 <sub>ルコト</sub>  | 行 <sub>キ</sub>  |
| 依 <sub>ヨリ</sub> | 阻 <sub>ケハシク</sub> | 万 <sub>ノ</sub>    | 重 <sub>ネテ</sub> |
| 北 <sub>ニ</sub>  | 且 <sub>カツ</sub>   | 余 <sub>ノ</sub>    | 行 <sub>キ</sub>  |
| 風 <sub>ニ</sub>  | 長 <sub>シ</sub>    | 里 <sub>ノ</sub>    | 行 <sub>ク</sub>  |
| 越 <sub>ハ</sub>  | 会 <sub>ハ</sub>    | 各 <sub>オノオノ</sub> | 与 <sub>ト</sub>  |
| 鳥 <sub>ハ</sub>  | 面 <sub>ニ</sub>    | 在 <sub>リ</sub>    | 君 <sub>ノ</sub>  |
| 巢 <sub>クワ</sub> | 安 <sub>クレンゾ</sub> | 天 <sub>ノ</sub>    | 生 <sub>キナ</sub> |
| 南 <sub>ニ</sub>  | 可 <sub>ベケンヤ</sub> | 一 <sub>ノ</sub>    | 別 <sub>ガ</sub>  |
| 枝 <sub>ニ</sub>  | 知 <sub>ル</sub>    | 涯 <sub>ガイニ</sub>  | 離 <sub>ス</sub>  |

1問 / 1問

解答

天 通 雍<sup>よう</sup> 阿 阿<sup>あ</sup> 雖<sup>いへ</sup> 白  
 運 子<sup>ハ</sup> 端<sup>ハ</sup> 宣<sup>ハ</sup> 舒<sup>じよハ</sup> 有<sup>リ</sup> 髮<sup>ハ</sup>  
 苟<sup>いや</sup> 垂<sup>なん</sup> 年 行<sup>ゆく</sup> 已<sup>す</sup> 五 被<sup>おほ</sup>  
 如<sup>ごと</sup> 九<sup>ク</sup> 十 志 二 男 兩<sup>ニ</sup>  
 此<sup>かク</sup> 齡<sup>ニ</sup> 三 学 八 兒 鬢<sup>びん</sup>

リセット

且<sup>しほ</sup> 但<sup>た</sup> 不<sup>レ</sup> 而<sup>しか</sup> 懶<sup>らん</sup> 総<sup>ズ</sup> 肌<sup>き</sup>  
 進<sup>メ</sup> 見<sup>ミ</sup> 識<sup>シ</sup> 不<sup>レ</sup> 情<sup>だ</sup> 不<sup>レ</sup> 膚<sup>く</sup>  
 杯<sup>ハ</sup> 梨<sup>リ</sup> 六<sup>ロク</sup> 愛<sup>セ</sup> 故<sup>コ</sup> 好<sup>マ</sup> 不<sup>レ</sup> 復<sup>マ</sup>  
 中<sup>チウ</sup> 与<sup>ヨ</sup> 与<sup>ト</sup> 文<sup>ブン</sup> 無<sup>シ</sup> 紙<sup>シ</sup> 復<sup>マ</sup>  
 物<sup>モノ</sup> 栗<sup>リ</sup> 七<sup>シチ</sup> 術<sup>ジュツ</sup> 匹<sup>ヒツ</sup> 筆<sup>ペン</sup> 実<sup>ミ</sup>

1問 / 6問

解答

老 暮<sup>レ</sup> 翁 投<sup>ズ</sup> 踰<sup>コエ</sup> 石<sup>せき</sup> 牆<sup>かき</sup> 壕<sup>がう</sup> 走<sup>リ</sup> 村<sup>ニ</sup>

リセット

老 有<sup>リ</sup> 婦 吏 出<sup>デ</sup> 夜 門<sup>カド</sup> 捉<sup>ツ</sup> 看<sup>ミル</sup> 人<sup>ヒト</sup>

押韻している漢字をすべて選ぶ。

1問 / 31問

解答

廻<sup>めぐ</sup> 天 楊 漢 皇 重<sup>シ</sup> 色<sup>シ</sup> 思<sup>フ</sup> 傾<sup>ニ</sup> 国<sup>ヲ</sup>  
 眸<sup>ひとみ</sup> 生<sup>シ</sup> 家<sup>ニ</sup> 有<sup>リ</sup> 女<sup>むすめ</sup> 初<sup>メ</sup> 長<sup>ニ</sup> 成<sup>ス</sup>  
 一 麗 質<sup>ハ</sup> 難<sup>ク</sup> 自<sup>おの</sup> 棄<sup>ツカ</sup>  
 笑<sup>スレバ</sup> 百 媚<sup>び</sup> 生<sup>ジ</sup>

リセット

六<sup>りく</sup> 宮<sup>ノ</sup> 粉 黛<sup>たい</sup> 無<sup>シ</sup> 顔<sup>シ</sup> 色<sup>シ</sup>  
 一 朝 選<sup>バ</sup> 在<sup>リ</sup> 君<sup>ニ</sup> 王<sup>ノ</sup> 側<sup>かたはら</sup>  
 養<sup>ハ</sup> 在<sup>リ</sup> 深 閨<sup>けい</sup> 人<sup>ニ</sup> 未<sup>いま</sup> 識<sup>シ</sup>  
 御<sup>ぎよ</sup> 宇<sup>う</sup> 多 年 求<sup>ム</sup> 不<sup>レ</sup> 得<sup>ズ</sup>

押韻している漢字をすべて選ぶ。

## 源氏物語

紫式部

## 桐壺巻・口語訳（抄）

どの（帝の）御代であったか、女御や更衣が大勢お仕えしていらつしやつた中に、それほど高貴な身分ではない方で、きわだつて帝のご寵愛を受けていらつしやる方がいた。（桐壺の更衣である。）（宮仕えの）最初から自分こそは（帝の寵愛を得よう）と自負していらつしやつた（女御の）方々は、（この方を）目に余るものと、蔑んだり、妬んだりなさる。（この方と）同じ身分、それより身分の低い更衣たちは、（女御の方々よりも）いっそう心穏やかでない。朝夕の宮仕えにつけても、ひどく他の女性たちの心を騒がせるばかりで、恨みを受けることが積もつたのだろうか、ひどく病気がちになつてゆき、何となく心細そうに実家に下がることが多いのを、（帝は）いよいよたまらなほどいとしく不憫なものにお思ひになつて、人々の非難をまはばかることがおできにならず、世の語りぐさにもなつてしまひそうなご待遇ぶりである。上達部や殿上人なども、困つたことだと目をそらしそらしして、まことに見てはられないほどの更衣のご寵愛の受けようである。中国でも、このような原因によつて、世の中も乱れ、悪いことになつたものだど、だんだん世間一般でも、苦々しく、人々のもの悩みの種になつて、楊貴妃の先例までも引き合ひに出してしまひそうになつていくので、（更衣は）とてもいたたまれないことが多いけれど、恐れ多い帝のご寵愛が比類ないのを頼りとして、宮仕えをしていらつしやる。

父の大納言は亡くなって、母である（大納言の）北の方が、古い家柄の出の人で、教養ある人であつて、両親がうちそろひ、現在世間の評判が華々しい御方々にもさほど劣らず、（宮中の）何事の儀式の折にもとりはからつていらつしやつたけれども、これといたつたしつかりした後見人がいないので、特別なことのあるときは、やはり頼るところもなく、心細い様子である。

前世においても、ご宿縁が深かつたのだろうか、世にまたとなく清らかで美しい玉のような皇子（のちの光源氏）までもお生まれになつた。（帝は）早く（見たい）と待ち遠しくお思ひになつて、（その若君を）急ぎ参内させて御覧になると、めつたにない幼子のお顔立ちである。第一皇子は、右大臣の（姫君である）女御の御腹（より生まれた皇子）であつて、後見がしつかりし、疑いない皇太子（になられるお方）として、世間でも大切にお世話申し上げているが、この（第二皇子の）照り映えるお美しさにはお並びになりようもなかつたので、（帝は第一皇子に対しては）並ひととおりの大切になさる御思ひであつて、この君を、かわいい秘蔵っ子とお思ひになり大切にお世話なさるとはこのうえない。





もともと（更衣は）並みの女官のような天皇のそば勤めをなさるはずの身分ではなかった。世間での評価もたいへん高く、身分の高い人らしく見えたが、（帝が）無理におそばにつき添わせなさるあまりに、しかるべき管弦のお遊びの折々や、どのような事でも由緒ある行事の折々には、まっ先に参上させなさる、またあるときにはお寝過ごしになって、そのまま（翌日も）おそばにお任せさせなさるなど、無理やりにおそばから下からせないよう待遇なさっていたうちに、自然と身分の軽い人にも見えたのだけれど、この皇子がお生まれになってからは、たいそう格別に待遇しようとお心づもりなさっていたので、東宮（皇太子）にも、悪くすると、この皇子がおつきになるはずのように見えると、一の皇子の（母である弘徽殿の）女御はお疑いになっていた。（この女御は）ほかの方より先に入内なさって、（帝の）大切にお思いになるお気持ちは並々でなく、皇女たちなどもいらっしやるので、この御方のお諫めだけを、やはり氣遣いなさり、氣の毒なこととお思い申し上げていらっしやった。

（更衣は帝の）恐れ多いご庇護を頼り申し上げるのだけれど、（一方では）蔑み、欠点をお探しになる人は多く、自分の身はか弱くはかない様子であって、かえって（ご寵愛がなかったらよかったのという）思い悩みをなさる。（その更衣の）お部屋は桐壺である。

多くの女御・更衣の方々（の部屋の前）を素通りなさって、（桐壺の更衣の部屋への）ひっきりなしの帝のお通りによって、そうした方々が気が気でなくていらっしやるのも、いかにも当然のことと思われた。（更衣が帝のもとへ）参上なさる際も、あまりたび重なるときには、打橋や渡殿のあちらこちらの通り道に、けしからぬことをしては、（更衣の）お送りお迎えの女房たちの衣服の裾が（汚れて）、耐えられないほど不都合なこともある。またあるときには、どうしても通らなければならぬ馬道の（両端の）戸を閉めて（更衣を）閉じこめ、（戸の）こちら側とあちら側で示し合わせて、進むも退くもできないようにして困らせなさるときも多いのである。何かにつけて、数えきれないほどつらいことばかりが増えるので、（更衣が）とてもひどく思いつめているのを、（帝は）いっそう不憫なものとお覧になって、後涼殿にもとお仕えなさる更衣の部屋をほかにお移しになって、（その部屋を桐壺の更衣に）上局としてお与えになる。ほかに移された更衣の恨みは、まして晴らしようがない。

その年の夏、御息所「桐壺の更衣」は、ふとした病気にかかって、（養生のために）実家にご退出なさろうとするが、（帝は）お暇を全くお許しにならない。ここ数年来、病気がちがいつものことになっていらっしやったので、（帝はそうした更衣の様子を見慣れなさっていて、「このままもうしばらく様子を見よ。」とばかり仰せになるうちに、日に日に病状が重くおなりになって、ほんの五、六日の間に、ひどく衰弱するの、（更衣の）母君が涙ながらに帝にお願い申し上げて、実家に下がらせ申し上げなさる。このようなときにも、（宮中を死で穢すような、）あってはならない不面目な事態となつてはたいへんだと、氣配りをして、若君は（宮中に）お残り申し上げて、人目につかないように退出なさる。

(宮中では死の穢れを忌む) きまりがあることなので、(帝は) そうむやみにお引



留めになることもできず、(帝というご身分柄、) お見送りすることさえもままならぬ  
い心もとなさを、言いようもなく(悲しく) 思われなさる。実につやつやとして美し  
く、いかにもかわいらしい人が、(今は) すっかり面やつれして、まことにしみじみと  
悲しみにうち沈みながら、(それを) 言葉に出して申し上げることもできず、生きてい  
るのかいないのかわからないほどで絶え入りそうになっていらつしやるのを御覧になる  
と、(帝は) 後先のご分別もおなくしになり、あらん限りのことを、涙ながらにお約束  
あそばすのだが、(更衣は) お返事を申し上げることもおできにならず、まなざしなど  
もひどくだるそうな様子で、(ふだんよりも) いっそうなよなよとして、自他の区別も  
つかないほど正気を失ったありさまで横になっているので、(帝は) どうしたらよいか  
と途方にくれなさる。(更衣の退出にあたって、特別に) 輦車てんぐるまをお許しになる宣旨など  
を仰せになってからも、また(更衣の部屋に) お入りになって、どうしても手放すこと  
がおできにならない。「(人それぞれ決められている) 死出の道にも、死に遅れたり先立  
つたりはするまいとお約束なさったのに。いくらなんでも(私を) 置いては行けません  
い。」と仰せになるのを、更衣も(帝のお気持ちを) 本当においたわしいことと拝見し  
て、

(帝は) お胸がいつぱいにふさがるばかりで、全くうとうとすることもできず、夜を  
明かしかねておいでになる。(お見舞いの) お使者が行き来する時間もたたないのに、  
それでも気がかりなお気持ちをしきりにお漏らしになっておられたが、「夜中を過ぎる  
ころに、息をお引き取りになった。」と言って(更衣の家の者たちが) 泣き騒ぐので、  
お使いの者も、すっかり気落ちして宮中に帰参した。(この知らせを) お聞きあそばす  
(帝の) 動転するお気持ち、何のご分別もつかないご様子で、部屋に閉じこもっておい  
でになる。

(帝は、) 若君を、このような状況でも(おそばに置いて) 御覧になっていたとお  
思いあそばすけれども、こうした母君の喪中に宮中に伺候なさるといのは、前例のな  
いことなので、ご退出ということになる。(若君は、) 何事が起きたのだろうかともお  
思いになっておらず、おそばの人々を取り乱して泣き、帝もお涙をとめどなく流してい  
らつしやるのを、不思議そうにながめていらつしやるばかり。普通の場合でさえ、この  
ような(母との) 死別が悲しくないということはないのに、なおさら身にしみて哀れで  
何とも言いようがない。

あっけなく日数が過ぎて、(更衣の) 七日七日の法事などにも、(帝は) 懇ろにご弔  
問あそばされる。時がたつにつれて、どうしようもなく悲しくお感じになられるので、  
女御、更衣たちの夜のご伺候なども全くなさろうともせず、ただ涙にひたって夜を明か  
し日を暮していらつしやるから、(そのご悲嘆ぶりを) 拝見する人までもが、涙の露に  
しめる秋である。「亡くなった後まで、胸の晴れそうもないご寵愛だこと。」と、弘徽

殿の女御などは、相変らず容赦なしにおっしやるのであった。(帝は、)一の皇子を



覽になるにつけても、(今は更衣の実家に住んでいる)若君への恋しさばかりが思い起こされては、気心の知れた女房や御乳母などを、たびたび(更衣の実家に)お遣わしになり、若君の様子をお尋ねになる。

野分めいた風が吹いて、急に肌寒さを感じさせる夕暮れのころ、(帝は)常にもましとお思い出しあそばすことが多くて、おんげい鞭負の命婦みづぶという女房を(更衣の実家に)お遣わしになる。

夕方の月が美しい時刻に(命婦を)お送り出しなさせて、(ご自身は)そのままぼんやりとももの思いにふけておいでになる。このような夕べには、(更衣の生前は、よく)管弦の遊びなどをお催しになったものだが、格別上手に琴の音をかき鳴らし、ふと帝のお耳に入れる言葉も、ほかの人とは違っていた(今は亡き更衣の)様子や顔つきが、幻となってひたと身に寄り添っているかのようにお感じになるにつけても、(はっきりした夢の中で会うのと、それほど変わらないものだど歌にある)「闇の現うつ(暗闇の中で現実)に会うこと」にもやはり及ばないのだった。(それほど、はかないものであったよ。)

命婦が、更衣の邸やしきに到着し、(車を)門内に引き入れるなり、(邸内の)様子に哀趣を感じる。(更衣の母君は、夫に先立たれて)独り住まいであるけれども、娘の更衣一人を大事に育て上げなされるために、あれこれと手入れして見苦しくないように過ごしておられた、それが、亡き娘を思う悲しみにかきくられて泣きな臥ふしていらっしやるうちに、草も高く生い茂り、野分にいつそう荒れた感じになって、月の光だけが、生い茂る雑草にもさえぎられずさしこんでいる。

(命婦を)南に面した部屋に招じ入れて、母君もすぐには何もおっしやられない。「今まで生き長らえておりますのがまことにつらくございますのに、このような(帝からの恐れ多い)お使者が草深い家の草の露を分けてお訪ねくださるにつけても、まことにお恥ずかしいことだ」と言って、いかにもこらえきれぬかのようにお泣きになる。

(命婦は)「お訪ねしてみますと、いつそうおいたわしくて、魂も消え失せるようで。』なましのすけと典侍が帝に申し上げておられました(この私わたくしとき)ものわきまえのわきまえとせぬ者の心持ちにも、(典侍から)聞いていた通りたえがたくたございます。』と行って、少し気持ちを落ち着けてから、帝のお言葉をお伝え申しあげる。

『(更衣が亡くなって)しばらくはこれは夢ではないのかとばかり途方にくれるほかなかったが、だんだんと気持ちが静まってくるにつけて、(かえって、夢ではないのだから)覚めようはずもなくこらえきれないこの悲しさは、どうしたらよいものかと相談できる人さえ(宮中には)いないのだから、(あなたが)内々で宮中に参ってくれないものか。若君が、ひどく気がかりなありさまで、涙がちの更衣の邸で暮らしておいでになるのもいたわしく思われるから、早く参内なされよ。』などと、(帝は)はっきりと最後まで仰せにもなれず、何度も涙におむせかえりになっては、それでも一方では、みなも私を拝してお気弱なことだと思っただろうかと、気がねなさらないで様子

おいたわしくて、（お言葉を）終わりまで承りきらないようなありさまで退出して参りました。」と言って、（帝の）お手紙を差し上げる。



「（悲しみゆえに）目も見えませんが、このように恐れ多いお言葉を光といたしまして。」と言って、（母君は）御覧になる。（帝からのお手紙には、）

時が経てば、少しは気の紛れることもあろうかと、（そのことを）心待ちに過ごしている月日（が流れる）につれて、まことに悲しみにたえがたいのは（私にはもう）どうしようもないことです。幼い若君をどうしているかといつも案じながら、あなたと一緒に養育できないのが気がかりなのです。今は、やはり（この私を）、亡き人の形見と違って宮中に参られよ。

若君はお休みになってしまわれていた。「（若君に）お目見え申し上げて、詳しく（その）ご様子を奏上いたしますが、（帝も）お待ちになっていらっしやることでしょうし、（お目見えしていると）きっと夜も更けてしまうことでしょう。」と言って（命婦は宮中への帰りを）急ぐ。

「（子を思うゆえの）悲しみに迷う親心の闇もこらえられそうになく、その一端だけでも、晴らすことができませんくらいにお話し申し上げたいがございますので、（公のお使者としてでなく）私的にもごゆるりとおいでなさってください。この数年来、（更衣の叙位のような）うれしく晴れがましい機会にお立ち寄りいただきましたのに、こうした（悲しい）お言づてのお使者としてお目にかからせていただきますとは、本当に無情な巡り合わせでございます。（亡き娘は、）生まれたときから（私どもが）望みを託していた子でして、（父親の）故大納言が臨終の際まで、ただ、『この子の宮仕えの宿願を、必ず成就させてさしあげよ。私が亡くなったからといって、不本意に志を捨ててはならない。』と、何度も言い含められておりましたので、しっかりとした後見をする人もない宮仕えは、かえてほしい方がよいことと存じてはおりますものの、ただあの（亡くなった夫の）遺言に背くまいというだけのことで宮仕えに出させていましたが、身に余るまでの（帝の）ご寵愛が、何かにつけてもつたいなくございましたので、（娘は）人並みにも扱われない恥を隠しながら、お付き合いをしなさっていたようですが、人の妬みが深く積もって、気の休まらないことがますます多くなってきましたところ、（天寿を全うしたのではない）自然ではないありさまで、とうとうこのようなことになってしまったのですから、かえて恨めしいことだと、恐れ多い（帝の）ご寵愛をつい（そのように）存じ上げてしまうのでございます。これもまた、（子を思う故に目が曇ってしまった）どうしようもない親心の闇でございます。」と言いもおおせず、涙にむせかえっておいになるうちに夜も更けた。

「帝も（それは）同じことです。『わが心ながら、世間の人が見て驚くほどに一途に（更衣のことが）いとしく思われていたのも、（思えば、私と更衣の仲が）長くは続かずがなかったからなのだなあと、今となってはつらく思われる因縁だった。（自分としては）ほんのわずかでも他人の気を損ねるようなことは決してしてはいけないと思ってるが、ただこの人〔更衣〕のために、受けなくてもよい人の恨みをたくさん受けたあげくに、このように後に残されて、心を静めるような方法がないのだから、ますますみっともない愚か者となってしまったのにつけても、（私と更衣との）前世の因縁が（どのようなものであったのか）知りたいものだ。』と繰り返し仰せられては、涙にくれてばかりいらっしやいます。」と（命婦は）語って言葉も尽きない。涙ながらに、「夜もすっかり更けてしまいましたので、今夜のうちに（帝に）ご返事を奏上いたしましたように」と急いで帰参する。

（桐壺）

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

使<sub>ム</sub> A <sub>ヲシテ</sub> B<sub>ニ</sub>

〈例文〉  
楚<sub>ソ</sub>王<sub>ニ</sub>使<sub>ム</sub>大夫<sub>ニ</sub>二人<sub>ヲシテ</sub>往<sub>ル</sub>先<sub>ニ</sub>焉<sub>ニ</sub>

解答を見る

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

莫<sub>シ</sub> A<sub>ハ</sub> 於<sub>ニ</sub> B<sub>ヨリ</sub> (ニ)

〈例文〉  
天<sub>ノ</sub>下<sub>ニ</sub>莫<sub>シ</sub>柔<sub>ニ</sub>弱<sub>ナルハ</sub>於<sub>ニ</sub>水<sub>ヨリ</sub>

解答を見る

1問 / 3問

次の句形の読みと意味を答えよう。

使<sub>ム</sub> A <sub>ヲシテ</sub> B<sub>ニ</sub>

〈例文〉  
而<sub>シテ</sub>使<sub>ム</sub>管仲<sub>ヲシテ</sub>別<sub>ニ</sub>將<sub>ル</sub>兵<sub>ヲ</sub>遮<sub>ラ</sub>莒<sub>ノ</sub>道<sub>ヲ</sub>

解答を見る

1問 / 5問

次の句形の読みと意味を答えよう。

誰<sub>カ</sub> ( ) 誰<sub>カ</sub>

〈例文〉  
誰<sub>カ</sub>加<sub>フル</sub>衣<sub>ヲ</sub>者<sub>ゾ</sub>

解答を見る

1問 / 6問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
使ム (セ)

〈例文〉

乃陰使召孫臆

解答を見る

1問 / 11問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
嘖 (セ)

〈例文〉

嘖子母読書遊説安得此辱乎

解答を見る

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
豈哉 (スル)ヤ

〈例文〉

荆卿豈有意哉

解答を見る

1問 / 5問

次の句形の読みと意味を答えよう。  
不取 (セ)

〈例文〉

不取拳兵以逆軍吏

解答を見る